

[illegible]

専門	選択	不規則信号解析	0022	学修単位	2			2								井上 一成	
専門	選択	電磁気学特論	0023	学修単位	2			2								梶村 好宏	
専門	選択	材料力学特論	0024	学修単位	2			2								森下 智博	
専門	選択	生産システム	0025	学修単位	2	2										大森 茂俊	
専門	選択	エネルギー工学Ⅰ	0026	学修単位	2			2								金田 昌之	
専門	選択	情報通信システム	0027	学修単位	2	2										瀧田 慎	
専門	選択	真空工学	0028	学修単位	2			2								藤野 達士	
専門	選択	トライボロジー	0029	学修単位	2			2								阿保 政義	
専門	選択	電気回路特論	0030	学修単位	2			2								細川 篤	
専門	選択	伝熱工学特論	0031	学修単位	2			2								國峰 寛司	
一般	選択	国語表現法	0031	学修単位	2					2						武田 悠希	
一般	選択	環境科学	0032	学修単位	2					2						渡部 守義, 平石 年弘	
一般	選択	異文化理解	0033	履修単位	2					2				2		松田 安隆	
専門	必修	エンジニアリングプレゼンテーションⅡ	0034	履修単位	1									2		境田 彰芳, 平石 年弘	
専門	必修	専攻科特別研究	0035	履修単位	8					8				8		M E全	
専門	選択	メカトロシステム	0036	学修単位	2					2						関森 大介	
専門	選択	計算力学	0037	学修単位	2					2						國峰 寛司	
専門	選択	エネルギー工学Ⅱ	0038	学修単位	2					2						田中 誠一	
専門	選択	材料強度学	0039	学修単位	2									2		境田 彰芳	
専門	選択	光デバイス	0040	学修単位	2					2						周山 大慶	
専門	選択	アルゴリズム理論	0041	学修単位	2									2		濱田 幸弘	
専門	選択	電子回路特論	0042	学修単位	2					2						井上 一成	
専門	選択	情報数理工学	0043	学修単位	2					2						大西 鮎美	
専門	選択	デジタル回路設計	0044	学修単位	2					2						野村 隼人	
専門	選択	最適化デザイン	0045	学修単位	2									2		史 鳳輝	
専門	選択	マイクロマシン	0046	学修単位	2									2		松塚 直樹	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	技術者倫理
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書:齊藤・坂下編:「はじめての工学倫理」、昭和堂その他、適宜プリントを配付					
担当教員	伊藤 均					
到達目標						
(1)技術者の業務はどのような特徴を持つか、またそれに対応して、技術者の負う倫理的責任はどのような内容のものかを理解すること。 (2)技術者はその日常業務において、どのような倫理的問題に直面する可能性があるかを理解すること。 (3)技術者に関係する、特に上記の問題に対処する際に重要な社会制度にはどのようなものがあるかについて、十分な知識を身に付けること。 (4)(1)～(3)の理解や知識に基づいて、技術者が出会う典型的な倫理問題に対して、有効な対処策を考案できる能力を身に付けること。 以上のうち(1)～(3)は学習・教育目標(C)に、(4)は学習・教育目標(A)に関係する。 目標を達成するためには指定テキストの事前学習が必要である。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	技術者業務の特徴と技術者の倫理的責任を十分に理解している。		技術者業務の特徴と技術者の倫理的責任を理解している。		技術者業務の特徴と技術者の倫理的責任を十分に理解できていない。	
評価項目2	技術者はどのような倫理的問題に直面する可能性があるかを十分に理解している。		技術者はどのような倫理的問題に直面する可能性があるかを理解している。		技術者はどのような倫理的問題に直面する可能性があるかを理解できていない。	
評価項目3	技術者に関係する重要な社会制度について十分な知識を身に付けている。		技術者に関係する重要な社会制度について知識を身に付けている。		技術者に関係する重要な社会制度について知識を身に付けていない。	
評価項目4	技術者が出会う倫理問題に関して有効な対処策を考案できる能力を十分に身に付けている。		技術者が出会う倫理問題に関して有効な対処策を考案できる能力を身に付けている。		技術者が出会う倫理問題に関して有効な対処策を考案できる能力を身に付けていない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (C)						
教育方法等						
概要	現代人の日常生活は、高度に発達した科学技術の上に成り立っている。この科学技術は、専門知識を身に付けた技術者によって運用されており、技術者は、その専門知識に基づいて、科学技術を適切に運用していく責任を、社会に対して負っているのである。この責任は、現在その重要性を増してきており、また社会の関心も高まっている。この授業では、技術者の負うこの責任に関してその具体的な内容、それを果たす際どのような問題が生じるか、また、その対処手段について考察する。					
授業の進め方・方法	講義形式で行う。毎回最後に授業内容のまとめや意見等を書いて提出するようにし、それを小レポートとして評価する。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。授業では、ビデオや新聞記事等を使用し、昨今の事故や企業モラルに関する事例を多く取り上げる。授業中、適宜参考資料等も紹介するので、専門分野以外のことにも広く関心を持って取り組んでほしい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	なぜ技術者倫理なのか 技術者を志すものがなぜ倫理を学ぶ必要があるのか。 技術者と倫理とのつながりを、今日の社会的背景や、工学系学協会による倫理綱領の制定等から明らかにし、学び、意義を確認する。		技術者と倫理とのつながりを、今日の社会背景や倫理綱領等との関係から理解する。	
		2週	チャレンジャー号事故1 技術者倫理においてもっとも有名な、スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を取り上げ、組織における技術者の判断と、経営者の判断について述べる。		技術者判断と経営者判断の特徴や関係に関して理解する。	
		3週	チャレンジャー号事故2 前回に続いて、チャレンジャー号事故の事例を手掛かりとして、組織におけるリスクマネジメントが有効に機能するために、技術者はどのような責任を負うかを考える。		組織のリスクマネジメントのために技術者に要求される責任や能力を理解する。	
		4週	東海村JCO臨界事故1 JCOの臨界事故を取り上げ、日本の製造業を支えてきた改善活動の意義と、それが直面している課題、またそれに対して技術者がどのように関わるべきかを考える。		改善活動の意義と課題に関して理解する。	
		5週	東海村JCO臨界事故2 前回に続いて、JCO臨界事故を取り上げ、集団としての組織が陥りやすい集団思考について述べ、安全や品質を確保するために、技術者はそれにいかに対処すべきかを述べる。		集団志向の特徴と、それに対処して安全を実現するために必要な能力を習得する。	
		6週	内部告発1 近年導入された公益通報者保護制度に関して、その趣旨、現行法に対する批判、さらにはこの制度と技術者との関係について解説する。		公益通報者保護制度についての知識を習得し、その課題を理解する。	
		7週	内部告発2 前回に引き続き、内部告発を取り上げる。コンプライアンス体制充実の一環として、相談窓口等を設置する企業が増加している。この動きが、組織と個人の関係に有する意義を考察する。		適切な組織内行動をするためにはどのようなことに留意しなければならないかを理解する。	

4thQ	8週	製造物責任法 技術者にとってもっとも関係の深い法律と言われる製造物責任法に関して、その内容を確認し、技術者がそれをモノづくりの思想として定着させていくことが重要であることを述べる。	製造物責任法についての適切な知識を習得し、ものづくりの思想として活用できるようにする。
	9週	知的財産 特許制度や著作権などの制度が、技術の開発等にとって有する意義を確認するとともに、情報技術の発達等による、この制度の抱える課題等を考察する。	知的財産権についての知識を習得し、ものづくりにおけるその意義を理解する。
	10週	ボパール事故1 史上最大の産業事故といわれる、インド・ボパールでの農薬工場事故を取り上げ、グローバル化の進展で今後ますます増加するであろう、海外での技術活動に伴う問題について述べる。	海外での技術活動において直面する問題についての知識を習得する。
	11週	ボパール事故2 前回の内容に基づき、技術の展開には、それを取り巻く社会条件や文化、歴史、思想等との相互作用が深く関わり、技術者がそれを考慮に入れる必要があることを考察する。	前回学習した内容に対する理解をさらに深め、海外での技術活動のために有効な方法を習得する。
	12週	六本木ヒルズ回転ドア事故1 回転ドアの事故の後に行われたドアプロジェクトの活動を紹介し、失敗学の考え方や意義、リスク管理におけるハインリッヒの法則等について述べる。	失敗学とハインリッヒの法則についての知識を習得する。
	13週	六本木ヒルズ回転ドア事故2 前回の内容に基づき、技術者もまた、其々が技術者としての文化を背景に持っており、それに起因する問題を克服するために、知識の伝承をいかに行うかが重要であることを述べる。	技術を理解し、有効に活用するためには、技術思想を的確に把握し、伝えることが必要であることを理解する。
	14週	ユニバーサルデザイン 新たな技術の展開は、新たな権力闘争や差別を生み出す政治的側面を有すること、それに対し、ユニバーサルデザインの試みは、技術を民主化する試みであることを確認する。	ユニバーサルデザインという思想と、それを実現するために必要な制度について理解する。
	15週	技術者倫理の射程 技術者による新たな技術開発は、情報社会や医療といった分野にさまざまな影響をもたらしている。技術者は、これら他の分野の倫理とどのようなかわりを持つべきなのかを考察する。	技術者と現代社会との関係、技術者は社会においてどのように位置づけられるべきかを理解する。
	16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		最終レポート	小レポート・意見発表	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	経営科学
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	加護野忠男、吉村典久『1からの経営学』碩学舎.時事トピックスなど補足項目を説明する場合は適宜レジュメを配布する。 参考図書は授業の中で紹介する。				
担当教員	中尾 光宏				
到達目標					
(1) 現実社会、とりわけ企業・産業・市場に関わる諸現象を捉える際に有効な、社会科学的分析概念の知識を得ること（学習教育目標(A)）。 (2) 経営活動・企業行動・市場のメカニズムを科学的に理解すること（学習教育目標(A)(C)）。 (3) 経済活動と社会の豊かさの関係を理解すること（学習教育目標(A)(C)）。 (4) 社会を理解する「道具」としての社会科学の有効性を体感すること。また、意思決定を助けるツールとしての科学的アプローチを習得し、同様の手段を自らが関わる具体的場面に援用でき、適切な理解・判断ができること（学習教育目標(A)(C)）。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	経営学の扱う領域、目的、社会科学的方法など、経営学の基本的な知識を理解し十分運用ができる		経営学の扱う領域、目的、社会科学的方法など、経営学の基本的な知識を理解しているため初歩的な運用が可		経営学の扱う領域、目的、社会科学的方法など、経営学の基本的な知識が不足しているため、運用もできない
評価項目2	日常の授業で取り上げる経営問題について、解決策を提示することができる		日常の授業で取り上げる経営問題について、解決策は提示できずとも問題の構造は理解できている。		日常の授業で取り上げる経営問題について、関心もなく解決策はおろか経営問題の構造すら理解できていない
評価項目3	身近な企業をケースとして扱う場合、経営学の知識を使い自らの力で分析し内容が理解できる		身近な企業をケースとして取り扱う場合、断片的な経営学知識の運用は可能		身近な企業をケースとして扱う場合、経営学の理解が不十分で具体的な分析に至るまでのスキルが不足している
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (C)					
教育方法等					
概要	この科目は、現役の経営管理コンサルタントである教員が、実務経験を活かし、経営学全般について最新の事例を元に講義形式で授業を行うものである。具体的にはビジネス活動・マネジメント活動の諸側面(企業・経営組織・経営戦略・マーケティング・人的資源管理・企業と法など)について、事例を挙げながら、汎用性のある知識として活用できることを目的とする。また社会科学の考え方を理解することも、合わせて目的とする。				
授業の進め方・方法	経営学の骨格を自身で理解していただくため事前に教科書の該当箇所の読了を要す。そのうえで最近発生した企業での事象について、適宜レジュメを配布し、教科書の骨組みを崩さず主体となるテーマを最新事象でもって説明する。合わせて理解を促進させるためにパワーポイントなども利用する。基本的に板書書き写しはない				
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。経営学は社会情勢と極めて密接に関係している。日頃から時事問題への関心を持ちながら授業に臨むこと。予備知識は必要ではないが、授業の前にあらかじめ教科書の該当部分に目を通しておくこと。授業では一方的に講義を行うことは想定していない。時に議論を通じて内容を深めていくこともある。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	経営学の全体像 「経営学」とはどのような学問なのか、社会科学とはどういったものなのか考える	普段学習している自然科学と社会科学との違いについて十分理解する	
		2週	企業経営の全体像 組織と経営、企業組織と外部環境とのやりとりをモデルとして概観していく	人の集まりである会社をモデルとして理解する方法を学ぶ	
		3週	企業と会社 企業形態として一般的な「株式会社」とは何か。法制度との関係も踏まえながら考える	営利企業の大多数を占める株式会社と、そこで扱われている株式とはどういったものなのか理解する	
		4週	企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 企業経営におけるお金と人との関わり合いについて、市場や法制度を踏まえ検討する	2週目で提示したモデルのうち、外部とのカネのやり取りを理解する	
		5週	企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり どのように製品やサービスを提供するのか。マーケティングとはどういったものなのかを考える	2週目で提示したモデルのうち、外部に販売する製品やサービスをいかにして販売するのか理解する	
		6週	競争戦略のマネジメント(その1) 他社との競争に勝つためにどのようにすればよいのか。そのための戦略というものは一体何なのか。また類似する用語としての戦術とは何か。まずはコンセプトについて把握する	戦略と戦術について、戦争をもとにいかに関営学にコンセプトが転用されたのか理解する	
		7週	競争戦略のマネジメント(その2) 戦略という用語は本来、軍事用語である。企業競争の場で他社と戦うために、どのような方策が用いられているのか具体的に考える	実際の戦争の戦い方と、経営の戦い方とは異なる。具体例でその違いを理解する	
		8週	多角化戦略のマネジメント 企業が扱っている製品やサービスが一つであることは珍しい。なぜ複数の製品やサービスを持つことになるのかを考える	経営では多角化と集中が存在する。その長所短所を理解する	
	2ndQ	9週	国際化のマネジメント 現代社会において海外を無視することはできない。企業経営においてもまた同様である。国際化するにあたり考えなければならない論点を考える	国内だけで経営をやっていると海外と接する際には様々な障壁にぶち当たる。その障壁について具体的に理解する	

		10週	マクロ組織のマネジメント 企業ではどのような役割があるのか。また企業によってはユニークな役割分担の仕方が存在する。それぞれの組織の狙いや長所や短所を考える	企業といえども大きな企業となるとヨーロッパの一つの国くらいの大きさになる。その組織構造について理解する
		11週	ミクロ組織のマネジメント 組織は人の集合体である。人がやる気になり力を合わせなければ組織はうまく機能しない。組織をうまく機能させるための理論と方法について考える	見渡せば顔と名前が一致する組織規模で、日常発生しがちな問題をいかに解決するか、その点について理解する
		12週	知的財産と経営 技術や先行優位性を担保するための知的財産制度。知的財産制度の概要から経営との関わりについて考えていく	人のまねをした製品やサービスは発案者に多大な損害を与える。国際的には創案には保護を与える決まりがある。これを理解する
		13週	経営学の広がり(その1) 日本には数多くのファミリー企業が存在する。またその多くは一般に社名も耳にしたことがない企業である。ここではそのような企業にフォーカスをあて、その特異性について考える	有名企業よりも実態はオーナー企業が圧倒的に多い。ともすればブラック企業とひとくりにされがちなこういった企業群の実態を理解する
		14週	経営学の広がり(その2) 「株式会社」以外にも多様な形態の組織が存在している。病院もその一つである。ここでは病院にフォーカスをあてつつ、他の様々な組織形態と経営との関係について考える	非営利企業にも営利企業の考え方が必要である。また経営で異なる点も存在する。そのことを病院経営をモデルに理解する
		15週	まとめ 総復習と補足	復習・補足
		16週	期末試験実施せず	期末レポートの提出

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験(期末レポート)	課題(小テスト)	相互評価	態度(出席点および授業態度)	ポートフォリオ	その他		合計
総合評価割合	50	30	0	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	0	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	解析学特論	
科目基礎情報							
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書は使用せず、各回の内容について参考資料を配布する。						
担当教員	高田 功						
到達目標							
(1) 英語で書かれた微分・積分の基礎知識を理解し、相手に伝え、問題を解く能力を獲得する。 (2) 英語で書かれた微分・積分の応用知識を理解し、相手に伝え、問題を解く能力を獲得する。 (1) は学習教育目標の D に対応し、(2) が G, H に対応している。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		英語で書かれた数学の教科書を深く理解することができる。	英語で書かれた数学の教科書をある程度理解することができる。	英語で書かれた数学の教科書を理解することができない。			
評価項目2		英語で書かれた数学の教科書で理解したことを相手に分かりやすく伝えることができる。	英語で書かれた数学の教科書で理解したことを相手にある程度伝えることができる。	英語で書かれた数学の教科書で理解したことを相手に伝えることができない。			
評価項目3		英語で書かれた微積分の問題を深く理解し解くことができる。	英語で書かれた微積分の問題をある程度理解し解くことができる。	英語で書かれた微積分の問題を解くことができない。			
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (G) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	どの分野にも関わる重要な微分・積分の基礎を理解させることを目的とし、さらにそれらの物理学や工学への応用例に触れる。						
授業の進め方・方法	英語で書かれた資料を使い、英語文献を読みその内容をゼミ形式で講義することにより、人に伝える大切さを理解することも目的とする。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	Introduction	授業の進め方を説明し、学生が担当する箇所の割り振りをする。			
		2週	Extreme Values of Functions	最大値・最小値および極値の定義を理解し、それらを求めることができる。			
		3週	The Mean Value Theorem	ロルの定理と平均値の定理を使うことができる。			
		4週	Monotonic Functions and the First Derivative Test	単調増加・単調減少の区間を決定し、導関数を使い極値を求めることができる。			
		5週	Concavity and Curve Sketching	凹凸の区間を決定し、第2次導関数を使い変曲点を見つけることができる。			
		6週	Indeterminate Forms and L'Hopital's Rule	ロピタルの定理を使い、不定形の極限値を求めることができる。			
		7週	Applied Optimization	最大値問題・最小値問題の応用例を解くことができる。			
	2ndQ	8週	Newton's Method	ニュートン法を使って、関数の値が0となるxの近似値を求めることができる。			
		9週	Antiderivatives	微分の目線から積分を導入する意味を理解できる。			
		10週	Volumes Using Cross-Sections	断面積を用い、物体の体積を求めることができる。			
		11週	Volumes Using Cylindrical Shells	Shell Method を用いて、回転体の体積を求めることができる。			
		12週	Arc Length	曲線の長さを求めることができる。			
		13週	Areas of Surfaces of Revolution	回転体の表面積を求めることができる。			
		14週	Work and Fluid Forces	力のした仕事を積分を用いて求めることができる。			
		15週	Moments and Centers of Mass	積分を使い、重心を求めることができる。			
16週	期末試験						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	ゼミ形式での講義	他の学生への質問	試験成績	レポート課題	合計		
総合評価割合	30	10	30	30	100		
基礎的能力	30	10	30	30	100		

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	バイオテクノロジー入門	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	自作プリント:「バイオテクノロジー入門」農林水産省編:「くらしの中のバイオテクノロジー」						
担当教員	倉光 利江						
到達目標							
(1) 講義を通して、バイオテクノロジーの基礎と現在の動向(特に問題点)を理解する。(D) (2) 実験を通して、微生物の特性を理解し、また、化学薬品の性質と取り扱い方法及び安全管理の手法を学ぶ。更に、実験中の想定外の反応に対して、適切な対応・解決策が取れる能力を養成する。(G) (3) 実験レポートの作成を通して、ACS(アメリカ化学会)スタイルの適切な科学論文の書き方を学ぶ。(G) (4) 各自が選択したテーマに関する研究報告を、レジメの用意から質疑応答まで本格的な学会形式で行うことによって、上手な口頭発表の方法を学ぶ。(D、E)							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		バイオテクノロジーの基礎と動向を十分に理解できる	バイオテクノロジーの基礎と動向を理解できる		バイオテクノロジーの基礎と動向を理解できない		
評価項目2		実験を通して、微生物の特性及び化学薬品の安全管理の方法を十分に理解できる	実験を通して、微生物の特性及び化学薬品の安全管理の方法を理解できる		実験を通して、微生物の特性及び化学薬品の安全管理の方法を理解できない		
評価項目3		ACSスタイルでのレポート作成を十分に実行できる	ACSスタイルでのレポート作成を実行できる		ACSスタイルでのレポート作成を実行できない		
評価項目4		学会形式での研究発表を十分に実行できる	学会形式での研究発表を実行できる		学会形式での研究発表を実行できない内容		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	バイオテクノロジーの進歩と社会との関連を、生物学や化学を専門としない学生に分かり易く伝えることを目標とする。具体的には、前半では、実験を通して培養・分類・殺菌等、微生物学の基礎を学び、その上で、増殖サイクルや酵素速度論を軸とした生物化学工学、更に、遺伝子工学の手法を学ぶ。後半では、バイオテクノロジーが人間生活に密接に関わっている様々なケース、例えば、テラーメイドの新薬開発、バイオエシックスと関連法規等を紹介することによって、バイオテクノロジーの全貌を解明していく。						
授業の進め方・方法	講義内容の理解の充実を図るため、実験・研究発表を取り入れる。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	微生物の分類及び命名法 生物界における微生物の位置付け、形態あるいは生理的性質による分類及び同定法、命名法について詳細に述べる。		微生物の分類及び命名法に関して、基本事項を習得する。		
		2週	微生物実験法 実験器具・培地、滅菌方法、単離方法、観察方法等について述べる。		微生物実験方法に関して、基本事項を習得する。		
		3週	微生物学実験 1 培地の調製、培地及び器具の殺菌を行う。各自任意の場所で植菌を行い、恒温器内で培養を行う。		微生物学実験(培地調製・殺菌・培養)に関して、基本事項を習得する。		
		4週	微生物学実験 2 肉眼及び顕微鏡による形態観察を行う。代表的な微生物の標準サンプルを対照に、大まかな分類(カビ、酵母、細菌)を行う。		微生物学実験(顕微鏡観察)に関して、基本事項を習得する。		
		5週	生物化学工学(増殖サイクル) 菌体の測定方法、増殖曲線、連続培養について述べる。尚、生物化学的な計算問題を解くことによって、物理化学の諸原理がどのように生物系に適用されているのかを理解する。		生物化学工学(増殖サイクル)に関して、基本事項を習得する。		
		6週	生物化学工学(酵素反応速度論) ミカエリス-メンテンの理論、阻害作用、触媒中心活性等について述べる。尚、生物化学的な計算問題を解くことによって、物理化学の諸原理がどのように生物系に適用されているのかを理解する。		生物化学工学(酵素反応速度論)に関して、基本事項を習得する。		
		7週	遺伝子 遺伝子の本体である DNA の構造と複製、更に、タンパク合成について述べる。		遺伝子に関して、基本事項を習得する。		
		8週	遺伝子工学 遺伝子操作の実例を述べる。シーケンシング(DNAの塩基配列の決定)、クローニング(クローンを得る技術)等の方法を紹介する。		遺伝子工学に関して、基本事項を習得する。		
	2ndQ	9週	生活とバイオ(醸造工業) アルコール類(清酒・ビール・蒸留酒)の製造工程を紹介する。更に、有機溶媒・有機酸・アミノ酸の醗酵工程についても言及する。		生活とバイオ(醸造工業)に関して、基本事項を習得する。		

		10週	生活とバイオ（膜の科学） バイオセンサ、バイオリアクタと多様化した膜の利用について、合成分子膜系と生体膜系の両者にわたって、分子レベルで適応できる拡散と反応の理論を統一的に理解する。	生活とバイオ（膜の科学）に関して、基本事項を習得する。
		11週	生活とバイオ（遺伝子組み換え農作物） 遺伝子組み換え技術の品種改良への利用と安全評価、及び、社会的受容の取り組みについて紹介する。また、食品産業へも導入されたHACCP（衛生管理）、ISO（環境監査）についても言及する。	生活とバイオ（遺伝子組み換え農作物）に関して、基本事項を習得する。
		12週	生活とバイオ（疾病） エイズやアレルギー現象から、免疫機構を知る。また、テラーメイドの新薬開発等についても言及する。	生活とバイオ（疫病）に関して、基本事項を習得する。
		13週	生活とバイオ（最近の話題） 情報生物学とベンチャーとの関係、バイオエシックスと関連法規、万能細胞等についても言及する。	生活とバイオ（最近の話題）に関して、基本事項を習得する。
		14週	殺菌工学実験 1 食品の製造を通して、加工技術や殺菌の実際を学ぶ。	殺菌工学実験に関して、基本事項を習得する。
		15週	殺菌工学実験 2 対象食品は学生の要望に基付き決定する。	殺菌工学実験に関して、基本事項を習得する。
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	実験操作	レポート	口頭発表と討論	小テスト	合計
総合評価割合	20	30	40	10	100
基礎的能力	20	30	40	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地球物理
科目基礎情報						
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は,使用しない.必要に応じて,プリント資料を配布する.					
担当教員	横山 昌彦					
到達目標						
(1)固体地球に関する物理学的性質(重力・地震波・地磁気・熱流量など)の観測手法や観測結果の特徴を学び,その意味を理解する.また,観測機器の基礎的な原理も理解する.(D) (2)(1)のような観測を用いることにより,地球内部構造・地球表層現象・地球の歴史などが,どのように解釈されているのかを学ぶ.これにより,固体地球のシステムを,総合的に理解する.(D) (3)プレートテクトニクスの概念,及びプレートテクトニクスと地球表層での変動現象や地形との関係を,理解する.これにより,地球環境や地震・火山噴火といった災害を考える上での,基礎的な知識を修得する.(A) 目標を達成するために力学・電気磁気学の基本定理を自己学習することが必要である.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	観測結果から物体の持つ物性を推定する仕組みを十分に理解できる。		観測結果から物体の持つ物性を推定する仕組みが理解できる。		観測結果から物体の持つ物性を推定する仕組みが理解できない。	
評価項目2	現代の地球に対する理解がどのような観測事実に基づいた推定であるかを十分に理解できる。		現代の地球に対する理解がどのような観測事実に基づいた推定であるかが理解できる。		現代の地球に対する理解がどのような観測事実に基づいた推定であるかが理解できない。	
評価項目3	地震や火山噴火などの自然現象をプレート・テクトニクスと言う概念を通して十分に理解できる。		地震や火山噴火などの自然現象をプレート・テクトニクスと言う概念を通して理解できる。		地震や火山噴火などの自然現象をプレート・テクトニクスと言う概念を通して理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (D)						
教育方法等						
概要	地球(主として固体地球)の構造及び性質が現在どのように理解されているのかを,講義する.地球物理学は重力,熱などの物理量を用いて定量的に捉える事が目的である為,地球を構成する物質の物性の理解を主な目的とし,各物理量の基礎的性質や観測手法についての説明も併せて行う.また,観測機器に利用されている物理法則や基本的な構造についての解説も行う.					
授業の進め方・方法	講義による					
注意点	本科目は,授業で保証する学習時間と,予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が,90時間に相当する学習内容である.授業の計画は,変更する場合がある.授業内容は,毎回の一話完結的なものではなく,連続性をもったものである. 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・地球の形と大きさ (1) ガイダンスとして,講義の方針や概要について説明する. 古代における地球の形と大きさの認識を紹介する.		「地球物理学」という学問分野の果たす役割と、物理学の発展が地球内部構造の理解に果たす役割を理解する。	
		2週	地球の形と大きさ (2) 現在認識されている地球の形(地球楕円体・ジオイド)の定義を説明する.また測位の基本についても述べる.		幾何学を用いた測位法の基礎を理解する。	
		3週	重力 重力とは何かを説明し,それを利用して得られた地球の質量・密度を示す.また,重力異常の意味について,解説する.		地球に働く重力に関する法則と重力の観測値から地球内部構造を推定する方法を理解する。	
		4週	アイソスタシー アイソスタシーについて,その概念や重力との関係を解説する.また,アイソスタシーによって起こる地殻変動現象の例を紹介する.		アイソスタシーと言う概念とそれに繋がる地球の重力の持つ特徴について理解する。	
		5週	地震波 地震波の性質を説明する.また,地震波による地下構造の探査法について,説明する.		地震波の持つ特徴とそれを利用した地震に関する情報の推定法を理解する。	
		6週	地球内部構造 (1) 地震波の解析を中心に推定されている,地球内部の大構造を紹介する.		屈折地震探査法の原理とそれを利用した地球内部構造の推定法を理解する。	
		7週	地球内部構造 (2) 地震波の解析を中心に推定されている,地球表層部の地下構造を紹介する.		反射地震探査法の原理とそれを利用した地下浅部の構造の推定法を理解する。	
		8週	地球の熱 地球内部の熱源は何であるのかを解説する.また,地球表層での熱量分布を示す.		物理学に於ける熱の持つ意味と地表での熱量分布から推定できる地球内部の状態について理解する。	
	4thQ	9週	地磁気 地球表面での磁場分布を示し,地磁気の成因について説明する.また,磁気異常について説明する.		「磁気とは何」を理解する事で、地磁気の成因について理解する。	
		10週	岩石磁化と古地磁気 岩石磁化の獲得メカニズムを解説し,それによって調べられた過去の地磁気の変動について紹介する.		過去の地磁気の情報 that 岩石中に記録される仕組みについて理解する。	

		11週	大陸の移動 古典的なウエゲナの大陸移動説を紹介する。さらに、大陸移動説復活のきっかけとなった、古地磁気を用いた大陸位置の復元について解説する。	「大陸移動説」の元となった情報とその解釈更に現在の観測データを利用した大陸移動の推定法を理解する。
		12週	海洋底の拡大 海洋底の地形や地下構造、海洋地域における磁気異常の分布と、海洋底拡大説の関係について述べる。	地磁気の記録と大陸の移動を関連付ける仮説について理解する。
		13週	プレートテクトニクス (1) プレートテクトニクスの基礎として、プレートの概念、プレートの動きとプレート境界の形態について解説する。	プレートテクトニクスと言う概念の持つ本来の意味と大陸移動説の違いについて理解する。
		14週	プレートテクトニクス (2) 地球表層での変動現象(地震・火山活動・造山運動など)について、プレートテクトニクスを用いて解説する。	地震や火山活動等の自然現象がプレートの運動でどのように説明できるか理解する。
		15週	プレートテクトニクス (3) ホットスポットの性質について紹介し、プレートの相対運動と絶対運動の違いを説明する。また、プレート運動の原動力について述べる。	プレートの運動が地球全体の機構の中でどのように機能しているか理解する。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	演習課題	筆記試験	合計
総合評価割合	30	70	100
基礎的能力	30	70	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	ナノマテリアルデザイン入門	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	中西 寛						
到達目標							
(評価項目1) 講義を通して量子力学を理解し、ナノマテリアルデザインへの応用方法を取得する。(D) (評価項目2) 演習を通して量子力学の理解を深め、演義を通して他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーションスキルを養う。(D、E) (評価項目3) 自らの専門分野へナノマテリアルデザインを応用・展開する基礎スキルを養う。(D、E、H)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ナノマテリアルデザインの方法論を説明できる。			マテリアルの特性が量子力学に基づいていることを説明できる。		マテリアルの特性が量子力学に基づいていることを説明できない。	
評価項目2	量子力学に必要な基礎的演算方法を他者に教えることができ、その意味するところを説明できる。			量子力学に必要な基礎的演算を独力で行うことができる。		量子力学に必要な基礎的演算を独力で行うことができない。	
評価項目3	ナノマテリアルデザイン手法を自らの専門分野へ応用展開できる。			自らの専門分野へのナノマテリアルデザイン手法応用の可能性を考え、提示することができる。		ナノマテリアルデザイン手法応用の可能性を考えることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E)							
教育方法等							
概要	現代および未来の科学技術を支えるマテリアルをデザインするナノマテリアルデザインを学ぶことを通して科学的思考方法を習得することを目標とする。マテリアルを構成する原子核および電子の運動を記述する量子力学の概要を学び、それを用いてマテリアルの成り立ち、性質（物性）が如何に解き明かされるかを学ぶ。最後に、様々な工学分野において今後必要とされる高機能材料をデザインする最先端のナノマテリアルデザイン手法について学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義により、全体の概要説明と必要な前提知識を取得する。その後、自ら考え、手を動かし計算する演習を通して各項目を学習する。さらに自らの解法を他者に説明することにより、理解度を深化させる。質疑応答を通じて取得した知識を多面的に解釈しなおし、自身の中で体系づけ、量子力学に裏付けられたナノマテリアルデザイン手法を習得する。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	量子力学概論（前半） 量子力学の概要をニュートン力学と比較しながらその差異を学ぶ。			量子力学とニュートン力学における運動の捉え方の違いを説明することができる。	
		2週	量子力学概論（後半） 量子力学における運動の記述方法を学ぶ。			量子力学における運動状態の表現方法を説明することができる。	
		3週	量子力学の基礎 1（オペレーター代数） 量子力学に必要なオペレーター代数について学ぶ。			演算子の基本ルールを習得し、演算を行うことができる。	
		4週	量子力学の基礎 2（シュレーディンガー方程式） 量子力学における基礎方程式であるシュレーディンガー方程式を学ぶ。			波束と粒子運動の関係を説明できる。	
		5週	量子力学の基礎 3（交換関係Ⅰ：座標と運動量） 座標と運動量の交換関係を学ぶ。			座標と運動量の演算子を含む交換関係を計算できる。	
		6週	量子力学の基礎 4（交換関係Ⅱ：角運動量） 角運動量に関する交換関係を学ぶ。			角運動量演算子を知り、角運動量演算子を含む交換関係を計算できる。	
		7週	量子力学の基礎 5（エルミート演算子） エルミート演算子について学ぶ。			エルミート演算子の性質を知り、物理量の期待値の時間発展（変化）を計算できる。	
		8週	量子力学の基礎 6（井戸型ポテンシャル） 井戸型ポテンシャルに束縛された粒子の量子状態を学ぶ。			井戸型ポテンシャルに閉じ込められた粒子の量子状態を計算できる。	
	2ndQ	9週	量子力学の基礎 7（一次元散乱問題、トンネル効果） 散乱問題について学び、トンネル効果を知る。			矩形ポテンシャルを透過するトンネル確率を計算できる。	
		10週	量子力学の基礎 8（調和振動子） 調和振動子の量子状態を学ぶ。			調和ポテンシャルに閉じ込められた粒子の量子状態を計算できる。	
		11週	量子力学の基礎 9（格子比熱） アインシュタイン比熱を学ぶ。			アインシュタイン比熱を計算できる。	
		12週	原子の電子配置 1 クーロン力で束縛された電子の量子状態を学ぶ。			原子に閉じ込められた電子状態を説明できる。	
		13週	原子の電子配置 2（スピン、量子統計） スピンの存在および量子統計の概論を学び、元素の周期律を学ぶ。			元素の周期律を量子力学に基づいて説明できる。	
		14週	物質の凝集機構（イオン結合、共有結合、金属結合） 物質の凝集機構を学ぶ。			物質の凝集機構を量子力学に基づいて説明できる。	
		15週	密度汎関数理論、計算機マテリアルデザイン 密度汎関数理論およびそれを基にした第一原理計算、およびそれを用いたナノマテリアルデザインを学ぶ。			ナノマテリアルデザイン手法の原理を説明できる。	
		16週	期末試験			演習を独力で解くことができる事を確認する。自らの領域への応用展開を考えることができる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	演習・発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	30	0	0	0	0	80
分野横断的能力	10	10	0	0	0	0	20

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	カルチャーコミュニケーション演習
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	O'Brien, T, et al.: "Gateway to Britain", NAN'UN-DO.Honda, Y. and Kano, N.: "TOEIC Test: Round the Clock", NAN'UN-DO.				
担当教員	井上 英俊				
到達目標					
(1) 異文化への理解を深める。 (2) 英語の発音・リズムに関する能力を向上させる。 (3) TOEIC形式の問題に習熟する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化への理解を十分に深めている。		異文化への理解を深めている。		異文化への理解を深めることができていない。
評価項目2	英語の発音・リズムを十分身につけている。		英語の発音・リズムを身につけている。		英語の発音・リズムを身につけていない。
評価項目3	TOEIC形式の問題に十分習熟している。		TOEIC形式の問題に習熟している。		TOEIC形式の問題に習熟していない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)					
教育方法等					
概要	言語を学ぶということは、単に言葉の学習だけではない。その言葉話す人々の思考や価値観といった文化の学習の側面も含んでいる。そこで、本演習では、言語、文化、コミュニケーションに関して、イギリスやビジネス英語を例として取り上げ、日本との違いや共通点を知った上で、英語能力を高めることを目指す。なお、取り扱う英語のレベル自体はやや易しいため、中上級向けの科目ではない。				
授業の進め方・方法	目標を達成するためには、次の自己学習が必要である。 ・重要語句を事前に調べ、英語により理解しておくこと。 ・授業において学習したモデル・ダイアログを復習し、付属CDを用いて復唱可能な状態になるまで練習すること。				
注意点	・課題や発表の準備時間を十分に確保する。 ・出席停止等の理由なく授業を遅刻、欠席して課題や発表ができない 場合は再評価を認めない。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期授業についてのガイダンス 前期授業の概要、課題、そして評価方法について説明する。 Chapter 1: Daily life の聴解練習		
		2週	Check In and Work Out カウンターでの会話についての読解 Chapter 1: Daily life の読解練習	カウンターでの会話について読解する。	
		3週	Check In and Work Out カウンターでの会話についての演習 Chapter 2: Clothing の聴解練習	カウンターでの会話についての問題に解答する。	
		4週	What Will the Weather Be Like? 天候についての読解 Chapter 2: Clothing の読解練習	天候について読解する。	
		5週	What Will the Weather Be Like? 天候についての演習 Chapter 3: Grocery Shopping の聴解練習	天候についての問題に解答する。	
		6週	A London without Red Buses? ロンドン・バスについての読解 Chapter 3: Grocery Shopping の読解練習	ロンドン・バスについて読解する。	
		7週	A London without Red Buses? ロンドン・バスについての演習 Chapter 4: Cooking の聴解練習	ロンドン・バスについての問題に解答する。	
		8週	Back to the Future 鉄道についての読解 Chapter 4: Cooking の読解練習	鉄道について読解する。	
	2ndQ	9週	Back to the Future 鉄道についての演習 Chapter 5: Eating out の聴解練習	鉄道についての問題に解答する。	
		10週	Shop-'n'-Chat ショッピングについての読解 Chapter 5: Eating out の読解練習	ショッピングについて読解する。	
		11週	Shop-'n'-Chat ショッピングについての演習 Chapter 6: Shopping for Clothing の聴解練習	ショッピングについての問題に解答する。	
		12週	More Than Just a Post Office 郵便局の概念についての読解 Chapter 6: Shopping for Clothing の読解練習	郵便局の概念について読解する。	

後期		13週	More Than Just a Post Office 郵便局の概念についての演習 Chapter 7: Housing の聴解練習	郵便局の概念についての問題に解答する。
		14週	前期のまとめ 前期に学習した内容を総復習する。	
		15週	実技試験 口頭実技試験を実施する。	
		16週	期末試験	
	3rdQ	1週	後期授業についてのガイダンス 後期授業の概要、課題、そして評価方法について説明する。 Chapter 7: Housing の読解練習	
		2週	Off the Beaten Path 観光についての読解 Chapter 8: The Weather の聴解練習	観光について読解する。
		3週	Off the Beaten Path 観光についての演習 Chapter 8: The Weather の読解練習	観光についての問題に解答する。
		4週	Dining Out Diversity 食文化についての読解 Chapter 9: At a Movie Theater の聴解練習	食文化について読解する。
		5週	Dining Out Diversity 食文化についての演習 Chapter 9: At a Movie Theater の読解練習	食文化についての問題に解答する。
		6週	Afternoon Tea アフタヌーン・ティーについての読解 Chapter 10 Sports: の聴解練習	アフタヌーン・ティーについて読解する。
		7週	Afternoon Tea アフタヌーン・ティーについての演習 Chapter 10: Sports の読解練習	アフタヌーン・ティーについての問題に解答する。
		8週	The Beatles Are Forever ビートルズについての読解 Chapter 11: Traffic and Commuting の聴解練習	ビートルズについて読解する。
	4thQ	9週	The Beatles Are Forever ビートルズについての演習 Chapter 11: Traffic and Commuting の読解練習	ビートルズについての問題に解答する。
		10週	Football: Sport or Business? サッカーについての読解 Chapter 12: Automobiles の聴解練習	サッカーについて読解する。
		11週	Football: Sport or Business? サッカーについての演習 Chapter 12: Automobiles の読解練習	サッカーについての問題に解答する。
		12週	The Royal Family or TV Melodrama? 英国王室についての読解 Chapter 13: At the Bank の聴解練習	英国王室について読解する。
		13週	The Royal Family or TV Melodrama? 英国王室についての演習 Chapter 13: At the Bank の読解練習	英国王室についての問題に解答する。
		14週	後期期末のまとめ 後期に学習した内容を総復習する。	
		15週	実技試験 口頭実技試験を実施する。	
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	小テスト	合計	
総合評価割合	60	20	20	100	
基礎的能力	60	20	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	オーラル・イングリッシュ
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Lecture Ready 2: Strategies for Academic Listening & Speaking; by Peg Sarosy & Kathy Sherak; 2013; Oxford University Press; ISBN: 978-0-19-441728-0.				
担当教員	ハーバート ジョン				
到達目標					
By the end of this course, the students should be able to listen to academic lectures in English more attentively, take good notes, discuss lecture content in English, perform English presentations more confidently, and understand the cultural norms of giving presentations in an English speaking context. To this end, the students will be required to work on improving their English listening strategies, note-taking strategies, discussion strategies, and presentation skills as described below.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
Listening Strategies	Recognize most key types of information to listen for		Recognize some key types of information to listen for		Recognize no key types of information to listen for
Note-taking Strategies	Make accurate and concise recordings of lecture content		Make rough but understandable recordings of lecture content		Make no comprehensible recordings of lecture content
Discussion Strategies	Participate fully and smoothly in academic discussions		Participate somewhat actively in academic discussions		Participate rather passively or not at all in academic discussions
Presentation Delivery	Stand up straight, look at the audience, use natural gestures and appropriate voice inflection		Stand up straight, look at the audience, use planned gestures, and experiment with voice inflection		Slouch as you read without gestures or voice inflection
Visual Aids	Prepare very interesting and meaningful slides and synchronize them perfectly with your speech performance		Prepare easily understood and meaningful slides and use them appropriately		Prepare crowded slides that are hard to read without practicing slide synchronization
Presentation Content	Make sure you have a well-structured presentation with all of the components of a speech described in your textbook		Create a good English speech introduction, body, and conclusion		Fail to make your message clear or fail to organize your message in a logical order
English	Speak clearly with excellent English vocabulary and grammar		Speak clearly with understandable English vocabulary and grammar		Use only katakana to speak English
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)					
教育方法等					
概要	The objective of this course is to prepare students to experience the demands and atmosphere of higher-education classrooms in English speaking environments. The course will focus on listening for particular structures and signals in English, taking accurate and concise notes, participating actively in academic discussions, and creating and delivering presentations.				
授業の進め方・方法	Each textbook unit will be divided into two days. On Day One, students will listen to an academic lecture in English and apply a new listening strategy for recognizing language structures or signals. And, the students will take notes on these lectures. On Day Two, the students will engage in academic discussions about the lecture topics and practice various presentation skills. After two units have been covered in four lessons, the fifth lesson will be spent preparing presentations with themes based on one of the 2 units covered. Then, in the sixth lesson, each student must perform the presentation they prepared. In total, that is 5 presentations in one year. Each presentation will be about 5 minutes.				
注意点	Active participation in English is essential for completing this course successfully. A high-intermediate level of English is required to perform well in this class. 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1: Gender and Spending - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Build background knowledge to understand lectures. Recognize language relevant to the lecture topic. Use your background knowledge to predict the lecture's content. Write only the most important words when taking notes. Assess and revise your notes.	
		2週	Unit 1: Gender and Spending - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Enter the discussion. Make eye contact while using notes.	
		3週	Unit 2: Ads Are Everywhere - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize lecture language that signals the big picture. Use an informal outline for taking notes. Use your notes to summarize the lecture.	
		4週	Unit 2: Ads Are Everywhere - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Contribute to the discussion. Catch the audience's attention by telling a story.	

後期	2ndQ	5週	Listening Test 1 and Presentation 1 Preparation	Assess your listening ability and prepare for standardized English listening tests. Create a presentation. Practice using the presentation strategies for an actual presentation.
		6週	Presentation 1 Performance	Apply the presentation strategies to an actual presentation performance.
		7週	Unit 3: Work Habits in the 21st Century - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize transitions in a lecture. Use symbols to represent words and ideas in your notes.
		8週	Unit 3: Work Habits in the 21st Century - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Interrupt and ask for clarification in a discussion. Create rapport with the audience throughout a presentation.
		9週	Unit 4: Leisure Time in the 21st Century - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize lecture language that signals a definition. Use abbreviations in your notes to represent longer words.
		10週	Unit 4: Leisure Time in the 21st Century - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Ask for more information in a discussion. Signal a transition between speakers.
		11週	Listening Test 2 and Presentation 2 Preparation	Assess your listening ability and prepare for standardized English listening tests. Create a presentation. Practice using the presentation strategies for an actual presentation.
		12週	Presentation 2 Performance	Apply the presentation strategies to an actual presentation performance.
	3rdQ	13週	Unit 5: Science and Pleasure: What We Eat - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize lecture language for examples. Use a visual form for note-taking.
		14週	Unit 5: Science and Pleasure: What We Eat - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Agree/disagree in a discussion. Conclude a presentation by summarizing the main points.
		15週	Unit 6: Unique Solutions to Pollution - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize lecture language for explanations. Describe the visuals used in a lecture in your notes.
		16週	期末試験実施せず	
	4thQ	1週	Unit 6: Unique Solutions to Pollution - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Support your opinions. Open the floor to questions.
		2週	Listening Test 3 and Presentation 3 Preparation	Assess your listening ability and prepare for standardized English listening tests. Create a presentation. Practice using the presentation strategies for an actual presentation.
		3週	Presentation 3 Performance	Apply the presentation strategies to an actual presentation performance.
		4週	Unit 7: Getting the News in the High-Tech Age - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize lecture language that signals important information. Highlight important ideas in your notes.
		5週	Unit 7: Getting the News in the High-Tech Age - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Connect your ideas to other student's ideas. Refer to a chart or a graph.
		6週	Unit 8: Who's on TV? - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize non-verbal signals for important information. Annotate your notes during a lecture.
		7週	Unit 8: Who's on TV? - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Keep the discussion focused. Use hand gestures to clarify words and ideas.
		8週	Listening Test 4 and Presentation 4 Preparation	Assess your listening ability and prepare for standardized English listening tests. Create a presentation. Practice using the presentation strategies for an actual presentation.
		9週	Presentation 4 Performance	Apply the presentation strategies to an actual presentation performance.
		10週	Unit 9: What's Up with Slang? - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Recognize changes in pronunciation. Edit your notes after a lecture.
		11週	Unit 9: What's Up with Slang? - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Encourage other students to participate in the discussion. Use visuals that combine words and pictures.
		12週	Unit 10: Global English - Practice Listening Strategies - Practice Note-Taking Strategies	Review the listening strategies from the textbook. Review the note-taking strategies from the textbook.
		13週	Unit 10: Global English - Practice Academic Discussion Strategies - Practice Presentation Strategies	Bring the group to a consensus. Pace your speech.
		14週	Listening Test 5 and Presentation 5 Preparation	Assess your listening ability and prepare for standardized English listening tests. Create a presentation. Practice using the presentation strategies for an actual presentation.

		15週	Presentation 5 Performance		Apply the presentation strategies to an actual presentation performance.		
		16週	期末試験実施せず。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	Five Listening Tests		Ten Note-Taking Assignments	Ten Discussions	Five Presentations	合計	
総合評価割合		25	25	25	25	100	
English Communication		25	25	25	25	100	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	専攻科海外研修
科目基礎情報						
科目番号	0010		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	M E 全					
到達目標						
(1) 海外における研修への積極的な参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができる(A)。 (2) 異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる(B)。 (3) 現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができる(E)。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	海外における研修への積極的な参加を通じて、教養をより高めるための取り組みが良くできる		海外における研修への積極的な参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができる		海外における研修への積極的な参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができない	
評価項目2	異文化の中での研修に参加することで、広い視野持つことが良くてできる		異文化の中での研修に参加することで、広い視野持つことができる		異文化の中での研修に参加することで、広い視野持つことができない	
評価項目3	現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションが良くてできる		現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができる		現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)						
教育方法等						
概要	海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考える能力やコミュニケーション能力を身に付けることが本科目のねらいである。研修期間は、夏季休業期間などとしてもよい。研修日数は、10日間以上とする。本科目は、海外での研修と、事前指導(マナー教育、研修先の下調べ)、事後の報告会、関係機関に配布する報告書の作成などの自己学習時間の合計が、90時間以上に相当する学習内容である。参加する研修が、本科目に該当するかどうかは、専攻科委員会にて判断する。					
授業の進め方・方法						
注意点	専攻主任又は指導教員と緊密に連絡を取り合うこと。研修期間中は、積極的に現地の人たちと関わり、コミュニケーションをとるように努めるとともに、服装・言葉遣い等、研修生として相応しい態度で取り組むこと。合格の対象としない欠席条件(割合) その他					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		履修上の注意・実習先でのマナーなどの注意を行う。	
		2週	実習		海外の実習先において個別の技術体験を行う。	
		3週	同上		同上	
		4週	同上		同上	
		5週	同上		同上	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	
		8週	同上		同上	
	2ndQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		同上	
		11週	同上		同上	
		12週	同上		同上	
		13週	同上		同上	
		14週	同上		同上	
		15週	同上		同上	
		16週	期末試験実施せず			
後期	3rdQ	1週	同上		同上	
		2週	同上		同上	
		3週	同上		同上	
		4週	同上		同上	
		5週	同上		同上	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	
		8週	同上		同上	
	4thQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		同上	
		11週	同上		同上	
		12週	同上		同上	
		13週	同上		同上	
		14週	同上		同上	

		15週	発表会	実習成果の総合的な発表を行う。			
		16週	期末試験実施せず				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	創発ゼミナール		
科目基礎情報								
科目番号	0011			科目区分	専門 / 必修			
授業形態	実験			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜プリント資料を配付する。							
担当教員	関森 大介,森下 智博,上 泰,周山 大慶,武田 字浦,渡部 守義,角野 嘉則,本塚 智貴							
到達目標								
(1)グループ単位で目標設定と作業計画を行い、自律的に作業を実行できるとともに、作業経過や作業結果を効果的に報告できる。 (2)複数の知識を応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できる。 (3)グループ作業を通じて協調と作業分担、コミュニケーション力並びにチームワーク力を発揮できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	グループ単位で目標設定と作業計画を行い、自律的に作業を実行できるとともに、作業経過や作業結果を効果的に報告できる。			グループ単位で目標設定と作業計画を行い、自律的に作業を実行できるとともに、作業経過や作業結果を報告できる。		グループ単位で目標設定と作業計画を行い、自律的に作業を実行できるとともに、作業経過や作業結果を報告できない。		
評価項目2	複数の知識を十分に応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できる。			複数の知識を応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できる。		複数の知識を応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できない。		
評価項目3	グループ作業を通じて協調と作業分担、コミュニケーション力並びにチームワーク力を十分に発揮できる。			グループ作業を通じて協調と作業分担、コミュニケーション力並びにチームワーク力を発揮できる。		グループ作業を通じて協調と作業分担、コミュニケーション力並びにチームワーク力を発揮できない。		
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G) 学習・教育目標 (H)								
教育方法等								
概要	本科目ではグループ作業を通じて協調と作業分担、管理的役割を体験し、エンジニアリングデザインにおける問題解決能力を実践的に養う。課題に取り組む過程において、装置の組み立てや機器の取り扱い、性能等の調査を通じて、広く関連知識を身に付け、エンジニアリングデザインの課題を通して創造性を涵養する。							
授業の進め方・方法	受講者は専攻分野に関する2課題について担当教員の下で創造的な実験・演習を行う。専攻毎に2人程度のグループを編成し、6週間で1課題に取り組む。課題の提示と基本知識等の説明を受けた後、受講者はグループで企画(Plan)-実行(Do)-評価(See)の全てを与えられた期間内に実施し報告書を提出する。							
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。各セッション毎に2つの課題(M系、E系各1)を並列で実施し、作業グループの希望と受け入れ許容人数などの条件を勘案して各グループの取り組み課題を決める。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス			本科目のねらいと各テーマの実施方法・内容について理解し、受講テーマを決定する。		
		2週	セッション1			M-1)インテリジェント電動車いすの開発 E-1)情報セキュリティ実習		
		3週	セッション1			第2週と同じ		
		4週	セッション1 第2週と同じ			第2週と同じ		
		5週	セッション1 第2週と同じ			第2週と同じ		
		6週	セッション1 第2週と同じ			第2週と同じ		
		7週	セッション1 第2週と同じ			第2週と同じ		
	4thQ	8週	討論発表会1			セッション1で行ったテーマについて発表を行い、他者に説明できる。		
		9週	セッション2			M-2)3Dプリンタによるアイデアグッズの製作 E-2)小学校プログラミング教育用の教材・問題等の開発		
		10週	セッション2			第9週と同じ		
		11週	セッション2			第9週と同じ		
		12週	セッション2			第9週と同じ		
		13週	セッション2			第9週と同じ		
		14週	セッション2			第9週と同じ		
		15週	討論発表会2			セッション2で行ったテーマについて発表を行い、他者に説明できる。		
		16週	期末試験実施せず					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	20	40	40	0	0	100	

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	20	40	40	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	専攻科特別講義
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜プリント資料を配付する。					
担当教員	境田 彰芳,石丸 和宏,平石 年弘,井上 一成,中西 寛					
到達目標						
(1)自己の専門分野の最新の技術課題とその解決方法や取組状況を理解する(H)。 (2)自己の専門分野と違う分野の最新の課題を知る(H)。 (3)各専門分野において共生に配慮している技術や研究に関する話題を学習して理解する(A)。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自己の専門分野の最新の技術課題とその解決方法や取組状況を理解することができる。		自己の専門分野の最新の技術課題とその解決方法や取組状況を理解することができる。		自己の専門分野の最新の技術課題とその解決方法や取組状況を理解することができない。	
評価項目2	自己の専門分野と違う分野の最新の課題を知ることができる。		自己の専門分野と違う分野の最新の課題を知ることができる。		自己の専門分野と違う分野の最新の課題を知ることができない。	
評価項目3	各専門分野において共生に配慮している技術や研究に関する話題を学習して理解することができる。		各専門分野において共生に配慮している技術や研究に関する話題を学習して理解することができる。		各専門分野において共生に配慮している技術や研究に関する話題を学習して理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	技術者としてのバックグラウンドを広げるためには、専門分野だけに止まらず専門分野外についても積極的に学ぶ姿勢が大切である。本科目では、専門分野の異なる複数の教員(中西：ガイダンス・まとめ3回、境田：機械系3回井上：電子・情報系3回、石丸：都市系3回、平石：建築系3回)がリレー形式で多様な話題について、当該専攻の内外にわたって、横断的に技術開発動向についての知見を与える。また種々の開発や研究のプロセスを学ぶことにより、技術分野を超えて普遍的な考え方と柔軟な開発対応力を養成する。					
授業の進め方・方法	全15週のうち、 第1週のガイダンスは、中西が講義形式で授業を行う。 第2週から第4週は境田が講義形式で授業を行う。 第5週から第7週は井上が講義形式で授業を行う。 第8週から第10週は石丸が講義形式で授業を行う。 第11週から第13週は平石が講義形式で授業を行う。 第14,15週のまとめは、講義形式と校外演習形式で授業を行う。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。自分の専門以外の話題が多く出てくるが、わかりやすく説明するように心がけるのでしっかりと学習すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	本講義のねらい(中西) 専攻科特別講義の開講趣旨を説明する。成績評価等についても周知する。自己の体験を通して、幅広い知識を積極的に学習することの大切さ、最近の科学技術の話題などについて述べる。		本授業の概要を知り、事前学習のプランを作成できる。	
		2週	機械・構造用材料の破壊強度特性(境田) 強度や破壊に関する理論や評価法は、従来の概念では予期できなかった破壊事故を契機としたものが多いことから、機械構造物の破壊例とそれに関連して提唱された破壊理論について学ぶ。		機械・構造用材料の破壊強度特性について説明できる。	
		3週	金属材料の疲労特性(境田) 機械・構造部材の破壊事故の80%程度が疲労に起因していると言われており、金属材料の疲労特性を把握することは極めて重要である。疲労破壊の例とその特性について学ぶ。		金属材料の疲労特性について説明できる。	
		4週	材料強度データベースの概要(境田) これまでに構築された材料強度データベースを紹介するとともに、データベースを用いた種々の解析例について学ぶ。		金属材料強度データベースを用いた代表的な解析例を説明できる。	
		5週	情報倫理1(井上) 情報倫理の必要性、情報犯罪、プライバシーについて説明、討議する。		情報倫理の必要性、情報犯罪、プライバシーについて自分の考えを持つことができる。	
		6週	情報倫理2 (井上) 著作権、コンピュータ倫理及びメディア倫理における情報倫理について説明、討議する。		著作権、コンピュータ倫理及びメディア倫理における情報倫理について自分の考えを持つことができる。	
		7週	情報倫理3 (井上) 情報倫理からテーマを提案し、学生同士で対話する。		情報倫理における学生同士の対話を通じて、他人の意見を尊重し、自分の考えに気づき、深く理解することが出来る。	
		8週	地震・防災の研究事例(石丸) 日本では自然災害が多く、その対策を学ぶことは重要である。現在の防災科学技術の研究紹介、防災のための地震観測網、火山観測網について説明する。		現在の防災のための地震観測網、火山観測網について説明できる。	

4thQ	9週	平板の解析1(石丸) 平板は構造部材として最も基本要素の一つである。ここでは、THIMOSHENKOの"Theory of Plates and Shells"を用い、平板の解析方法を説明する。	平板の解析方法を説明できる。
	10週	平板の解析2(石丸) 構造部材として多用される平板のうち、単純支持された長方形板について、具体的な解析方法を説明する。	単純支持された平板の解析方法を説明し、解くことができる。
	11週	開発途上国支援・被災地支援(平石) これまで行ってきた開発途上国支援・被災地支援を紹介し、グローバル社会における地域の特性を活かした技術のあり方を考える。	グローバル化した社会においても地域特性の重要性を認識できる。
	12週	適正技術(平石) 適正技術の必要性和途上国での適用事例、日本における環境対策での適用事例を紹介し技術のあり方について考える。	適正技術の事例を上げ、適正技術の定義について説明できる。
	13週	生物系有機物の循環と有効(平石) 落葉、雑草、木、生ごみ、尿尿など生物系有機物の処理方法と循環型社会のシステムのあり方を解説する。	循環型社会における物質循環の事例が説明できる。
	14週	まとめ1(中西) 本講義のまとめとして、神戸大学海事科学部の練習船「深江丸」に乗船し船内演習を通して、造船・航海・通信・港湾・都市計画等、幅広い最新の科学技術について学ぶ。	船内演習を通して自ら得た知識を体系化して説明できる。
	15週	まとめ2(中西) 本講義のまとめとして、神戸大学海事科学部の練習船「深江丸」に乗船し船内演習を通して、造船・航海・通信・港湾・都市計画等、幅広い最新の科学技術について学ぶ。第14週との集中講義で行う。	船内演習を通して自ら得た知識を体系化して説明できる。
	16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100	
基礎的能力	20	0	0	10	0	0	30	
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30	
分野横断的能力	40	0	0	0	0	0	40	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	エンジニアリングプレゼンテーションⅠ
科目基礎情報						
科目番号	0013		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。					
担当教員	中井 優一,武田 字浦					
到達目標						
(1)与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議ができる(E)。 (2)テーマ1で取り上げる専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を理解する(C)。 (3)テーマ1でのチームによる作業を通して役割分担等の重要性を理解する(B)。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議を説得力を持って行える。		与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議ができる。		与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議ができない。	
評価項目2	専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を十分理解し、説明できる。		専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を理解する。		専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を理解できない。	
評価項目3	チームによる作業を通して役割分担等の重要性を理解し、実践できる。		チームによる作業を通して役割分担等の重要性を理解する。		チームによる作業を通して役割分担等の重要性が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (C) 学習・教育目標 (E)						
教育方法等						
概要	本科目では、技術的な表現能力を高めるために、文章によるプレゼンテーション、図表によるプレゼンテーション、口頭によるプレゼンテーション等について、基本的な取り組み方の講義と演習を実施する。多様な課題を学生に与え、(1)主題の明快さ、(2)内容の分かりやすさ、(3)訴求力等の観点から相互に評価を求め、担当教員による感想、講評を加えて内容の洗練化を図る。また、チームワークによるプレゼンテーションの作成作業を通して役割分担等の重要性を理解する(担当者・時間は授業の内容を参照のこと)。					
授業の進め方・方法	中井・武田が基本的事項等について講義を行った後、各テーマについて学生が発表を行い、中井・武田の複数授業形式で行う。					
注意点	学生自身が作成したレジメとスライドにより決められた時間で発表し、討議することに重点をおく。他の学生の発表について評価できる目も養ってもらいたい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	報告書の書き方(その1: 武田) 文書によるプレゼンテーションとして、報告書の書き方について解説する。具体的なサンプルを与えて、報告書としての文章表現方法について学ぶ。A4用紙 1~2枚の報告書を書くテーマを設定する。		報告書の基本的な書き方について、理解する。	
		2週	報告書の書き方(その2: 武田) 設定したテーマで書いてきた報告書を交換して添削し、全員またはグループごとに意見交換を行う。		報告書の基本的な書き方について、実践を踏まえて理解する。	
		3週	プレゼンテーション心得(その1: 中井) プレゼンテーション用の資料を作成する場合にはおさえておくべき重要なポイントがいくつかある。 ここでは、それらの点について実例を挙げながら説明を行う。		資料作成のポイントについて理解する。	
		4週	プレゼンテーション心得(その2: 中井) 人前でプレゼンテーションを行う場合にはおさえておくべき重要なポイントがいくつかある。 ここでは、それらの点について実例を挙げながら説明を行う。		発表時の注意事項について理解する。	
		5週	プレゼンテーション心得(その3: 武田) 人前でプレゼンテーションを行う場合のポイントについて実例を挙げながら実践する。		人前でプレゼンテーションを行う場合のポイントを習得する。	
		6週	テーマ1(各自の専門学会の倫理綱領について):報告書・スライドの作成(その1: 中井、武田) 2~4名のチームに別れ、各自の専門学会の倫理綱領について調べる。それを報告書にまとめる作業と、10分間のプレゼンテーションをする準備を行う。		2~4名のチームに別れ、各自の専門学会の倫理綱領について調べられる。	
		7週	テーマ1(各自の専門学会の倫理綱領について):報告書・スライドの作成(その2: 中井、武田) 同上		グループで協力して、報告書にまとめ、10分間のプレゼンテーションの準備ができる。	
		8週	テーマ1の発表(その1: 中井、武田) チームごとにテーマ1について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。		チームごとにテーマ1について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。	
	2ndQ	9週	テーマ1の発表(その2: 武田、中井) 同上		チームごとにテーマ1について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。	

		10週	テーマ2(自由課題):報告書・スライドの作成(中井、武田) 各自が設定したテーマで報告書を作成し、10分間のプレゼンテーションする準備を行う。	各自が設定したテーマで報告書を作成し、10分間のプレゼンテーションする準備ができる。
		11週	テーマ2の発表(その1:中井、武田) 一人づつテーマ2について10分で発表し、全員で5分程度のディスカッションをする。	テーマ2について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。
		12週	テーマ2の発表(その2:中井、武田) 同上	テーマ2について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。
		13週	テーマ2の発表(その3:中井、武田) 同上	テーマ2について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。
		14週	テーマ2の発表(その4:中井、武田) 同上	テーマ2について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。
		15週	テーマ2の発表(その5:中井、武田) 同上	テーマ2について10分で発表し、全員で10分くらいのディスカッションをする。また、お互いの発表内容について、評価する。
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	レジメ	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	70	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	70	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	工業材料
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専1	
開設期	前期		週時間数		2	
教科書/教材	適宜レジュメを配布する。					
担当教員	境田 彰芳,梶村 好宏,武田 字浦,平石 年弘					
到達目標						
(1)金属材料に関する基礎事項を理解し、強度特性の評価法や特徴について習得する。(D、H)(境田担当)。 (2)コンクリート構造物の建設・維持管理に際し、異分野の融合による技術の革新について考えられるようになる。(D、H)(武田担当)。 (3)材料の環境負荷に配慮した選択をするにはどのような点を考慮すれば良いかを理解すると共に、興味のある材料について各自調べ、相互に説明することで理解を深める。(D、H)(平石担当)。 (4)磁気に関する物理量を単位とともに理解し、各種磁性材料の特性について理解し説明できること目標にする。(D、H)(梶村担当)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	金属材料に関する基礎事項を理解し、強度特性の評価法や特徴について具体的に説明できる。		金属材料に関する基礎事項を理解し、強度特性の評価法や特徴について説明できる。		金属材料に関する基礎事項を理解し、強度特性の評価法や特徴について説明できない。	
評価項目2	自身の専門分野とコンクリート工学との関わりについて説明ができ、新しい提案ができる。		自身の専門分野とコンクリート工学との関わりについて説明ができる。		自身の専門分野とコンクリート工学との関わりについて説明できない。	
評価項目3	環境負荷を配慮し工業材料を選択するためのLCA分析ができる。		環境負荷を配慮し工業材料を選択するために考慮すべき項目を理解している。		環境負荷を配慮し工業材料を選択する必要性を理解していない。	
評価項目4	磁気に関する物理量を単位とともに理解し、各種磁性材料の特性や応用例について理解し説明できる。		磁気に関する物理量を単位とともに理解し、各種磁性材料の特性について理解し説明できる。		磁気に関する物理量を単位とともに理解し、各種磁性材料の特性について理解し説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	(1)鉄鋼材料を中心に金属材料の特徴、種類、強化法について説明するとともに、各種条件下での破壊現象について説明する。(境田担当8時間)(2)都市を構成する代表的な材料であるコンクリートの力学的性質や補強方法および維持・管理技術、環境問題への配慮について説明する(武田担当6時間)。(3)材料の環境影響と各種工業材料が持つ特性を各自しらべ説明するとで理解を深める(平石担当8時間)(4)各種磁性材料の特徴や性質を理解し、応用例を説明する。(梶村担当8時間)					
授業の進め方・方法	4名の教員のオムニバス形式で授業が行われる。 第1週から第4週の授業は境田が講義形式で行う。 5～7週(武田)：コンクリートの力学的性質や補強方法および維持・管理技術、環境問題への配慮について理解する。 8週～11週(平石) 工業材料の選択と環境負荷の違いについてライフサイクルアセスメント(LCA)によって説明した後、リストアップした工業材料から興味のある材料を1つ選び、その長所、短所、環境負荷についてパワーポイントを使って発表する。 12週～15週(梶村)磁気に関する物理量を単位とともに理解し、各種磁性材料の特性について理解し説明できるようにする。またその応用例について調査を行う。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	金属材料概論(境田) 金属材料の結晶構造や塑性変形機構について学ぶ。		金属材料の結晶構造や塑性変形機構について説明できる。	
		2週	金属材料の種類と特徴(境田) 機械・構造用材料として用いられる金属材料の種類と特徴について学ぶ。		機械・構造用材料として用いられる金属材料の種類や特徴について説明できる。	
		3週	金属材料の強化法(境田) 鉄鋼材料の熱処理や強化法、強化機構について学ぶ。		鉄鋼材料の熱処理や強化法、強化機構について説明できる。	
		4週	金属材料の機械的性質(境田) 金属材料の機械的性質とその評価法について学ぶ。		金属材料の機械的性質とその評価法について説明できる。	
		5週	コンクリート概論(武田) 都市を構成する代表的な材料であるコンクリートについて、その構成材料、力学的性質について学ぶ。		コンクリートを構成する材料と力学的性質について説明できる。	
		6週	コンクリート構造物の耐久性と維持・管理技術(武田) コンクリートの構造物の補強方法、耐久性に影響を及ぼす劣化と対策方法について学ぶ。		コンクリート構造物の維持管理技術について説明できる。	
		7週	建設材料による環境負荷低減技術(武田) コンクリートの構成材料や使用方法による環境負荷低減技術について学ぶ。		建設材料による環境負荷低減技術について説明できる。	
		8週	材料と環境負荷(平石) 各種工業材料が環境に与える負荷をLCA(ライフサイクルアセスメント)の手法を使って分析した結果について学ぶ。		各種工業材料の違いによってLCA(ライフサイクルアセスメント)によって分析し材料によって異なることが分析できる。	
	2ndQ	9週	材料の特性を調べる(平石) 興味のある工業材料についてその特性をプレゼンテーションする。		リストから選んだ工業材料についてその用途、長所、短所について説明できる。	

		10週	材料の特性を調べる(平石) 興味のある工業材料についてその特性をプレゼンテーションする。明できる資料を作る。	リストから選んだ工業材料についてその用途、長所、短所について説明できる。
		11週	材料の特性を調べる(平石) 興味のある工業材料についてその特性をプレゼンテーションする。	リストから選んだ工業材料についてその用途、長所、短所について説明できる。
		12週	磁性材料概説(梶村) 磁性材料開発の歴史とこれらの特徴やその性質について概説する。また、今日広く多分野で利用されている具体的な事例について学ぶ。	磁性材料開発の歴史とこれらの特徴やその性質について概説する。また、今日広く多分野で利用されている具体的な事例を説明できる。
		13週	磁性材料の物理的性質(梶村) 電気分野などで学ぶ磁気の基本と磁性材料の物理的性質について学ぶ。ここで、各自の専門分野において興味ある利用、応用事例について調査を行うとともにその原理について理解を深める。	電気分野などで学ぶ磁気の基本と磁性材料の物理的性質について学ぶ。ここで、各自の専門分野において興味ある利用、応用事例について調査を行うとともにその原理について説明できる。
		14週	電気回路で利用されるフェライトの特性と評価事例(梶村) 電気回路において基本素子として、あるいは電磁環境両立性(EMC)で利用されるフェライトコアについて紹介する。併せて、特性評価のために使用する解析ツールとその原理について学ぶ。	電気回路において基本素子として、あるいは電磁環境両立性(EMC)で利用されるフェライトコアについて紹介する。併せて、特性評価のために使用する解析ツールとその原理について説明できる。
		15週	様々な分野での利用例(梶村) 各自の専門分野の磁性材料について調査した結果を報告書にまとめる。	各自の専門分野の磁性材料について調査した結果を報告書にまとめ、説明できる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	到達目標(1) 試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	情報応用
科目基礎情報				
科目番号	0015	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻	対象学年	専1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	使用しない。適宜資料を配布する。また、参考となる情報を掲載したホームページを用意するので参考とすること。			
担当教員	井上 一成			
到達目標				
(1)コンピュータで扱う様々なデータ形式についての知識を持ち、適切な選択ができる(H)。 (2)データ形式の特徴を理解した上で、必要とする形式へ変換し、適切なツールを用いて加工ができる(D)。 (3)自らの持つ情報を他人に対して分かりやすく表現することができる(E)。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 コンピュータが扱うデータ形式と管理と保護	コンピュータが扱うデータ形式と管理と保護について十分に理解できる。	コンピュータが扱うデータ形式と管理と保護について理解できる。	コンピュータが扱うデータ形式と管理と保護について理解できない。	
評価項目2 Wordを用いた技術文書の作成	Wordを用いた技術文書の作成と各種手法について十分に理解できる。	Wordを用いた技術文書の作成と各種手法について理解できる。	Wordを用いた技術文書の作成と各種手法について理解できない。	
評価項目3 PowerPointを用いた技術資料の作成	PowerPointを用いた技術資料の作成と各種手法について十分に理解できる。	PowerPointを用いた技術資料の作成と各種手法について理解できる。	PowerPointを用いた技術資料の作成と各種手法について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係				
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (H)				
教育方法等				
概要	現在情報技術はエンジニアにとってはもちろん現代社会で生活して行く上で既に必須の技術となっている。特に、自らの持つ情報を発信する論文、ポスターあるいはプレゼンテーションは重要なものとなっている。本講義では、これらをよりの確に作成するための基礎知識とコンピュータを用いた技術について具体的解説を行い、これらの情報技術を修得することを目的とする。			
授業の進め方・方法	第1から第5週のコンピュータが扱うデータ形式と管理と保護は、講義形式で授業を行う。 第6週から第15週までのWordを用いた技術文書の作成と各種手法、およびPowerPointを用いた技術資料の作成と各種手法は、講義形式と演習形式で授業を行う。			
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。特に前提とする知識は必要ないので、すべての学科出身の学生が受講可能である。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課			
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	コンピュータで扱う文書に関するデータ形式とその特徴について説明する。	コンピュータで扱う文書に関するデータ形式とその特徴について理解できる。
		2週	コンピュータで扱うことができる画像や音声に関するデータ形式とその特徴について説明する。	コンピュータで扱うことができる画像や音声に関するデータ形式とその特徴について説明する。
		3週	コンピュータの構造、外部ストレージとネットワークについて説明する。	コンピュータの構造、外部ストレージとネットワークについて理解できる。
		4週	ストレージにおけるファイルの管理と保護（セキュリティ）について説明する。	ストレージにおけるファイルの管理と保護（セキュリティ）について理解できる。
		5週	ネットワークを利用したファイル管理と保護について説明する。	ネットワークを利用したファイル管理と保護について理解できる。
		6週	Excelを用いた技術資料の管理と活用について説明する。	Excelを用いた技術資料の管理と活用について理解できる。
		7週	Wordを用いたスタイル、章・節・項、フォントやインデントについて説明する。	Wordを用いたスタイル、章・節・項、フォントやインデントについて理解できる。
		8週	図や表のリンク付き貼り付けとメタファイル貼り付けについて、相互参照について、説明する。	図や表のリンク付き貼り付けとメタファイル貼り付けについて、相互参照について、理解できる。
	2ndQ	9週	表紙の作成と目次の自動更新、図目次と表目次、ヘッダーとフッターの加工について説明する。	表紙の作成と目次の自動更新、図目次と表目次、ヘッダーとフッターの加工について理解できる。
		10週	Wordによる技術文書の作成と提出（提出課題1）学習した手法を用いて技術文書を作成し提出する。	Wordによる技術文書の作成と提出 学習した手法を用いた技術文書の作成について理解できる。
		11週	PowerPointによる技術資料の作成 各種図形の作成方法、テンプレートの作成について説明する。	PowerPointによる技術資料の作成 各種図形の作成方法、テンプレートの作成について理解できる。
		12週	スライド/マスターの使用法、背景とヘッダー/フッターと発表活用について説明する。	スライド/マスターの使用法、背景とヘッダー/フッターと発表活用について理解できる。
		13週	画像データと音声や動画など効果手法の貼り付けと再生について説明する。	画像データと音声や動画など効果手法の貼り付けと再生について理解できる。
		14週	PowerPointによる技術資料の作成と提出（提出課題2）これまで学習した手法技術資料を作成し提出する。	PowerPointによる技術資料の作成と提出 これまで学習した手法技術資料を作成が理解できる。
		15週	PowerPointによるポスターの作成と印刷について説明する。	PowerPointによるポスターの作成と印刷について理解できる。
		16週	期末試験	期末試験
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	提出課題						合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	解析力学	
科目基礎情報							
科目番号	0016			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は指定しない。						
担当教員	小笠原 弘道						
到達目標							
(1) 拘束条件の取り扱いに着目してニュートン力学を整備することにより、ラグランジュ形式の力学が定式化されることを理解する。(D) (2) 多自由度系（無限自由度系である連続体を含む）の振動について、規準振動を中心とした基本的な概念を理解する。(D),(F) (3) 変分法を学習し、力学の基本法則が変分原理として定式化されることを理解する。(D),(H) (4) 2階の微分方程式である運動方程式を1階化することにより、ハミルトン形式（正準形式）の力学が定式化されることを理解する。(D),(H)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ラグランジュ力学の定式化が十分に理解できる。			ラグランジュ力学の定式化が理解できる。		ラグランジュ力学の定式化が理解できない。	
評価項目2	多自由度の振動系に関する基本概念を十分に理解できる。			多自由度の振動系に関する基本概念を理解できる。		多自由度の振動系に関する基本概念を理解できない。	
評価項目3	変分原理による力学の定式化が十分に理解できる。			変分原理による力学の定式化が理解できる。		変分原理による力学の定式化が理解できない。	
評価項目4	ハミルトン力学の定式化が十分に理解できる。			ハミルトン力学の定式化が理解できる。		ハミルトン力学の定式化が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	ニュートンの力学を数学的に整備したものが解析力学であり、解析力学は工学の広い領域に関わる重要な基礎部門の一つである。解析力学の理論を構成する仕方としてラグランジュ形式とハミルトン形式（正準形式）があるが、この科目では主にラグランジュ形式について学ぶ。ラグランジュ形式は、力学の種々の問題を見通し良く取り扱うもので、学期の終わりに紹介するハミルトン形式を学ぶ上でも基礎となるものである。						
授業の進め方・方法	講義による。						
注意点	この科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習および課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。想定されている学習時間全体に占める授業時間の割合が小さいことに注意し、予習または復習をしっかりと行うこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	仮想仕事の原理とダランベールの原理		仮想仕事の原理とダランベールの原理について、基本事項を習得する。		
		2週	ラグランジュの未定乗数法		ラグランジュの未定乗数法について、基本事項を習得する。		
		3週	ラグランジュの第1種運動方程式		ラグランジュの第1種運動方程式について、基本事項を習得する。		
		4週	一般座標と一般速度		一般座標と一般速度について、基本事項を習得する。		
		5週	ラグランジュの（第2種）運動方程式		ラグランジュの第2種運動方程式について、基本事項を習得する。		
		6週	連成振動系における規準座標		連成振動系について、基本事項を習得する。		
		7週	連成振動系における規準座標		連成振動系について、基本事項を習得する。		
		8週	波動		波動について、基本事項を習得する。		
	2ndQ	9週	連続体のラグランジュ形式		連続体のラグランジュ形式について、基本事項を習得する。		
		10週	変分法とオイラーの微分方程式		変分法とオイラーの微分方程式について、基本事項を習得する。		
		11週	ハミルトンの原理		ハミルトンの原理について、基本事項を習得する。		
		12週	ハミルトンの正準方程式		ハミルトンの正準方程式について、基本事項を習得する。		
		13週	ハミルトンの正準方程式		ハミルトンの正準方程式について、基本事項を習得する。		
		14週	ハミルトン形式による変分原理		ハミルトン形式による変分原理について、基本事項を習得する。		
		15週	まとめと補足		ラグランジュ形式とハミルトン形式の関係を理解する。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	演習課題			合計	
総合評価割合		70	30			100	
基礎的能力		0	0			0	
専門的能力		70	30			100	

分野横断的能力	0	0	0
---------	---	---	---

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	インクルーシブデザイン概論	
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	『インクルーシブデザイン ハンドブック』、平井康之編著、財団法人たんぼの家、2006年』、『IAUD UDマトリックス ユーザー情報集・事例集』、国際ユニバーサルデザイン協議会編、『I C F』厚労省資料他						
担当教員	大塚 毅彦,秋田 直繁,朝尾 浩康,岩田 直樹,竹綱 章浩						
到達目標							
(1) 日本・ヨーロッパにおけるインクルーシブデザインの理解 (2) ユーザー参加型手法についての理解 (3) 障害を持つ多様な人の生活を包括的に援助するための、確かな知識と実践力及び人間性の涵養を目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	インクルーシブデザインについて十分理解し説明できる		インクルーシブデザインについて理解し説明できる		インクルーシブデザインについて理解し、説明できない。		
評価項目2	複数の知識を十分に応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できる。		複数の知識を応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できる。		複数の知識を応用し、解が一つでなく複数のアイデアを提示できない。		
評価項目3	多様なユーザー特性を十分に理解し、説明できる		多様なユーザー特性を理解し説明できる。		多様なユーザー特製を理解し、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	インクルーシブデザインとはこれまで除外されて来た（エクスクルード）ユーザーを包含し（インクルード）かつビジネスとして成り立つメインストリームのデザイン開発を目的とした考え方で、特に最近ではイノベーションの有効な手法としても注目されている。本論では、具体的な医療・福祉分野等での事例研究を題材に、ヨーロッパにおけるインクルーシブデザイン、日本におけるインクルーシブデザイン、およびそのプロセスであるユーザー参加型手法について、WSなどを交えながら理解することを目標とする。竹綱は、30年間デザイナーとして従事。岩田は25年間デザイナーとして従事。朝尾は、30年間、介護・バリアフリー住宅部門の企業を経営。これらの経験を活かし授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	授業が、講義形式とワークショップ等の演習方式によっておこなう。授業に必要な資料は講義で適宜配布する。参考図書：「インクルーシブデザイン: 社会の課題を解決する参加型デザイン」（学芸出版社）						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。出身学科を問わず、できるだけ平易に授業し、グループによるワークショップも行う予定である。 合格の対象としない欠席条件(割合) その他						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	インクルーシブデザインとは何か？①、（竹綱章浩（きづきデザインラボ））世界のアクセシブルデザインを理解する。」 これまでのデザインとインクルーシブデザインは何か違うのか？なぜその必要性があるのかについて具体的な事例を題材とし、いっしょに考えていく		世界のアクセシブルデザイン、バリアフリーからユニバーサルデザインを理解する。		
		2週	インクルーシブデザインとは何か？②（竹綱章浩（きづきデザインラボ）） インクルーシブデザインの成立背景やユニバーサルデザインやバリアフリーなど類似の概念との相違点について医学薬学分野での具体的な事例を題材とし、いっしょに考えていく。		インクルーシブデザインの概念・方法論を理解する。		
		3週	第3週 疑似体験による校内バリアフリー 大塚 様々な疑似体験用具を用いて、明石高専内の施設点検を行う。		高齢者、視覚障害者などの疑似体験によって各ユーザーの特製を理解する。		
		4週	オフィス空間とインクルーシブデザイン1（秋田直繁（九州大学大学院助教））、大塚 企業では経営理念やビジョンに基づいて商品開発を行っている。企業経営とモノづくりの関係や市場との関係、顧客との関係を考えながら企業でのインクルーシブデザインについて考える。		オフィス空間でのインクルーシブデザインの実例をもとにユーザーリサーチの方法を学ぶ。		
		5週	オフィス空間とインクルーシブデザイン2（秋田） オフィスとは何か、オフィス空間にはどのような機能があり、どのようなプロダクトが存在するのか。そして、オフィスを計画し、空間をデザインするために何をしなければならないのかを考える。		オフィス空間でのインクルーシブデザインを当事者とともに考えることができる。		
		6週	オフィス空間とインクルーシブデザイン3（秋田） オフィスで使うプロダクトには文具や家具などがあるが、それらの商品がどのような考え方、プロセスを経てデザインされているのかを事例を基に学ぶ。		オフィス空間でのインクルーシブデザインプロセスを理解する。		
		7週	オフィス空間とインクルーシブデザイン4（秋田）、大塚 普段勉強している教室や学校空間で気づいたことを出し合って、グループでディスカッションし、課題を設定。そしてアイデアを出し合う。		社会課題を行動観察によって設定でき、課題解決ができる。		

2ndQ	8週	チームメイド・デザイン1（岩田直樹（アトリエ・カプリス）） 社会で実際に実践している「チームメイド・デザイン」の事例を紹介しながら、実際に体験をする。「グラフィックデザイン」について講義を行う。	参加と共創のデザインについて、理解する。
	9週	チームメイド・デザイン2（岩田）、大塚 チームメイド・デザインによる「グラフィックデザイン（学生による学科紹介パンフレット・DVD）」の実践をおこなう。実際に行い、検証することで、課題の抽出をおこなう。	チームメイドデザインを使いグラフィックデザイン（パンフレット）を作成する
	10週	I C Fと福祉住環境（朝尾浩康(株)アーサ） 福祉のメインストリームとなっている I C Fの考え方と住環境の関連性及び重要性を認識させ、各疾患ケースの住環境整備のポイントを実践事例から考察し多様な人に対するアプローチ方法を学ぶ。	I C Fの考え方と住環境の関連性及び重要性を認識し、住環境整備の基礎を理解する。
	11週	生活環境と住宅設備 ー体感学習ー（朝尾）、大塚 バリアフリー住宅にある主要な設備とそのデザインを考察して、身体に障害を持つ人の生活を包括的に捉えて課題分析をおこない、アプローチ方法を学習する。	インクルーシブなバリアフリー住宅整備の基礎を学ぶ。
	12週	当時者ととの対話によるソーシャル・イノベーション 大塚 我が国の当事者参画の「ユーザーエキスパートシステム」、兵庫県福祉のまちづくり条例における「福祉のまちづくりアドバイザー」制度等の概要について説明する。	我が国、自治体における福祉のまちづくりについて理解する。
	13週	インクルーシブデザインワークショップ1（秋田）・大塚 「アスピレーションのデザイン：デザインができること」というテーマでワークショップを行う。導入として、ワークショップの考え方、進め方について説明する。	当事者とともにインクルーシブデザイン手法によって様々な課題をリサーチする。
	14週	インクルーシブデザインワークショップ2（秋田）・大塚 プロセスにおいて、ニーズの中から重要な課題を抽出し可視化を行う。ユーザーとの直接のやりとりや観察の中から得られた気づきを整理し、重要課題を見つけ出す。	社会課題を抽出・リサーチし可視化し、課題解決を行う。
	15週	インクルーシブデザインワークショップ3 講評会（秋田）・大塚 見つけ出された重要課題についての解決策をデザインする。最後にチーム単位でプレゼンテーションを行う。	重要課題について、インクルーシブデザインによる解決案のプレゼができる。
	16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	70	0	0	30	0	100

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	専攻科インターンシップ
科目基礎情報						
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	なし					
担当教員	M E 全					
到達目標						
(1) 実習先の企業等で実際の技術活動の一部を体験し、必要な援助を得て問題解決に取り組むことができる。 (2) 配属された職場で協調的に活動し、自由な発想ができる。 (3) 体験的に学んだ事柄を効果的に報告できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	実習先の企業等で実際の技術活動の一部を体験し、必要な援助を得て問題解決に積極的に取り組むことができる。		実習先の企業等で実際の技術活動の一部を体験し、必要な援助を得て問題解決に取り組むことができる。		実習先の企業等で実際の技術活動の一部を体験し、必要な援助を得て問題解決に取り組むことができない。	
評価項目2	配属された職場で協調的に活動し、自由な発想が積極的に行える。		配属された職場で協調的に活動し、自由な発想ができる。		配属された職場で協調的に活動し、自由な発想ができない。	
評価項目3	体験的に学んだ事柄を効果的かつ適切に報告できる。		体験的に学んだ事柄を効果的に報告できる。		体験的に学んだ事柄を効果的に報告できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G)						
教育方法等						
概要	サンドイッチシステム、インターンシップシステムの導入の一部として本科目を設ける。主として企業または官公庁などにおいて技術体験を通じて実践的技術感覚を会得すること、および技術体験で得た成果を学習に生かすことが本科目のねらいである。					
授業の進め方・方法	実習先の指導員の指示に従う。					
注意点	明石高専専攻科インターンシップ要領を熟読し、専攻主任又は特別研究指導教員と緊密に連絡を取り合うこと。実習期間中は、積極的に技術等の習得に努め、服装・言葉遣い等、実習生に相応しいものであること。実習期間は夏季休業期間等の実働日数10日間以上とする。実習の事前指導(マナー教育、実習先の下調べ)、事後の報告会、報告書の作成までを専攻科インターンシップに最大15時間を含めることができ、総時間数を90時間とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		履修上の注意・実習先でのマナーなどの注意を行う。	
		2週	実習		実習先において個別の技術体験を行う。	
		3週	同上		同上	
		4週	同上		同上	
		5週	同上		同上	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	
		8週	同上		同上	
	2ndQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		同上	
		11週	同上		同上	
		12週	同上		同上	
		13週	同上		同上	
		14週	同上		同上	
		15週	同上		同上	
		16週	期末試験実施せず			
後期	3rdQ	1週	同上		同上	
		2週	同上		同上	
		3週	同上		同上	
		4週	同上		同上	
		5週	同上		同上	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	
		8週	同上		同上	
	4thQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		同上	
		11週	同上		同上	
		12週	同上		同上	
		13週	同上		同上	

		14週	同上		同上
		15週	インターンシップ報告会		実習成果の総合的な発表を行う。
		16週	期末試験実施せず		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合					
	実習先評価		報告書・日誌	報告会	合計
総合評価割合	30		30	40	100
基礎的能力	0		0	0	0
専門的能力	30		30	40	100
分野横断的能力	0		0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	工学基礎研究	
科目基礎情報							
科目番号	0019			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	4		
教科書/教材	担当教員が必要に応じて配布する。						
担当教員	M E 全						
到達目標							
(1)専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的かつ独創的に考察できる。 (2)得られた研究成果をレポート及びポスターとしてまとめ、それを口頭で他者に伝え、討議することができる。 (3)自主的・継続的に学習・研究に取り組むことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的かつ独創的に考察できる			専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的に考察できる。		専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的に考察できない。	
評価項目2	得られた研究成果をレポート及びポスターとしてまとめ、それを口頭で分かり易く他者に伝え、十分に討議することができる。			得られた研究成果をレポート及びポスターとしてまとめ、それを口頭で他者に伝え、討議することができる。		得られた研究成果をレポート及びポスターとしてまとめることができず、それを口頭で他者に伝え、討議することができない。	
評価項目3	自主的・継続的に学習・研究に十分取り組むことができる。			自主的・継続的に学習・研究に取り組むことができる。		自主的・継続的に学習・研究に取り組むことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	本科目は、学科における卒業研究を基礎として、更にレベルの高い機械・電子システム工学分野の研究を担当教員の下で行い、専攻科特別研究の土台となる素養を身に付ける。						
授業の進め方・方法	本科目では、自発的な研究への取り組みが特に肝要であるので、研究テーマの設定については担当教員が先ず予定テーマを提示し、更に学生の工学的興味を出来るだけ尊重し協議した上でテーマを決定する。また、与えられた問題点を探索し、アプローチ法を考え、解答に至るまでの各研究プロセスを出来るだけ自己の判断によって自主的に行う。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、180時間に相当する学習内容である。学科で培われた素養を基礎にして自主的、積極的に研究を進めること。合格の対象としない欠席条件(割合) その他						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	研究テーマの設定 各担当教員の下で個別に説明・指示する。		各指導教員のもとで、自主的に研究テーマを決定することができる。		
		2週	個別研究 各担当教員の指示により個別に実施する。		各指導教員のもとで、学習・研究を自主的・継続的に実施することができる。		
		3週	個別研究 同上		同上		
		4週	個別研究 同上		同上		
		5週	個別研究 同上		同上		
		6週	個別研究 同上		同上		
		7週	個別研究 同上		同上		
		8週	個別研究 同上		同上		
	2ndQ	9週	個別研究 同上		同上		
		10週	個別研究 同上		同上		
		11週	個別研究 同上		同上		
		12週	個別研究 同上		同上		
		13週	個別研究 同上		同上		
		14週	個別研究 同上		同上		
		15週	個別研究 同上		同上		
		16週	期末試験実施せず				
後期	3rdQ	1週	個別研究 同上		同上		
		2週	個別研究 同上		同上		

		3週	個別研究 同上	同上
		4週	個別研究 同上	同上
		5週	個別研究 同上	同上
		6週	個別研究 同上	同上
		7週	個別研究 同上	同上
		8週	個別研究 同上	同上
	4thQ	9週	個別研究 同上	同上
		10週	個別研究 同上	同上
		11週	個別研究 同上	同上
		12週	個別研究 同上	同上
		13週	個別研究 同上	同上
		14週	個別研究 同上	同上
		15週	発表審査会	得られた研究成果をレポート及びポスターとしてまとめ、それを口頭で他者に伝え、討議することができる。
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	40	30	0	0	100	
基礎的能力	0	10	20	10	0	0	40	
専門的能力	0	20	20	20	0	0	60	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	システム制御工学	
科目基礎情報							
科目番号	0020			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	指定はしないが、豊橋技術科学大学・高等専門学校制御工学教育連携プロジェクト：制御工学、実教出版、白石：入門現代制御理論、日刊工業新聞社、森：演習で学ぶ現代制御理論、森北出版などが参考になる						
担当教員	上 泰						
到達目標							
1. 状態空間表現を導出できる 2. Lyapunovの安定判別法を用いて、線形時不変システムの安定判別ができる 3. 可制御正準系への変換を通じて、指定の極配置を実現する状態フィードバックゲインを算出できる 4. 双対システムを利用して、指定の極配置を実現するオブザーバゲインを算出できる 5. 最適レギュレータを用いて達成（調整）できる制御性能について説明できる 6. 併合系の極の構成の特徴・安定条件を説明できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
状態空間表現の導出	任意の線形時不変システムについて、その状態空間表現を導出できる			幾つかの典型的なシステム例について、その状態空間表現を導出できる		状態空間表現の定義を知らない	
Lyapunovの安定判別法による安定判別	Lyapunovの安定判別法における判定手順に基づき、安定性を判別できる			Lyapunovの安定判別法における判定手順を説明できる		Lyapunovの安定判別法を知らない	
可制御正準系への変換を通じた状態フィードバックゲインの算出	可制御正準系への変換を行い、目的の状態フィードバックゲインを算出できる			状態フィードバック制御において安定化すべき行列を説明できる		状態フィードバック制御則を知らない	
双対システムを利用したオブザーバゲインの算出	双対システムを利用して、目的のオブザーバゲインを算出できる			オブザーバの設計において安定化すべき行列を説明できる		オブザーバを知らない	
最適レギュレータの制御上の意味	最適レギュレータで達成できる制御性能のトレードオフについて説明できる			最適レギュレータで達成できる制御性能について説明できる		最適レギュレータを知らない	
併合系の極の構成・安定条件	併合系の極の構成を踏まえ、安定条件について説明できる			併合系の極の構成上の特徴を説明できる		併合系の極の構成上の特徴を知らない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	古典制御では入出力関係のみに着目した伝達関数を基礎とし、周波数領域で制御系を設計する。これに対し、現代制御理論では、システム内部の状態を表す変数(状態変数)を用いた状態空間表現を基礎とし時間領域で制御系を設計する。本講義では、現代制御理論の基礎的な内容を一通り扱う。						
授業の進め方・方法	状態方程式の導出、Lyapunovの安定判別法、可制御性と可観測性、状態フィードバック制御器とオブザーバの設計法などについて学ぶ。 講義内容の説明が終了次第、その内容を復習する演習を実施する形式の授業を、ほぼ毎回実施する。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。また、ラプラス変換や伝達関数、行列論の初歩である固有値や逆行列などの基礎知識を前提とし、成績不振をカバーするための追試は実施しない。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	状態空間表現の導入		状態空間表現の定義式を記述できる 状態空間表現の導出プロセスを説明できる		
		2週	状態方程式の解		状態方程式の解を導出できる 状態遷移行列の意味を説明できる 状態遷移行列を算出できる		
		3週	状態方程式と伝達関数の関係、および、安定条件		状態空間行列から伝達関数を計算できる 状態空間表現されたシステムの安定条件を説明できる		
		4週	相似変換と伝達関数の不変性		相似変換の計算式を説明できる 与えられた相似変換行列を用いて状態を相似変換できる		
		5週	安定性の概念とLyapunovの安定判別法(1)		安定性と状態変数の収束値の関係を説明できる Lyapunovの安定判別法について説明できる		
		6週	Lyapunovの安定判別法(2)		Lyapunovの安定判別法に基づき、状態空間表現で与えられた線形時不変システムの安定性を判別できる		
		7週	演習		前半の講義内容の復習として演習を行う。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	状態フィードバックと可制御性		状態フィードバック制御則について説明できる 可制御条件に基づき、可制御性を判定できる		
		10週	可制御正準形の性質と制御系設計		可制御正準形におけるシステム行列の特徴、および、伝達関数との対応について説明できる 可制御正準系への変換を通じて、指定した極配置を達成する状態フィードバックゲインを算出できる		
		11週	状態観測器(オブザーバ)と可観測性		オブザーバの構成について説明できる 可観測条件に基づき、可観測性を判定できる		

		12週	可観測正準形の性質と双対システムを利用したオブザーバの設計	可観測正準形におけるシステム行列の特徴、および、伝達関数との対応について説明できる 双対システムを用いて指定した極配置を達成するオブザーバゲインを算出できる
		13週	極零相殺と可制御・可観測、最適レギュレータ、カルマンフィルタ	極零相殺と可制御性・可観測性の成立の関係について説明できる 最適レギュレータとカルマンフィルタの制御上の意味を説明できる
		14週	状態観測器を用いた状態フィードバック制御（併合系）	併合系の極の構成を説明できる 併合系の安定条件を説明できる
		15週	演習	後半の講義内容の復習として演習を行う。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	演習	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	応用計測工学
科目基礎情報						
科目番号	0021		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント配布、参考図書（前田、木村、押田:「計測工学」、コロナ社）					
担当教員	格内 敏					
到達目標						
以下の各事項について総合的に理解し、学習した知識を適切に応用できることを達成度目標とする。 (1) 計測の基礎（単位と標準、測定と誤差、測定値の扱い） (2) 計測系の構成と特性、および測定量の拡大・縮小・変換の方式 (3) レーザ計測（長さの測定、表面形状の測定、ホログラフィ干渉法、電子スเปックル干渉法、光ファイバー応用計測）						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	計測の基礎（単位と標準、測定と誤差、測定値の扱い）について理解し応用できる。		計測の基礎（単位と標準、測定と誤差、測定値の扱い）について理解できる。		計測の基礎（単位と標準、測定と誤差、測定値の扱い）について理解できない。	
評価項目2	計測系の構成と特性、および測定量の拡大・縮小・変換の方式について理解し応用できる。		計測系の構成と特性、および測定量の拡大・縮小・変換の方式について理解できる。		計測系の構成と特性、および測定量の拡大・縮小・変換の方式について理解できない。	
評価項目3	レーザ計測（長さの測定、表面形状の測定、ホログラフィ干渉法、電子スเปックル干渉法、光ファイバー応用計測）について理解し応用できる。		レーザ計測（長さの測定、表面形状の測定、ホログラフィ干渉法、電子スเปックル干渉法、光ファイバー応用計測）について理解できる。		レーザ計測（長さの測定、表面形状の測定、ホログラフィ干渉法、電子スเปックル干渉法、光ファイバー応用計測）について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	最近の著しい技術の進歩は、より高精度な計測を必要としてきた。特にレーザ光線の発明は、非接触・高精度な計測技術として目覚ましい発展を遂げた。 本講義では、 1)計測に共通な基礎事項（計測工学とは、単位・標準、計測の誤差とその処理、計測系の構成と特性、測定量の拡大・縮小・変換など）を総括・復習する。 2)レーザ計測についての基礎的知識と応用例について論じ、文献・資料調査等を通して、事象を計測評価するための応用力を高める。					
授業の進め方・方法	講義形式により授業を進める。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	総論 計測工学とは何か、その基本概念について学ぶ。		計測工学とは何か、その基本概念について理解する。	
		2週	計測の基礎(1) 計測の基本となる単位、単位系について学び、国際標準である SI(国際単位系)の構成原理を明らかにする。また、単位と次元および次元式の意味を考える。		計測の基本となる単位、単位系、国際標準である SI(国際単位系)の構成原理、単位と次元および次元式の意味について理解する。	
		3週	計測の基礎(2) 測定の種類と測定方式、測定量の表示方法、および計測系の特性について学ぶ。		測定の種類と測定方式、測定量の表示方法、および計測系の特性について理解する。	
		4週	測定と誤差 誤差とは、誤差の種類、測定時の誤差例とその対策について学ぶ。		誤差とは、誤差の種類、測定時の誤差例とその対策について理解する。	
		5週	測定値の扱い 有効数字、近似計算、測定値の統計的処理、誤差の伝播、最小二乗法について学ぶ。		有効数字、近似計算、測定値の統計的処理、誤差の伝播、最小二乗法について理解する。	
		6週	測定量の拡大・縮小・変換(1) 同じ種類の量の大きさを変える拡大・縮小、異なる種類の量の大きさに対応付ける変換方法について、機械的方法と光学的方法について考察する。		同じ種類の量の大きさを変える拡大・縮小、異なる種類の量の大きさに対応付ける変換方法について、機械的方法と光学的方法について理解する。	
		7週	測定量の拡大・縮小・変換(2) 流体的方法、電気的方法、電気物性の変化を利用した方法について考察する。		流体的方法、電気的方法、電気物性の変化を利用した方法について理解する。	
		8週	レーザ計測の基礎 レーザ発振原理、レーザ光の特徴、レーザ計測の特徴を学ぶ。		レーザ発振原理、レーザ光の特徴、レーザ計測の特徴について理解する。	
	2ndQ	9週	レーザ光を用いた長さの測定 長さ標準の光速度を用いた測定、波長を用いた干渉測定、さらに高精度な長さ測定法について考察する。		長さ標準の光速度を用いた測定、波長を用いた干渉測定、さらに高精度な長さ測定法について理解する。	
		10週	レーザ光を用いた表面形状の測定(1) 幾何光学と干渉計による表面形状測定法について考察する。		幾何光学と干渉計による表面形状測定法について理解する。	
		11週	レーザ光を用いた表面形状の測定(2) 縞走査干渉法を用いた高精度な形状測定法について考察する。		縞走査干渉法を用いた高精度な形状測定法について理解する。	

		12週	ホログラフィとホログラフィ干渉法 波面の記録・再生の測定原理、二重露光法による変位・変形の応用測定、および高精度な測定法について考察する。	波面の記録・再生の測定原理、二重露光法による変位・変形の応用測定、および高精度な測定法について理解する。
		13週	電子スペックル干渉法 感光材料（乾板）を使用しないスペックル干渉法の測定原理、変位・変形の応用測定について考察する。	感光材料（乾板）を使用しないスペックル干渉法の測定原理、変位・変形の応用測定について理解する。
		14週	光ファイバー応用計測 光ファイバーの特徴とレーザ光を併用した応用計測について考察する。	光ファイバーの特徴とレーザ光を併用した応用計測について理解する。
		15週	レーザ計測のまとめ 総括として、レーザ計測の医学への応用例について学ぶ。	レーザ計測の医学への応用例について理解する。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題レポート	試験	合計	
総合評価割合		40	60	100	
基礎的能力		0	0	0	
専門的能力		40	60	100	
分野横断的能力		0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	不規則信号解析	
科目基礎情報							
科目番号	0022		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	指定しない						
担当教員	井上 一成						
到達目標							
本講義では、 (1)確率、確率論に関して、基本的事項を説明する能力、基本的法則を用いた確率の計算ができる。 (2)待ち行列理論に関して、平均到着や平均サービスなどパラメータを用いて待ち行列の計算ができる。 (3)信頼性の解析に関して、故障率と平均寿命、並列システム、直列システムの信頼度の計算ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 確率、確率論		基本的事項を説明する能力、基本的法則を用いた確率の計算が十分にできる。		基本的事項を説明する能力、基本的法則を用いた確率の計算ができる。		基本的事項を説明する能力、基本的法則を用いた確率の計算ができない。	
評価項目2 待ち行列理論		平均到着や平均サービスなどパラメータを用いて待ち行列の計算が十分にできる。		平均到着や平均サービスなどパラメータを用いて待ち行列の計算ができる。		メータを用いて待ち行列の計算ができない。	
評価項目3 信頼性の解析		故障率と平均寿命、並列システム、直列システムの信頼度の計算が十分にできる。		故障率と平均寿命、並列システム、直列システムの信頼度の計算ができる。		故障率と平均寿命、並列システム、直列システムの信頼度の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要		確率論と確率過程論を基礎として、統計的な取り扱い方を講義する。確率論の基礎として、事象と確率、確率変数、確率分布関数、平均と分散等について解説する。 待ち行列理論の導き方から平均到着や平均サービスなどパラメータを用いた待ち行列の計算について解説する。					
授業の進め方・方法		第1週から第15週まで、講義と演習課題形式で授業を進める。課題演習は到達目標に掲げた項目毎に実施する。					
注意点		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	事象と確率、独立と従属について、確率の統計的な取り扱い方について、説明する。		事象と確率、独立と従属について、確率の統計的な取り扱い方について、理解できる。		
		2週	結合事象、独立性、条件付き確率について、ベイズの定理について、説明する。		結合事象、独立性、条件付き確率について、ベイズの定理について、理解できる。		
		3週	データの散らばりを表す指標について、分散と偏差、Z変換について、理解できる。		データの散らばりを表す指標について、分散と偏差、Z変換について、理解できる。		
		4週	二次元データの整理方法について、直交と相関について、説明する。		二次元データの整理方法について、直交と相関について、理解できる。		
		5週	確率変数と確率分布について、確率をともなう変数の意味について、説明する。		確率変数と確率分布について、確率をともなう変数の意味について、理解できる。		
		6週	離散型・連続型の確率変数について、二項分布、ポアソン分布などについて、説明する。		離散型・連続型の確率変数について、二項分布、ポアソン分布などについて、理解できる。		
		7週	移動平均法を用いた計算について、ノイズ除去について、説明する。		移動平均法を用いた計算について、ノイズ除去について、理解できる。		
		8週	信号とノイズについて、S/N比デシベルに関する計算について、説明する。		信号とノイズについて、S/N比デシベルに関する計算について、理解できる。		
	4thQ	9週	第一種過誤・第二種過誤について、検定について、説明する。		第一種過誤・第二種過誤について、検定について、理解できる。		
		10週	M/M/1による待ち行列の理論を説明する。		M/M/1による待ち行列の理論を理解することができる。		
		11週	平均到着率、平均サービス率から待ち行列を計算について説明する。		平均到着率、平均サービス率から待ち行列を計算することができる。		
		12週	バスタブカーブ、故障率一定期間と平均寿命について説明する。		バスタブカーブ、故障率一定期間と平均寿命について理解できる。		
		13週	初期数、故障率から平均残存数と信頼度を計算について説明する。		初期数、故障率から平均残存数と信頼度を計算することができる。		
		14週	並列システムと直列システム、冗長構成による信頼度を計算について説明する。		並列システムと直列システム、冗長構成による信頼度を計算することができる。		
		15週	総まとめ。これまで学習した内容を振り返り、全体を再度説明する。		総まとめ。これまで学習した内容を振り返り、全体を再度理解できる。		
		16週	期末試験		期末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題演習					合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	電磁気学特論
科目基礎情報					
科目番号	0023		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	学習内容に沿ったテキスト及び演習問題用のプリント配布を行う。				
担当教員	梶村 好宏				
到達目標					
評価項目 (1) 静電界の現象における法則や問題を定式化し応用的な問題を解くことができる。 評価項目 (2) 誘電体の性質を理解し、分極時の電界の定量的評価に関する問題を解くことができる。 評価項目 (3) 電流及び磁界現象における法則や問題を定式化し応用的な問題を解くことができる。 評価項目 (4) Maxwell の電磁方程式を導出し、応用的な問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	静電界の現象における法則や問題を定式化し応用的な問題を解くことができる。		静電界の現象における法則や問題を定式化し問題を解くことができる。		静電界の現象における法則や問題を定式化し問題を解くことができない。
評価項目2	誘電体の性質を理解し、分極時の電界の定量的評価に関する応用的な問題を解くことができる。		誘電体の性質を理解し、分極時の電界の定量的評価に関する問題を解くことができる。		誘電体の性質を理解し、分極時の電界の定量的評価に関する問題を解くことができない。
評価項目3	電流及び磁界現象における法則や問題を定式化し応用的な問題を解くことができる。		電流及び磁界現象における法則や問題を定式化し問題を解くことができる。		電流及び磁界現象における法則や問題を定式化し問題を解くことができない。
評価項目4	Maxwell の電磁方程式を導出し、応用的な問題を解くことができる。		Maxwell の電磁方程式を導出し、問題を解くことができる。		Maxwell の電磁方程式を導出し、問題を解くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)					
教育方法等					
概要	当教科は電気情報工学科の電気磁気学Ⅰ・Ⅱを基礎とし、更に充実発展させるものである。電気磁気学Ⅰ・Ⅱでも概ね大学レベルの講義を行っているが、学年的な制約(周辺基礎学力等との関連)から一部の事項を省いたり、厳密な取扱いを緩めて簡略化したりしている部分がある。専攻科においては、特に電気磁気学のような基礎科目の学力は名実共に大学並としておくことが望ましいと考えられるので、電気磁気学Ⅰ・Ⅱの内容を補いつつ一層のレベルアップを図る。				
授業の進め方・方法	成績評価は100%定期試験の成績で評価する。これらを総合して60点以上を獲得することが合格ラインである。配布するプリントの内容は電磁気学の理論、定式化および具体的な計算問題である。				
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。受講に当たっては、本校電気情報工学科の電気磁気学I及びII(第3・第4学年)程度の電気磁気学を修得していることが望ましい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	真空中の静電界 電氣的現象の場としての電界、電気力線という仮想的概念について解説し、電界のポテンシャルとしての電位を定義し、電位の傾きとしての電界を考える。この場の計算には、 ∇ 、grad を使用する。	電氣的現象の場としての電界、電気力線という仮想的概念について理解し、電界のポテンシャルとしての電位を定義し、電位の傾きとしての電界を考えることができる。	
		2週	ガウスの定理 電界を計算する場合に最も多く利用されると思われる「ガウスの定理」について、その物理的意味および計算への応用法を解説し、例題を紹介する。	電界を計算する場合に最も多く利用されると思われる「ガウスの定理」について、その物理的意味および計算への応用法を理解し、例題を解くことができる。	
		3週	ラプラスおよびポアソンの方程式 発散(div)を導入して電気力線およびベクトルの発散について物理的・数学的に考察する。また、静電界を記述する最も汎用的で有名なラプラスおよびポアソンの方程式の使用例を解説する。	発散(div)を導入して電気力線およびベクトルの発散について物理的・数学的に考察することができる。また、静電界を記述する最も汎用的で有名なラプラスおよびポアソンの方程式の使用法を理解している。	
		4週	静電容量 帯電した導体系について、電位係数・容量係数、導体系の保有するエネルギーを概説する。導体系の最もポピュラーな2つの導体系即ち静電容量については実際の計算例を含めて詳しく学ぶ。	帯電した導体系について、電位係数・容量係数、導体系の保有するエネルギーを理解できる。導体系の最もポピュラーな2つの導体系即ち静電容量については実際の計算例を含めて理解できる。	
		5週	誘電体(分極) コンデンサでは真空(空気)より絶縁物(誘電体)のある場合が多い。電界中の誘電体での物理現象を知る上で、電束密度の概念を導入し、種々の物質の誘電率等について学ぶ。	コンデンサでは真空(空気)より絶縁物(誘電体)のある場合が多い。電界中の誘電体での物理現象を知る上で、電束密度の概念を導入し、種々の物質の誘電率等について説明できる。	
		6週	誘電体中の電界 誘電体中の電界の取扱い特に、誘電体の界面条件、電気力線の屈折、電界のエネルギー密度、誘電体に働く力(仮想変位の法)について解説し、例題を解く。	誘電体中の電界の取扱い特に、誘電体の界面条件、電気力線の屈折、電界のエネルギー密度、誘電体に働く力(仮想変位の法)について説明でき、例題を解くことができる。	
		7週	影像法による電界 真空中及び誘電体中での電界を求める場合、一般的にはラプラス及びポアソンの方程式を解くことになるが、特別な境界条件では古くから知られた巧妙かつ簡単な解法「影像法」について解説する。	真空中及び誘電体中での電界を求める場合、一般的にはラプラス及びポアソンの方程式を解くことになるが、特別な境界条件では古くから知られた巧妙かつ簡単な解法「影像法」について説明できる。	

4thQ	8週	電流の場と静電界 連続導体中を電流が分布して流れている場合、静電界との相似を使用して簡単に問題が解ける場合がある。また、回路でよく出てくるキルヒホッフの法則を電気磁気学的に表現する。	連続導体中を電流が分布して流れている場合、静電界との相似を使用して簡単に問題が解ける場合がある。また、回路でよく出てくるキルヒホッフの法則を電気磁気学的に表現する。
	9週	磁界 磁界の根源は電流にある、との基本的立場からビオ・サバールの法則を出発点とし、アンペアの周回積分の法則を導く過程を詳説する。	磁界の根源は電流にある、との基本的立場からビオ・サバールの法則を出発点とし、アンペアの周回積分の法則を導く過程を説明できる。
	10週	磁界分布の計算 電界とは出発点の異なる磁界を記述するには電界とは異なる数学的表現が必要となる。磁界ではベクトルの回転(rot)が重要となる。ベクトル・ポテンシャル、電流に働く力等を解説する。	電界とは出発点の異なる磁界を記述するには電界とは異なる数学的表現が必要となる。磁界ではベクトルの回転(rot)となり、ベクトル・ポテンシャル、電流に働く力等を説明できる。
	11週	磁性体 磁界を利用する実際の電気機器では殆ど磁性体(強磁性体)を使用する。理論的な取扱の難しい磁性体について、磁界と静電界の対応(BD、HE対応)、磁気回路、磁界のエネルギー密度等含めて解説する。	磁界を利用する実際の電気機器では殆ど磁性体(強磁性体)を使用する。理論的な取扱の難しい磁性体について、磁界と静電界の対応(BD、HE対応)、磁気回路、磁界のエネルギー密度等含めて説明できる。
	12週	電磁誘導現象 発電機等多くの機器の原理である電磁誘導現象だが、磁束自身の時間的変動でも導体—磁束の相対運動によっても起電力は生じる。この現象を数式的に扱い、Maxwell の電磁方程式へと導く。	発電機等多くの機器の原理である電磁誘導現象だが、磁束自身の時間的変動でも導体—磁束の相対運動によっても起電力は生じる。この現象を数式的に扱い、Maxwell の電磁方程式へと導くことができる。
	13週	インダクタンス 電気回路でも代表的な素子としてインダクタンスは頻出するが、磁界エネルギーという観点から自己インダクタンス、相互インダクタンスを学び、計算例として往復線路の波動伝搬速度等を解説する。	電気回路でも代表的な素子としてインダクタンスは頻出するが、磁界エネルギーという観点から自己インダクタンス、相互インダクタンスを学び、計算例として往復線路の波動伝搬速度等を計算することができる。
	14週	Maxwell の電磁方程式 電気電子工学や物理学を学ぶ者にとって極めて重要な意味を持つ、Maxwell の電磁方程式を詳説する。方程式の導出すると共に、同方程式からこれまで学んできた電界磁界の基本法則を逆導出する。	電気電子工学や物理学を学ぶ者にとって極めて重要な意味を持つ、Maxwell の電磁方程式を説明できる。また、方程式の導出すると共に、同方程式からこれまで学んできた電界磁界の基本法則を逆導出することができる。
	15週	Maxwell 電磁方程式の解と電磁波 Maxwell の電磁方程式を連立偏微分方程式として解き、その結果として電磁波の存在とその速度を計算する。また、電磁波の基本的性質を解説する。	Maxwell の電磁方程式を連立偏微分方程式として解き、その結果として電磁波の存在とその速度を計算することができる。また、電磁波の基本的性質を解説できる。
	16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	材料力学特論
科目基礎情報						
科目番号	0024		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	平尾雅彦監修・森下智博著：「材料力学II」，森北出版					
担当教員	森下 智博					
到達目標						
1) 多軸応力状態における応力・ひずみ・変位の解法を体系的に理解し、基本的な問題に適用できる。 2) 平板の曲げ問題に関する基礎的事項を理解し、1次元と2次元の問題を比較・考察できる。 3) 応力・ひずみ・弾性係数に関する発展的事項を理解し、それらを用いて材料力学の諸問題を3次元的に考察できる。 4) 材料の弾塑性に関する力学的挙動とその解析法を理解し、それらを強度計算に応用できる。 5) 上記の事柄について他者に説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	多軸応力の基礎式を体系的に理解し、基本的な問題に適用できる。		多軸応力の諸公式を基本的な問題に適用できる。		多軸応力の諸公式を基本的な問題に適用できない。	
評価項目2	平板の曲げ問題に関する基礎的事項を理解し、はりとの違いを説明できる。		平板の曲げ問題に関する公式を用いて、基本問題の応力とたわみを計算できる。		平板の曲げに関する基本問題の応力とたわみを計算できない。	
評価項目3	応力・ひずみ・弾性係数に関する発展的事項を理解し、それらを用いて材料力学の諸問題を3次元的に考察できる。		応力・ひずみ・弾性係数に関する発展的事項を理解できる。		応力・ひずみ・弾性係数に関する発展的事項を理解できず、1次元的理解にとどまっている。	
評価項目4	材料の弾塑性に関する力学的挙動とその解析法を理解し、それらを強度計算に応用できる。		材料の弾塑性に関する力学的挙動とその解析法を理解できる。		材料の弾塑性に関する力学的現象を理解できない。	
評価項目5	材料力学の諸問題について、論理的思考に基づいて他者と議論できる。		材料力学の諸問題について、基本概念や諸公式を他者に説明できる。		材料力学の諸問題について、諸公式の成り立ちや利用例を他者に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	構造部材・機械部品の強度計算・強度評価ができるようになるとともに、関連事項を自主的・継続的に学習し、論理的思考と技術的議論ができるようになることを目指す。3年次の材料力学I、4年次の材料力学II、5年次の材料力学IIIの学習内容を基礎として、より発展的な問題を学び、さらに高度な内容を扱う専攻科2年次の破壊力学に備える。					
授業の進め方・方法	講義形式で授業を進め、授業時間の後半で演習を行う。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。自ら考え、理解するよう努めること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	多軸応力の復習		多軸応力状態における応力-ひずみ関係式と変位-ひずみ関係式について、簡単な応用例を示すことができる。	
		2週	球対称問題と軸対称問題の復習		内外圧が作用する厚肉球殻および厚肉円筒について、対称性と基礎式の構成を説明できる。	
		3週	多軸応力の基礎式(1) 多軸応力の基礎式とその解法、直角座標系における基礎式		直角座標系における平衡方程式を利用できる。ナビエの方程式を導出できる。	
		4週	多軸応力の基礎式(2) 円柱座標系における基礎式、球座標系における基礎式、極座標への座標変換		円柱座標系および球座標系での基礎式を利用できる。諸公式を直角座標系から極座標へ変換できる。	
		5週	平板の曲げ(1) はりと平板		平板の曲げにおける未知関数の取り扱いを理解し、基礎式との関係を説明できる。	
		6週	平板の曲げ(2) 長方形平板の曲げ		直角座標系での平板の基礎式を基本問題に適用し、応力とたわみを計算できる。	
		7週	平板の曲げ(3) 円板の軸対称曲げ		極座標で表される円板の基礎式を基本問題に適用し、応力とたわみを計算できる。	
		8週	平面応力と平面ひずみの復習		平面応力状態における応力の座標変換式および主応力および最大せん断応力、平面ひずみ状態におけるひずみの座標変換式および主ひずみおよび最大せん断ひずみについて説明できる。	
	4thQ	9週	応力とひずみ(1) 方向余弦と座標変換		方向余弦を用いて、応力の座標変換式を記述できる。	
		10週	応力とひずみ(2) 応力		3次元の応力状態において主応力と最大せん断応力の計算法を説明できる。応力の不変量について説明できる。	
		11週	応力とひずみ(3) ひずみ、多軸応力におけるひずみエネルギー、降伏条件		3次元的な変形におけるひずみの座標変換式を説明できる。3次元の応力状態におけるひずみエネルギーを計算でき、強度設計に応用できる。	
		12週	応力とひずみ(4) 応力-ひずみ関係式		一般化した応力-ひずみ関係式を理解し、異方性弾性体の弾性係数について説明できる。	
		13週	弾塑性問題(1) 材料モデル、弾完全塑性体のねじりと曲げ		弾完全塑性体のねじりと曲げにおける荷重と変形の関係を説明できる。	

		14週	弾塑性問題(2) 限界荷重、塑性変形による残留応力	組み合わせ棒における限界荷重、はりの限界荷重と塑性関節について説明できる。塑性変形によって生じる残留応力について説明できる。
		15週	弾塑性問題(3) 球対称問題と軸対称問題	弾完全塑性体の球殻、円筒、回転円板の降伏開始条件と残留応力について説明できる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	演習課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	生産システム	
科目基礎情報							
科目番号	0025			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜必要資料をプリントにて配布						
担当教員	大森 茂俊						
到達目標							
1) 生産システムの各種要素について理解していること 2) 効率的な生産システムを実現するための知識や諸原則を理解していること 3) 効率的な生産を行うための様々な手法を理解していること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生産システムの各種要素について十分理解している			生産システムの各種要素について理解している		生産システムの各種要素について十分理解していない	
評価項目2	効率的な生産システムを実現するための知識や諸原則を十分理解している			効率的な生産システムを実現するための知識や諸原則を理解している		効率的な生産システムを実現するための知識や諸原則を十分に理解していない	
評価項目3	効率的な生産を行うための手法を十分理解している			効率的な生産を行うための手法を理解している		効率的な生産を行うための手法を十分理解していない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	製品を生産するためには、技術者は製造や設計に関する知識だけでなく経済性や効果的に生産するための計画などに関する知識も必要となる。本講義では、生産するための主要要素について理解を深め、生産システムに関する知識の修得を目的とする。						
授業の進め方・方法	講義形式						
注意点	機械系学科、電気系学科を問わず、出来るだけ平易に授業する。受講にあたっては、事前にテキストを読み、内容を十分に理解し、不明点を講義中に質問できるように準備しておくこと。本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生産システムとは 生産システムの概要について講義する。			生産工学の定義を説明できる	
		2週	生産システムの種類 製品の生産に用いられている生産システムの種類とその製品について講義する。			生産形態を説明できる	
		3週	機械要素1 生産システムに使用される主要な機械要素について解説し、その応用例について講義する。			各種機械要素について説明できる	
		4週	機械要素2 生産システムに使用される主要な機械要素について解説し、その応用例について講義する。			各種機械要素について説明できる	
		5週	工作機械1 精密部品を作りだすのに不可欠な工作機械について講義する。			各種加工法の基礎について説明できる	
		6週	工作機械2 精密部品を作りだすのに不可欠な工作機械について講義する。			各種工作機械の基礎について説明できる	
		7週	現場見学 本校実習工場を見学し、実際に工作機械で使用されている機械要素やその工夫について講義する。			工作機械の構造について説明できる	
		8週	数値制御1 NC装置とそのNCプログラミングについて講義する。			NCプログラミングができる	
	2ndQ	9週	数値制御2 NC装置における各種動作の制御方法について講義する。			NC装置の制御方法を説明できる	
		10週	産業用ロボット1 産業用ロボットの制御方式と分類について講義する。			産業用ロボットの役割と分類が説明できる	
		11週	産業用ロボット2 産業用ロボットの各種構造とその使用例について講義する。			産業用ロボットの役割と分類が説明できる	
		12週	フレキシブル生産システム1 FMSの構造と使用例について講義する。			FMSの基礎を説明できる	
		13週	フレキシブル生産システム2 FMSの構造と使用例について講義する。			FMSの基礎を説明できる	
		14週	工場管理システム1 トヨタ生産システムについて講義する			トヨタ生産システムの基礎を説明できる	
		15週	工場管理システム2 CIMとそれを支える技術について講義する。			CIMとそれを支える技術の基礎を説明できる	
		16週	期末試験				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	エネルギー工学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0026		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	金田 昌之						
到達目標							
エネルギー工学における熱流体の数値解析について、以下の理解と計算ができることを目標とする。 (1)熱流体解析の基礎式を理解する。 (2)基礎式の離散化の手法を理解する。 (3)HSMAC法について理解する。 (4)独自に課題を設定し、シミュレーションを実施する。 (5)プレゼンテーションにより、各自の課題に対する答を発表する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	熱流体解析の基礎式をよく理解し、導くことができる。		熱流体解析の基礎式を理解することができる。		熱流体解析の基礎式を理解できない。		
評価項目2	基礎式の離散化の手法を理解し、自分で導出することができる。		基礎式の離散化の手法を理解できる。		基礎式の離散化の手法を理解できない。		
評価項目3	HSMAC法について理解し、自分でプログラミングできる。		HSMAC法について理解できる。		HSMAC法について理解できない。		
評価項目4	独自に課題を設定し、シミュレーションを実施し、データ分析ができる。		独自に課題を設定し、簡単なシミュレーションを実施できる。		独自に課題を設定できず、簡単なシミュレーションも実施できない。		
評価項目5	プレゼンテーションにより、各自の課題に対する答を英語でわかりやすく発表することができる。		プレゼンテーションにより、各自の課題に対する答を発表することができる。		プレゼンテーションにより、各自の課題に対する答を発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	一般的なエネルギー機器では流体運動からタービンなどで動力を取り出し、発電機を介して電気エネルギーへ変換されている。また、燃料電池などにおいても内部の水や電解質の移動を如何に制御するかが性能に大きな影響を与える。このように、エネルギー機器を開発する上で、開発コストの削減および緻密なデータの取得を目的とし、熱流体の数値解析が広く行われている。本講義では熱流体の数値解析法の一つであるHSMAC法について学び、非圧縮性流体の解析手法を修得する。						
授業の進め方・方法	授業の前半は講義形式の授業である。また、後半は演習を実施しながら、エネルギー工学に関する重要事項を議論しながら授業を進める。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。流体力学、熱力学に関する基礎的知識を有することが望ましいが、授業をしっかり復習することで内容は理解できる。また、C言語に関する最低限の知識を有する必要がある。なお、授業は基本的に英語で行う。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	熱流体シミュレーションの基礎式(1)		流体の連続の式、運動方程式の導出を理解することができる。		
		2週	熱流体シミュレーションの基礎式(2)		流体の運動方程式、エネルギー方程式の導出を理解することができる。		
		3週	熱流体シミュレーションの基礎式(3)		流体のエネルギー方程式を非圧縮流体の場合に変形することができる。また、浮力項の取り扱いとしてブジネ近似の方法を理解できる。		
		4週	基礎式の無次元化について		基礎式を無次元化する意義について理解できる、また、無次元化の方法について理解できる。		
		5週	基礎式の離散化(1)		基礎式である微分方程式の離散化の方法について理解することができる。また、解の精度、安定条件について理解することができる。		
		6週	基礎式の離散化(2)		基礎式である微分方程式の離散化の方法について理解することができる。また、解の精度、安定条件について理解することができる。		
		7週	MAC法、SMAC法		圧力に関するポアソン方程式を導くことができ、非圧縮性流体の陽解法の一つであるMAC法、SMAC法について理解することができる。		
		8週	HSMAC法		圧力に関するポアソン方程式をニュートン法で解くHSMAC法について理解することができる。		
	4thQ	9週	課題1の説明		熱対流を含むキャビティ内の流れを例とし、フリーソフトを用いたベクトル図を作成することができる。		
		10週	演習		解析結果より熱伝達係数を計算することができる。		
		11週	演習		格子刻みと解析精度の関係について理解することができる。		
		12週	課題2の説明		各自で工学的問題の課題を検討することができる。そして教員と提案された課題について議論し、適切な課題を設定することができる。		

		13週	演習	各自で課題に対するプログラムを作成し、シミュレーションを実施することができる。
		14週	演習	各自で課題に対するプログラムを作成し、シミュレーションを実施することができる。
		15週	プレゼンテーション	課題に対するシミュレーション結果について英語で発表することができる。
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	70	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	70	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	情報通信システム	
科目基礎情報							
科目番号	0027			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は用いず、スライドを用いて講義を行う。参考図書：横尾英俊「情報理論の基礎」共立出版						
担当教員	瀧田 慎						
到達目標							
1) 情報源符号化について説明ができる。(D) 2) 変調方式についてその種類と特徴を理解する。(F) 3) 各種誤り訂正符号について説明できる。(D) 4) 畳み込み符号と符号化変調方式について定性的に説明できる。(H)							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		情報源符号化と変調方式について正確に理解し、説明できる。		情報源符号化と変調方式について理解し、説明できる。		情報源符号化と変調方式について理解できない。	
評価項目2		各種誤り訂正符号について正確に理解し、説明できる。		各種誤り訂正符号について理解し、説明できる。		各種誤り訂正符号について理解できない。	
評価項目3		必要数の課題レポートを正確に作成できる。		必要数の課題レポートを作成できる。		必要数の課題レポートを作成できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要		情報通信システムの基礎となる情報源符号化と変調方式について概観したのち、もう一つの基礎技術である通信路符号化について学ぶ。さらに畳み込み符号と変調方式を組み合わせた符号化変調方式に触れ、情報通信で用いられる誤り訂正符号についての基本的な概略を身につける。					
授業の進め方・方法		情報源符号化と変調方式について、スライドや板書を利用しながら解説していく。その後誤り訂正符号化について演習を取り入れながら、解説していく。自己学習が重要な科目であるので、予習復習をしっかりとやりながら取り組むこと。					
注意点		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	導入と情報理論（情報源符号化）の概略 1 通信システムのモデルについて説明し、情報源符号化、通信路符号化、変調方式の位置付けを行う。 情報量や情報源のモデルについて学ぶ。		通信システムについて説明できる。情報源符号化、通信路符号化、変調方式の位置付けを理解できる。		
		2週	情報理論（情報源符号化）の概略 2 情報源符号化の役割と意義を理解し、情報源符号化の方法を学ぶ。		情報源符号化の役割と意義を説明できる。		
		3週	通信工学（変調方式）の概略 1 変調方式の役割と意義を理解し、アナログ・デジタル変調方式の概要を説明する。		変調方式の役割と意義を説明できる。		
		4週	通信工学（変調方式）の概略 2 通信路の雑音と多元変調方式について説明する。		雑音がある場合の変調方式について説明できる。		
		5週	これまでの内容のまとめ これまでの内容をまとめ、情報理論と通信工学の概略を整理する。		情報理論と通信工学の位置付けを理解し、説明できる。		
		6週	通信路符号化定理 通信システムの通信路をモデル化し、通信路符号化定理について説明する。		通信路符号化定理について説明できる。		
		7週	誤り訂正符号（通信路符号化） 誤り訂正符号の役割と意義を理解し、その種類について学ぶ。		誤り訂正符号の役割と意義を理解できる。		
		8週	線形符号 簡単な線形符号の符号化と復号を通じて、線形符号の設計方法と復号方法について学ぶ。		線形符号の符号化と復号方法を説明できる。		
	2ndQ	9週	ハミング符号、巡回符号 代表的な線形符号であるハミング符号と巡回符号について学ぶ。		巡回符号の性質を説明できる。		
		10週	演習とこれまでの内容のまとめ 誤り訂正符号化について、実例を通じて理解を深める。通信システムの一連の流れを把握する。		与えられた課題をやりとげることができる。		
		11週	畳み込み符号 1 畳み込み符号の符号化方法について学ぶ。		畳み込み符号の符号化について説明できる。		
		12週	畳み込み符号 2 畳み込み符号の復号方法について学ぶ。		畳み込み符号の復号方法について理解できる。		
		13週	符号化変調方式 1 多元変調方式について復習し、符号化変調方式の役割と意義を学ぶ。		符号化変調方式の役割と意義について説明できる。		
		14週	符号化変調方式 2 畳み込み符号化とデジタル変調を組合せた符号化変調方式の符号化方法について学ぶ。		符号化変調方式の符号化方法を説明できる。		

		15週	総復習 これまで学んできたことを概観し理解を定着させる。			与えられた課題をやりとげることができる。		
		16週	期末試験			60点以上を取得する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	真空工学
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	堀越源一:物理工学実験4 「真空技術」、東京大学出版会プリント資料を適宜配付する。					
担当教員	藤野 達士					
到達目標						
1)熱運動速度、粘性流と分子流、排気速度とp-Q線図等の、基礎的な概念について理解すること。(D) 2)各種真空機器の名称と動作原理、取り扱い方を理解し、拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた排気装置について、運転と停止の手順について理解すること。(H) 3)拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた簡単な真空排気系の設計に必要な事柄を理解すること。(F)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	熱運動速度、粘性流と分子流、排気速度とp-Q線図等の、基礎的な概念について理解し、応用も含めて説明できる。		熱運動速度、粘性流と分子流、排気速度とp-Q線図等の、基礎的な概念について理解し、説明できる。		熱運動速度、粘性流と分子流、排気速度とp-Q線図等の、基礎的な概念について理解し、応用も含めて説明できない。	
評価項目2	各種真空機器の名称と動作原理、取り扱い方を理解し、拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた排気装置について、運転と停止の手順について、応用も含めて理解し説明できる。		各種真空機器の名称と動作原理、取り扱い方を理解し、拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた排気装置について、運転と停止の手順について、理解し説明できる。		各種真空機器の名称と動作原理、取り扱い方を理解し、拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた排気装置について、運転と停止の手順について、説明できない。	
評価項目3	拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた簡単な真空排気系の設計に必要な事柄を理解し、応用例も含めて説明できる。		拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた簡単な真空排気系の設計に必要な事柄を理解し、説明できる。		拡散ポンプ、またはターボ分子ポンプを用いた簡単な真空排気系の設計に必要な事柄を理解し、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	現代社会を支える先端技術の多くは、真空関連の技術の上になり立っている。授業では、気体分子の熱運動・気体の流れ・コンダクタンスなど、真空の性質について概説する。ついで各種真空ポンプを使った真空の作り方、各種真空計を用いた真空の測り方、真空材料、漏れ捜しの技法と対策などの関連・応用技術などについて述べる。本科目では以上の講義と一部の実習を行い、真空装置の動作原理を理解し、取り扱いや設計に関する技術を修得することを目的とする。					
授業の進め方・方法	定期試験成績(50%)・授業中の小テスト(20%)・レポート(30%)により行い、総合60%以上の評価に達したものを合格とする。小テストは、熱運動速度やp-Q線図等に関する講義内容について出題する。レポートは、指定真空ポンプの動作概要、および、真空排気装置の設計と取り扱いに関する課題を出題する。定期試験では、上記達成目標の1),2)の達成度を、小テストでは上記達成目標の1)の達成度を、レポートでは上記達成目標の2),3)の達成度を評価する。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。機械系、電気系学科出身を問わず、受講可能である。気体運動論の部分については、物理学の教科書等を参考にすること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	真空とは何か、気体分子運動論の基礎 真空の意味、それを測る尺度や区分、実社会や実験室でどの程度の真空度が要求されるか等について述べる。また、状態方程式、平均自由行程等の気体分子運動の基礎的な概念について講義する。		真空の意味、それを測る尺度や区分、実社会や実験室でどの程度の真空度が要求されるか等について理解し、また、状態方程式、平均自由行程等の気体分子運動の基礎的な概念を理解する。	
		2週	速度分布関数と気体の圧力、熱運動速度 気体分子の速度分布関数(マクスウェルの分布則)を定義し、これを用いて気体の圧力を計算する。また重要な物理量である気体分子の熱運動速度を算出し、自由分子条件について考察する。		気体分子の速度分布関数(マクスウェルの分布則)を定義し、これを用いて気体の圧力を計算する。また重要な物理量である気体分子の熱運動速度を算出し、自由分子条件について考察できる。	
		3週	壁面を叩く気体分子数 真空ポンプの分子流領域での動作を理解するうえで重要な、壁面を叩く気体分子数の概念とその算出法について述べ、理想的な真空ポンプの排気速度を表す式を導出する。		真空ポンプの分子流領域での動作を理解するうえで重要な、壁面を叩く気体分子数の概念とその算出法について理解し、理想的な真空ポンプの排気速度を表す式を導出できる。	
		4週	熱伝導・粘性 真空排気には一般的に熱の移動を伴うが、これについて考察し、気体の熱伝導率を算出する。また、同様の概念として運動量の移動について考察することにより、粘性係数を算出する。		真空排気には一般的に熱の移動を伴うが、これについて考察でき、気体の熱伝導率を算出できる。また、同様の概念として運動量の移動について考察することにより、粘性係数を算出することができる。	
		5週	固体表面と気体分子、気体の流れ 真空装置の実際的な姿である、固体表面と気体分子の振る舞いについて説明し、粘性流・分子流の違いについてふれる。また、種々の真空配管における排気コンダクタンスについて考察する。		真空装置の実際的な姿である、固体表面と気体分子の振る舞いについて説明し、粘性流・分子流の違いについて理解する。また、種々の真空配管における排気コンダクタンスについて考察することができる。	
		6週	種々の真空ポンプ 実際の真空排気装置に使用される真空ポンプの種類・動作原理・特性等について、ここでは主に油回転ポンプ・油拡散ポンプ・ブースターポンプ、及び新型ポンプについて述べる。		実際の真空排気装置に使用される真空ポンプの種類・動作原理・特性等について、ここでは主に油回転ポンプ・油拡散ポンプ・ブースターポンプ、及び新型ポンプについて理解することができる。	

		7週	真空排気系とその取扱方法 前週扱った真空ポンプを使用した実際の排気系について講義し、始動・運転・停止の方法を確認する。また、停電・断水等に対する対策にも言及する。	前週扱った真空ポンプを使用した実際の排気系について理解し、始動・運転・停止の方法がわかる。また、停電・断水等に対する対策にも理解する。
		8週	排気速度とp-Q線図 真空ポンプの排気速度と排気量について述べ、粗排気・本排気における排気過程の様子をp-Q線図を使い説明する。	真空ポンプの排気速度と排気量について述べ、粗排気・本排気における排気過程の様子をp-Q線図を使い説明することができる。
	4thQ	9週	種々の真空計 ガイスラー放電管・各種マノメータ・マクラウドゲージ・ピラニーゲージ・電離真空計等の圧力を測る計器について、その原理と取り扱いについて述べる。	ガイスラー放電管・各種マノメータ・マクラウドゲージ・ピラニーゲージ・電離真空計等の圧力を測る計器について、その原理と取り扱いについて説明できる。
		10週	超高真空ポンプI 超高真空ポンプの中でも、気体ため込み式ポンプの仲間であるスパッターイオンポンプ・ソーブションポンプ・クライオポンプ等について、その原理と取り扱い法を述べる。	超高真空ポンプの中でも、気体ため込み式ポンプの仲間であるスパッターイオンポンプ・ソーブションポンプ・クライオポンプ等について、その原理と取り扱い法を説明できる。
		11週	超高真空ポンプII 超高真空ポンプの中でも、気体輸送式ポンプとして有名なターボ分子ポンプの動作原理と構造・特性について述べ、このポンプを使用した実際の排気装置について理解をはかる。	超高真空ポンプの中でも、気体輸送式ポンプとして有名なターボ分子ポンプの動作原理と構造・特性について述べ、このポンプを使用した実際の排気装置について理解することができる。
		12週	ガス放出とガスの吸着 実際の真空排気装置において、到達圧力を左右する重要な量となる真空材料のガス放出と吸着について考察し、洗滌・ベーキングなどの対策について述べる。	実際の真空排気装置において、到達圧力を左右する重要な量となる真空材料のガス放出と吸着について考察し、洗滌・ベーキングなどの対策について説明ができる。
		13週	関連部品 ゲージポート・フランジ・ガスケット・バルブ・トラップ・ベローズ・絶縁端子・ホース類等、真空装置を構成するのに必要な関連部品について概説し、使用上の注意について述べる。	ゲージポート・フランジ・ガスケット・バルブ・トラップ・ベローズ・絶縁端子・ホース類等、真空装置を構成するのに必要な関連部品について概説し、使用上の注意について説明できる。
		14週	漏れ捜しの技法 技術者にとって非常に厄介で、実際の真空装置においてしばしば発生する『漏れ』とその探索・解決の方法について述べる。	技術者にとって非常に厄介で、実際の真空装置においてしばしば発生する『漏れ』とその探索・解決の方法について説明できる。
		15週	真空技術とその応用 真空が可能とする技術には多種多様なものがある。ここでは幾つかの真空応用分野について概説する。	真空が可能とする技術には多種多様なものがある。幾つかの真空応用分野について紹介できる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	小テスト	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	20	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	20	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	トライボロジー
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	佐々木信也ほか:「はじめてのトライボロジー」, 講談社プリント資料を適宜配布					
担当教員	阿保 政義					
到達目標						
(1) 摩擦現象や表面損傷の考える上での基本となる固体表面,2 物体を接触させたとときに考慮すべき概念. (2) 無潤滑下における滑り摩擦, 転がり摩擦における摩擦現象. (3) 摩擦による摩耗現象, 摩耗のタイプ. (4) 摩擦を制御する潤滑方法である, 流体潤滑の基礎式, 固体潤滑方法.						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		相対運動表面で発生する複雑な摩擦・摩耗 現象の理解を深め, それらを適格に測定評価する方法を確立できる.	相対運動表面で発生する複雑な摩擦・摩耗 現象の理解を深め, それらを適格に測定評価する方法を理解できる.		相対運動表面で発生する複雑な摩擦・摩耗 現象の理解を深め, それらを適格に測定評価する方法を理解できない.	
評価項目2		摩擦の有効な利用法, また潤滑など摩擦摩耗の抑制制御法を確立できる.	摩擦の有効な利用法, また潤滑など摩擦摩耗の抑制制御法を理解できる.		摩擦の有効な利用法, また潤滑など摩擦摩耗の抑制制御法を理解できない.	
評価項目3		機器要素の摩擦部分の設計に対する種々の指針と具体的方法を確立できる.	機器要素の摩擦部分の設計に対する種々の指針と具体的方法を理解できる.		機器要素の摩擦部分の設計に対する種々の指針と具体的方法を理解できない.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要		トライボロジー的諸問題すなわち相対運動表面で発生する複雑な摩擦・摩耗現象の理解を深めるとともに, それらを適格に測定評価する方法, 摩擦の有効な利用法, また潤滑など摩擦摩耗の抑制制御法を解説し, 機器要素の摩擦部分の設計に対する種々の指針と具体的方法の習得を目的とする.				
授業の進め方・方法		講義形式を中心に, 演習, 課題を実施する. 機械系学科, 電気系学科を問わず, グループ学習を導入し, 出来るだけ平易に授業する. レポート内容は講義の進捗状況ならびに, 学生の理解度に応じて適切な内容を指示する. レポートの課題は以下の通りである. 1) 2 物体の接触状態についての演習. 2) 界面のせん断強度を考慮した摩擦係数の演習. 3) 各種の摩耗についての調査とまとめ. 4) トライボロジーの応用技術についての調査. 5) レイノルズ方程式の二重積分部の導出. 6) 固体潤滑剤, グリースについての調査. 7) 軸受設計方法についての演習. 8) 硬質薄膜, 軟質薄膜について調査. 9) 摩耗量についての演習. 10) トライボロジーに関する文献調査				
注意点		受講にあたっては, 事前にテキストを読み, 内容を十分に理解し, 不明点を講義中に質問できるように準備しておくこと. .本科目は, 授業で保証する学習時間と, 予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が, 90時間に相当する学習内容である. 合格の対象としない条件は, 1/3以上の欠課, 1人5~10分程度のプレゼンの欠席者, レポート未提出者とする.				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	トライボロジーとは トライボロジーについて概説し, 潤滑の方法, 油による潤滑について解説する.		トライボロジーについて概説し, 潤滑の方法, 油による潤滑について修得する.	
		2週	固体表面の接触Ⅰ トライボロジー現象を正しく理解するために, 固体表面の性質, 表面層の構造と特性について説明する.		固体表面の性質, 表面層の構造と特性について修得する	
		3週	固体表面の接触Ⅱ 二表面の接触と真実接触面積摩耗の機構について演習問題も交えて説明する.		二表面の接触と真実接触面積摩耗の機構について修得する.	
		4週	固体表面間の摩擦Ⅰ 乾燥摩擦と潤滑摩擦, アモントン-クーロンの法則, 摩擦の起因, 摩擦の凝着説, 摩擦理論式について説明する.		摩擦の起因, 摩擦の理論について修得する.	
		5週	固体表面間の摩擦Ⅱ 摩擦面の温度上昇, 摩擦の速度特性とスティック-スリップ, 真空中における摩擦特性, 摩擦及ぼす温度の影響, 摩擦の試験方法について説明する.		摩擦特性, 摩擦の試験方法について修得する.	
		6週	固体表面の摩耗Ⅰ 摩耗の定義と分類を行い, 特に重要なアブレシブについてそれぞれ理論的取扱いについて述べる.		摩耗の定義と分類について修得する.	
		7週	固体表面の摩耗Ⅱ ウェアマップの考え方を説明し, 摩耗の試験法についても触れる.		ウェアマップ, 摩耗の試験法について修得する.	
		8週	流体潤滑Ⅰ 流体潤滑の物理的意義について述べ, つぎに流体潤滑の原理について説明する.		流体潤滑の物理的意義について修得する.	
	4thQ	9週	流体潤滑Ⅱ レイノルズの流体潤滑理論について述べ, 軸受の圧力分布解析を説明する.		レイノルズの流体潤滑理論, 軸受の圧力分布解析について修得する.	
		10週	境界潤滑と混合潤滑Ⅰ 境界潤滑と混合潤滑の概念について述べ, 境界膜の潤滑特性を添加剤について説明する.		境界潤滑と混合潤滑について修得する.	

		11週	境界潤滑と混合潤滑II 潤滑に油を使用できない状況で使用されるグリースおよび固体潤滑剤の種類, 性状, 用途について説明する.	グリースおよび固体潤滑剤の種類, 性状, 用途について修得する.
		12週	表面改質技術 表面改質技術の物理的意義, 改質技術の方法と, 摩擦摩耗の改善例と今後の展望について述べる.	表面改質技術の物理的意義, 改質技術の方法と, 摩擦摩耗の改善例について修得する.
		13週	軸受の設計 ジャーナル軸受を例にして, 設計の基礎的事項について述べる.	ジャーナル軸受を例にして, 軸受設計の基礎的事項について修得する.
		14週	トライボロジーの現在技術への応用 数多くの現在技術の中から, トライボロジーが特に重要な役割を果たしている例を取り上げ, 基礎知識との関わりについて紹介する.	トライボロジーの現在技術への応用について修得する.
		15週	プレゼンテーション トライボロジーに関連する動画あるいは研究を紹介する.	トライボロジーに関連する研究について修得する.
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	小テスト	レポート	プレゼンテーション	態度		その他	合計
総合評価割合	30	40	10	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	40	10	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	電気回路特論	
科目基礎情報							
科目番号	0030		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	テキストは使用しないが、電気回路に関する教科書の持ち込みを推奨する。また、必要に応じて資料を配付する。						
担当教員	細川 篤						
到達目標							
1) 電気回路の解析の基礎となる諸定理について理解することができる。(D) 2) 多種の電気回路の解析および設計を行うことができる。(F) 3) 多角的な思考によって、電気回路の解析および設計の際に適切な方法を選択・使用することができる。(H)							
講義の最後に復習用の課題を配布するので、自己学習によってこれを行うことが重要である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	電気回路の解析の基礎となる諸定理について理解することができる。		電気回路解析の基礎となる諸定理について理解することができる。		電気回路解析の基礎となる諸定理について理解することができない。		
評価項目2	多種の複雑な電気回路の解析および設計を行うことができる。		多種の基本的な電気回路の解析および設計を行うことができる。		多種の基本的な電気回路の解析および設計を行うことができない。		
評価項目3	電気回路の解析および設計の際に最適な方法を選択・使用することができる。		電気回路の解析および設計の際に適切な方法を選択・使用することができる。		電気回路の解析および設計の際に適切な方法を選択・使用することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	電気回路は、抵抗、インダクタンス、キャパシタンスの素子から構成された回路のことであり、電子工学、通信工学、情報工学などを含めた電気工学の基礎となるものである。本授業では、電気回路の電流と電圧の関係について学習し、回路解析を行えるようにすることが目的である。						
授業の進め方・方法	主に板書を用いて授業を行う。適宜、資料を配布する。毎週、演習を行い、課題を出題する。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 明石高専・電気情報工学科の電気回路Ⅰ・Ⅱ、回路論、過渡現象論(1～4年必修)の受講、あるいは、機械工学科の電気電子工学Ⅰ(4年必修)、電気電子工学Ⅱ(5年選択)の受講を前提としている。これらの科目の内容について、基礎知識を有している必要がある。 学生からの希望があれば、授業時間外に中間試験を実施する。その場合の試験の評価は、中間試験と期末試験の点数の平均とする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	交流回路	ベクトル記号法を用いた交流回路の解析方法およびベクトル軌跡について理解している。			
		2週	回路解析と諸定理(1)	閉路方程式および節点方程式による回路解析方法について理解している。			
		3週	回路解析と諸定理(2)	重ね合わせの理、相反定理、補償定理を用いた回路解析方法について理解している。			
		4週	回路解析と諸定理(3)	テブナンの定理、ノートンの定理、ミルマンの定理を用いた回路解析方法について理解している。			
		5週	共振回路、相互誘導回路	共振回路および相互誘導回路について理解している。			
		6週	三相交流	三相交流における電圧、電流、電力について理解している。			
		7週	ひずみ波交流	ひずみ波交流における電圧、電流、電力について理解している。			
		8週	第1週から第7週までのまとめ	第1週から第7週までの内容を理解している。			
	4thQ	9週	一端子対回路	一端子対回路について理解している。			
		10週	二端子対回路	二端子対回路を表す各種パラメータについて理解している。			
		11週	単エネルギー回路の過渡現象	インダクタンスあるいはキャパシタンスのいずれか一方が存在する回路の過渡現象について理解している。			
		12週	複エネルギー回路の過渡現象	インダクタンスとキャパシタンスの両方が存在する回路の過渡現象について理解している。			
		13週	分布定数回路の定常現象	抵抗、インダクタンス、キャパシタンスが線に沿って分布している伝送線路の基本的概念と回路的な性質について理解している。			
		14週	分布定数回路の過渡現象	分布定数回路の過渡現象について理解している。			
		15週	第8週から第14週までのまとめ	第8週から第14週までの内容について理解している。			
		16週	期末試験	第1週から第7週および第9週から第14週までの内容について理解している。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							

	試験	演習	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	伝熱工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	0031			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	電子版テキストを配布する。						
担当教員	國峰 寛司						
到達目標							
(1)定常および非定常熱伝導の理論的な取り扱いができる。 (2)対流熱伝達の理論的な取り扱いができる。 (3)相変化熱伝達の理論的な取り扱いができる。 (4)物質伝達の理論的な取り扱いができる。 (5)熱交換器の理論的な取り扱いができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	定常および非定常熱伝導の理論的な取り扱いが十分にできる。		定常および非定常熱伝導の理論的な取り扱いができる。		定常および非定常熱伝導の理論的な取り扱いができない。		
評価項目2	対流熱伝達の理論的な取り扱いが十分にできる。		対流熱伝達の理論的な取り扱いができる。		対流熱伝達の理論的な取り扱いができない。		
評価項目3	相変化熱伝達の理論的な取り扱いが十分にできる。		相変化熱伝達の理論的な取り扱いができる。		相変化熱伝達の理論的な取り扱いができない。		
評価項目4	物質伝達の理論的な取り扱いが十分にできる。		物質伝達の理論的な取り扱いができる。		物質伝達の理論的な取り扱いができない。		
評価項目5	熱交換器の理論的な取り扱いが十分にできる。		熱交換器の理論的な取り扱いができる。		熱交換器の理論的な取り扱いができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	伝熱工学の理論的な取り扱いを中心に考察する。学科の伝熱工学では扱わなかった、より発展的な諸問題を取り上げる。						
授業の進め方・方法	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間が、90時間に相当する学習内容である。明石高専機械工学科の伝熱工学(第5学年選択)に基礎をおりており、その知識を習得していることを前提として講義を進めていく。						
注意点	合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	基礎理論		微分方程式とその解、熱移動の基本法則、および熱伝導方程式が理解できる。		
		2週	定常熱伝導		二次元定常熱伝導問題が理解できる。		
		3週	非定常熱伝導(1)		集中熱容量系の問題が理解できる。		
		4週	非定常熱伝導(2)		非定常熱伝導の近似解法、および相変化を伴う熱伝導問題が理解できる。		
		5週	強制対流熱伝達の理論		強制対流熱伝達の支配方程式が理解できる。		
		6週	強制対流熱伝達の近似解法(1)		平板に沿う流れの層流熱伝達が理解できる。		
		7週	強制対流熱伝達の近似解法(2)		平板に沿う流れの層流熱伝達が理解できる。		
		8週	中間試験		第2週から7週に関連する問題を解くことができる。		
	4thQ	9週	自然対流熱伝達の理論		自然対流熱伝達が理解できる。		
		10週	相変化熱伝達の理論(1)		膜状凝縮理論が理解できる。		
		11週	相変化熱伝達の理論(2)		膜沸騰理論が理解できる。		
		12週	物質伝達		フィックの法則と拡散係数、および一次元拡散現象が理解できる。		
		13週	熱交換器(1)		熱交換器の概要が理解できる。		
		14週	熱交換器(2)		対数平均温度差が理解できる。		
		15週	熱交換器(3)		温度効率が理解できる。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験						合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	国語表現法
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	野口尚史・森口稔著：『日本語を書くトレーニング第2版』、ひつじ書房適宜日本語に関する資料を配布する。				
担当教員	武田 悠希				
到達目標					
(1)日本語の文章表現の特徴と文法・語彙の歴史を学ぶと共に、幅広い知識と教養を身に付け、自らを取り巻く日本語環境を敏感に観察する感性を養うこと (2)日本語の文章を批判的に検討し、それについて意見を述べることで論理的な思考力と表現力を養い、自らの文章表現力を向上させること (3)文章表現における様々な規則や文法事項を正確に理解し、実践的な文章表現力を養うこと					
(1)が主に学習・教育目標(E)に、(2)(3)が主に学習・教育目標(A)に関係する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の表現の特徴と文法・語彙の歴史を十分に理解しており、自らを取り巻く日本語環境を知関心を持って観察することができる		日本語の表現の特徴と文法・語彙の歴史をおおむね理解し、自らを取り巻く日本語環境を観察することができる		日本語の表現の特徴と文法・語彙の歴史への理解が不十分であり、自らを取り巻く日本語環境に対して関心が薄い
評価項目2	明快で論理的な思考力と表現力を身に付け、自分の思いを十分に文章として表現することができる		論理的な思考力と表現力を身に付け、自分の思いを文章として表現することができる		論理的な思考力と表現力が未熟であり、自分の思いを文章として表現することができない
評価項目3	文章表現における様々な規則や文法事項を正確に理解し、状況にふさわしい実践的な文章表現を行うことができる		文章表現における様々な規則や文法事項をある程度理解し、実践的な文章表現を行うことができる		文章表現における様々な規則や文法事項の理解が不十分であり、実践的な文章表現を行うことができない
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (E)					
教育方法等					
概要	現代社会で用いられているさまざまな文章表現や文書の形式について、テキストの文例を批判し課題を検討することにより、自らを取り巻く日本語表現に敏感になること、そして、日本語に関する基礎的な事項の確認と豊かで正しい日本語表現能力の養成を目指す。また、論理的で分かりやすい文章を書くための実践を豊富に行い、より充実した研究論文執筆を目指す。				
授業の進め方・方法	毎回担当者によるテキストの課題の発表とそれにもとづく講師及び出席者との質疑応答を行う。また、ほぼ毎回レポート課題を課す。 連絡員：善塔正志				
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。履修者全員にテキストの課題の発表を課す。発表時には講師及び出席者との質疑応答を行う。また、ほぼ毎回レポート課題を課す。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の概要・お知らせのメール	本講義の目的と授業の進行について理解する。また、テキストである『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング1「お知らせのメール」トレーニング3「問い合わせのメール」のテーマを理解し、必要な技術(メールのマナー、内容の整理など)を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる	
		2週	自己アピールをする(1) 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング15「自己アピールをする」の課題についての受講者の発表と質疑応答	「自己アピール」のテーマを理解し、必要な技術(アピールポイントの選定、適切な表現など)を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる	
		3週	自己アピールをする(2) 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング15「自己アピールをする」の課題についての受講者の発表と質疑応答	「自己アピール」のテーマを理解し、必要な技術(アピールポイントの選定、適切な表現など)を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる	
		4週	手紙の組み立て方(1) 手紙の基礎知識の確認と実践演習	手紙について、基本的な書式について理解し、実際に書くことができる	
		5週	手紙の組み立て方(2) 送付状をはじめとするビジネスレターの実践	送付状をはじめとするビジネスレターの書式や用語について理解し、実際に書くことができる	
		6週	レストランのメニュー 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング2「レストランのメニュー」の課題についての受講者の発表と質疑応答	レストランのメニューのような多くの情報を提示する場合について実際の例を観察し、必要な技術(情報の整理、適切な提示の仕方など)を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる	
		7週	注意書きやサービス案内 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング4「注意書きやサービス案内」の課題についての受講者の発表と質疑応答	注意書きやサービス案内について実際の例を観察し、必要な技術(情報の整理、適切な提示の仕方など)を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる	
		8週	わかりやすいマニュアル 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング7「わかりやすいマニュアル」の課題についての受講者の発表と質疑応答	マニュアルについて実際の例を観察し、必要な技術(情報の整理、適切な提示の仕方など)を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる	

2ndQ	9週	場所や交通の案内 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング 8「場所や交通の案内」の課題についての受講者の発表と質疑応答	場所や交通の案内について実際の例を観察し、必要な技術（情報の整理、適切な提示の仕方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる
	10週	企画や提案を出す 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング 9「企画や提案を出す」の課題についての受講者の発表と質疑応答	企画案や会議での提案について実際の例を観察し、必要な技術（情報の整理、適切な提示の仕方、ふさわしい話し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる
	11週	ニュースレターを作る 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング 10「ニュースレターを作る」の課題についての受講者の発表と質疑応答	ニュースレター注意書きやサービス案内について実際の例を観察し、必要な技術（情報の整理、適切な提示の仕方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる
	12週	平易な日本語について考える 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング 13「日本語弱者のことを考えて書く」の課題についての受講者の発表と質疑応答	日本語を母語としない人や子供など日本語弱者と呼ばれる人々にとって分かりやすい日本語表現とはどのようなものを理解し、必要な技術（語彙の選定、分かりやすい表現など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる
	13週	レポートや論文を書く（1） 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング 14「レポートや論文を書く」の課題についての受講者の発表と質疑応答	レポートや論文について実際の例を観察し、必要な技術（語彙の選定、ふさわしい表現など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる
	14週	レポートや論文を書く（2） 『日本語を書くトレーニング第2版』トレーニング 14「レポートや論文を書く」の課題についての受講者の発表と質疑応答	レポートや論文とはどのようなものを理解し、必要な技術（資料の利用方法、アカデミックライティングの基礎）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる
	15週	日本語表現に関する今後の課題 これまでのまとめ	これまでの内容の中からさらに深めるべきテーマを選び、議論及び考察を行うことができる
	16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	環境科学	
科目基礎情報							
科目番号	0032		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	参考テキスト 環境生態学 ; 宇野宏司, 渡部守義, コロナ社(渡部)						
担当教員	渡部 守義,平石 年弘						
到達目標							
(1)地球環境の成り立ち、自然生態系に関する基礎知識を理解し、生活と自然環境、そして環境問題との関わりについて、多面的な視点から考察および説明できる能力を習得する。 (2)環境と我々人間との関わりについて考察し、環境問題の何が問題かを考えるとともに、技術者として、また一般市民としてどのような取り組みが必要かを考える能力を修得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	地球環境の成り立ち、自然生態系に関する基礎知識を理解し、生活と自然環境、そして環境問題との関わりについて、多面的な視点から考察および説明できる。		地球環境の成り立ち、自然生態系に関する基礎知識を理解し、生活と自然環境、そして環境問題との関わりについて、説明できる。		地球環境の成り立ち、自然生態系に関する基礎知識を理解し、生活と自然環境、そして環境問題との関わりについて、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(1) 生物と地球環境、生態系の概略、生態系の保全手法を講義する。(渡部担当8週) (2) 環境問題を歴史、物質循環・地域格差から講義する。(平石担当7週)						
授業の進め方・方法	適宜、資料を配布するとともに、スライド・ビデオを駆使した講義を行う。 出身学科を問わず、できるだけ平易に授業する。受講するにあたっては、事前に配布する資料・教材等をよく読み、内容を十分に理解して要点及び疑問点をまとめておく必要がある。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。合格としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課。 成績は、担当教員ごとに達成目標の達成度を以下の方法で評価し、それらを総合して60%以上達成したものを合格とする。各担当の評価の重みは、平石「1」、渡部「1」とする。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	地球環境の成り立ち、公害の歴史 (渡部)			現在の地球環境が形成された過程、過去に生じた公害と健康との関わりについて学習する。	
		2週	地球環境問題 (渡部)			地球規模の環境問題について現状と対策について学習する。	
		3週	生態系の基礎 (渡部)			生態系の概念、個体と個体群について学習する。	
		4週	生態系の構成とエネルギー流れと物質循環 (渡部)			生態系の構成とエネルギー流れ、物質循環について学習する。	
		5週	各種生態系 (渡部)			森林生態系、都市生態系、農耕地生態系の機能と役割、現状について説明する。	
		6週	生態系の保全手法 (渡部)			生態系を含む環境を守るためには大きく保全、修復、創造技術の3つに大別され、具体例を挙げてこれらの手法について学習する。	
		7週	まとめ			第1週から第7週までの理解度を問う試験を行う。	
	8週	生物多様性とその危機 (渡部)			試験の解説を行うとともに、生物多様性の現状と危機について学習する。		
	2ndQ	9週	環境問題と歴史			現代の環境問題が起こった原因と歴史について学ぶ。	
		10週	江戸時代の暮らしと社会			現代の環境問題が起こる前の暮らしと社会を学ぶ。	
		11週	「不都合な真実」を見て、考える。			気候変動の問題を学習する。	
		12週	「不都合な真実」を見て、考える。			気候変動の問題を学習し、課題を認識する。	
		13週	「ラダック なつかしい未来」			地理的格差による問題の時間差について考える。	
		14週	「ラダック なつかしい未来」			地理的格差による問題の時間差について考える。	
		15週	SDG s について			SDG s について理解する。	
		16週	レポート課題説明			環境問題の解決策を自分の生活の中で設定し実行してみる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験(渡部)	演習(渡部)	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20	0	0	0	0	50
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	20	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	異文化理解
科目基礎情報					
科目番号	0033		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Exploring Landscapes of Culture & Communication (Shohakusha), Power-Up Practice for the TOEIC Listening and Reading Test (Eihosha)				
担当教員	松田 安隆				
到達目標					
(1) 英語の読解力および表現力の向上(学習教育目標E) (2) 異文化への理解を深める(学習教育目標B) (3) 知識を広げ、深く思考する習慣を身につける(学習教育目標A) 課題(e-learningを含む)を確実にに行い、期限までに完成させること。 授業では、積極的に発言および討論する姿勢が要求される。 理由なく授業を欠席および遅刻して課題や発表ができない場合は再評価を認めない。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力を十分に上げることができる。		英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力を上げることができる。		英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力を上げることができない。
評価項目2	異文化について十分な知識を身につけ理解を十分に深めことができる。		異文化について知識を身につけ理解を深めることができる。		異文化について知識を身につけ理解を深めることができない。
評価項目3	異文化についての知識をもとに、文化の違いについて自分の意見をうまく表現することができる。		異文化についての知識をもとに、文化の違いについて自分の意見を表現することができる。		異文化についての知識をもとに、文化の違いについて自分の意見を表現することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)					
教育方法等					
概要	グローバル化の時代の技術者にとって、英語を実践的に使いこなす能力は不可欠である。また、異文化間コミュニケーションをよりスムーズに行うためには、英語の運用能力だけでなく、様々な文化の規範や価値観を知り、それらを理解する姿勢が要求される。授業では、今日の多言語・多文化主義を踏まえた異文化間コミュニケーションについて理解を深めながら、英語の運用能力を高めることを目的とする。また、リーダーシップについて、どのように身につけ、発揮するかについても学ぶ。適宜、実際の異文化交流を行う。				
授業の進め方・方法	英文を読んで、その内容の理解を確認する演習問題を解く。読解した内容について、英語で考えを発表する。CDを用いてリスニング力をつける。既習事項を参考に英文文の練習をする。適宜、課題を課す。				
注意点	課題(e-learningを含む)を確実にに行い、期限までに完成すること。授業では、積極的に発言および討論する姿勢が要求される。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Essentialism (1) Finding a Job (1) 授業の概要説明、The Essentialist View of Culture	本質主義について学び、文化および文化間の相互関係について理解を深める。	
		2週	Essentialism (2) Finding a Job (2) Characteristics of Japanese People	日本人の特徴について理解を深める。	
		3週	Non-essentialism (1) Dining Out (1) The Non-essentialist View of Culture	非本質主義の概要を学ぶ。	
		4週	Non-essentialism (2) Dining Out (2) The Cultures in One	共存する二つの文化について理解を深める。	
		5週	Socialization (1) Business Meeting (1) When do we acquire culture?	「社会化」について理解を深める。	
		6週	Socialization (2) Business Meeting (2) Different Ways of Greeting People	人間の成長過程での社会化について理解を深める。	
		7週	Cultural Identity (1) Travel (1-1) What are the main sources of your identity?	人や社会は複雑な存在である」という非本質主義の見方を理解する。	
		8週	Cultural Identity (2) Travel (1-2) Small Cultures	スモールカルチャーについて理解を深める。学ぶ。	
	2ndQ	9週	Cultural Hybridity (1) Entertainment (1-1) Social Change	文化の混交を理解する。	
		10週	Cultural Hybridity (2) Entertainment (1-2) What kind of seasonal events do you celebrate?	ハロウィーンについて学習する。	
		11週	Stereotypes (1) The Office (1) Why do we stereotype?	固定観念及びその種類について学ぶ。	
		12週	Stereotypes (2) The Office (2) The Nature of Stereotyping	ステレオタイプを持つことの本質について学ぶ。	
		13週	Representation (1) Shopping (1) Culture is a set of beliefs and practices shared in a group.	文化表象について学ぶ。	
		14週	Representation (2) Shopping (2) Representation in the Media	メディア表象について学ぶ。	
		15週	まとめ Review and Further Practice (1) 前期のまとめ	前期で学習したことを復習しまとめる。	

		16週	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
後期	3rdQ	1週	Time and Culture (1) Entertainment (2-1) Analyse cultural viewpoints regarding time	文化同士の時間認識の相違を学ぶ。
		2週	Time and Culture (2) Entertainment (2-2) Business time	ビジネスタイムについて学ぶ。
		3週	Discourse (1) Sales and Marketing (1) The word discourse has many meaning in English.	「言説」と文化について学ぶ。
		4週	Discourse (2) Sales and Marketing (2) History of Madness	狂気の歴史について学ぶ。
		5週	Collectivism and Individualism (1) Technical Areas (1) Proverbs	「集団主義と個人主義」について学ぶ。
		6週	Collectivism and Individualism (2) Technical Areas (2) Collectivism and Individualism in the Workplace	職場での集団主義と個人主義について学ぶ。
		7週	Masculine and Feminine Culture (1) Health (1) In a masculine culture success is the most important value.	男性文化と女性文化について学ぶ。
		8週	Masculine and Feminine Culture (2) Health (2) What roles are men and women expected to play in your society?	主夫について学ぶ。
	4thQ	9週	High-context and Low-context Culture (1) Finance (1) One example of a high-context form of art is haiku.	ハイコンテキスト文化とローコンテキスト文化について学ぶ。
		10週	High-context and Low-context Culture (2) Finance (2) Saying No	「ノー」と言うことについて学ぶ。
		11週	Power-distance (1) Travel (2-1) There are cultures that prefer a strict social hierarchy and those that prefer a more flexible social structure.	上下関係が言語や行動にどのように表れるかを学ぶ。
		12週	Power-distance (2) Travel (2-2) An Exchange Student's Experience in Japan	ある留学生の日本での体験を学ぶ。
		13週	Globalization and Cultural Identity (1) Corporate Development (1) Imagine what life was like before globalization.	グローバル化がもたらす文化や文化アイデンティティへの影響を学ぶ。
		14週	Globalization and Cultural Identity (2) Corporate Development (2) Cultural Supermarket	文化のスーパーマーケットについて学ぶ。
		15週	まとめ Review and Further Practice (2) 後期のまとめ	後期で学習したことを復習しまとめる。
		16週	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題・発表	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	エンジニアリングプレゼンテーションⅡ
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	後期:2	
教科書/教材	教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。				
担当教員	境田 彰芳,平石 年弘				
到達目標					
(1)与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議ができる(E)。 (2)テーマ1で取り上げる専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を理解する(C)。 (3)テーマ1でのチームによる作業を通して役割分担等の重要性を理解する(B)。 (4)テーマ3で取り組む、自らの専攻科特別研究を専門の違う学生にも理解できるように発表することを通じて、広く工学関連分野の知識を身につける(H)。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議を説得力を持って行える。		与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議ができる。		与えられたテーマについて課題を設定し、それについて発表する資料(レジメ・スライドなど)を作り、口頭で発表と討議ができない。
評価項目2	専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を十分理解し、説明できる。		専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を理解する。		専門学会の倫理綱領などの調査とその結果の発表を通じて、技術者倫理を理解できない。
評価項目3	チームによる作業を通して役割分担等の重要性を理解し、実践できる。		チームによる作業を通して役割分担等の重要性を理解する。		チームによる作業を通して役割分担等の重要性が理解できない。
評価項目4	自らの専攻科特別研究を専門の違う学生にも十分に理解できるように発表し、積極的な討論ができる。		自らの専攻科特別研究を専門の違う学生にも理解できるように発表し、討論ができる。		自らの専攻科特別研究を専門の違う学生にも十分に理解できるように発表できず、討論もできない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (C) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (H)					
教育方法等					
概要	本科目では、技術的な表現能力を高めるために、文章によるプレゼンテーション、図表によるプレゼンテーション、口頭によるプレゼンテーション等について、基本的な取り組み方の講義と演習を実施する。多様な課題を学生に与え、(1)主題の明快さ、(2)内容の分かりやすさ、(3)訴求力等の観点から相互に評価を求め、担当教員による感想、講評を加えて内容の洗練化を図る。また、チームワークによるプレゼンテーションの作成作業を通して役割分担等の重要性を理解する(担当者・時間は授業の内容を参照のこと)。				
授業の進め方・方法	前期は、中井・武田が基本的事項等について講義を行った後、各テーマについて学生が発表を行い、中井・武田の複数授業形式で行う。後期は順番に学生が発表を行い、平石・境田の複数授業形式で行う。				
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。学生自身が作成したレジメとスライドにより決められた時間で発表し、討議することに重点をおく。他の学生の発表について評価できる目も養ってもらいたい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	テーマ3(専攻科特別研究のイントロダクション):スライドの作成(その1:平石) テーマ3は専攻科特別研究のイントロダクションを専門の違う専攻科学生にも理解できるように、10分間で発表する。課題説明を行った後、プレゼンテーションの準備をおこなう。	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えるために何に注意する必要があるか説明できる。	
		2週	テーマ3(専攻科特別研究のイントロダクション):スライドの作成(その2:平石) 同上	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えるための資料を作ることができる。	
		3週	テーマ3の発表(その1:平石、境田) 一人ずつテーマ3について10分で発表し、全員で10分の質疑応答を行う。発表については学生相互の採点を行う。	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。	
		4週	テーマ3の発表(その2:平石、境田) 同上	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。	
		5週	テーマ3の発表(その3:平石、境田) 同上	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。	
		6週	テーマ3の発表(その4:平石、境田) 同上	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。	
		7週	テーマ3の発表(その5:平石、境田) 同上	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。	
		8週	テーマ3の発表(その6:平石、境田) 同上	専門の異なる学生に自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。	

4thQ	9週	テーマ4(特別研究の報告):報告書・スライドの作成(その1:境田) 各自の取り組んでいる特別研究について、審査発表会に向けての準備をする。	特別研究審査発表会に向けてのスライド・資料を作成できる。
	10週	テーマ4の発表(その1:境田、平石) 一人ずつテーマ4について10分で発表し、全員で5分程度のディスカッションをする。	自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法・実験結果・考察を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。
	11週	テーマ4の発表(その2:境田、平石) 同上	自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法・実験結果・考察を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。
	12週	テーマ4の発表(その3:境田、平石) 同上	自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法・実験結果・考察を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。
	13週	テーマ4の発表(その4:境田、平石) 同上	自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法・実験結果・考察を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。
	14週	テーマ4の発表(その5:境田、平石) 同上	自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法・実験結果・考察を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。
	15週	テーマ4の発表(その6:境田、平石) 同上	自身の専攻科特別研究の背景、研究目的、研究方法・実験結果・考察を伝えることができる。また、発表に対して質問ができる。
	16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	レジメ	発表・討議	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	70	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	70	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	専攻科特別研究
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 8		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	8		
教科書/教材	指導教員が必要資料を配布する。					
担当教員	M E 全					
到達目標						
(1)専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的かつ独創的に考察できる。 (2)自主的・継続的に学習・研究に取り組むことができる。 (3)研究年報の英文アブストラクトの作成により、英語による技術文を書くことができる。 (4)審査発表会で発表することを通じて、プレゼンテーションの技術を向上させることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的かつ独創的に考察し、応用できる。		専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的かつ独創的に考察できる。		専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的、体系的、実践的かつ独創的に考察できない。	
評価項目2	自主的・継続的に学習・研究に積極的に取り組むことができる。		自主的・継続的に学習・研究に取り組むことができる。		自主的・継続的に学習・研究に取り組むことができない。	
評価項目3	研究年報の英文アブストラクトの作成により、英語による技術文を書くことができ、国際会議の論文等が執筆できる。		研究年報の英文アブストラクトの作成により、英語による技術文を書くことができる。		研究年報の英文アブストラクトの作成により、英語による技術文を書くことができない。	
評価項目4	審査発表会で発表することを通じて、プレゼンテーションの技術を向上させ、応用することができる。		審査発表会で発表することを通じて、プレゼンテーションの技術を向上させることができる。		審査発表会で発表することを通じて、プレゼンテーションの技術を向上させることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)						
教育方法等						
概要	これまでに学んだ工学知識を総合化し、各自が選んだ個別の研究課題に応用し、問題解決にあたる実践的能力を養う。また、工学研究の手法についても実践的に学ぶ。研究課題には演習問題のように初めから答えが用意されているわけではない。自ら試行錯誤を繰り返しながら未知の領域を研究する楽しさを学んでほしい。					
授業の進め方・方法	各研究室に分かれて、指導教員から研究指導を受ける。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、360時間に相当する学習内容である。これまでの学習で培われた素養を基礎にして自主的、積極的に研究を進めること。具体的には、与えられた問題点を探索し、アプローチ法を考え、解答に至るまでの各研究プロセスを出来るだけ自己の判断によって自主的に行う。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	個別研究		各指導教員の指示により個別に実施する。	
		2週	同上		同上	
		3週	同上		同上	
		4週	同上		同上	
		5週	同上		同上	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	
		8週	同上		同上	
	2ndQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		同上	
		11週	同上		同上	
		12週	同上		同上	
		13週	同上		同上	
		14週	同上		同上	
		15週	同上		同上	
		16週	期末試験実施せず			
後期	3rdQ	1週	同上		同上	
		2週	同上		同上	
		3週	同上		同上	
		4週	同上		同上	
		5週	同上		同上	
		6週	同上		同上	
		7週	同上		同上	
		8週	同上		同上	
	4thQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		同上	
		11週	同上		同上	

		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	審査発表会	研究成果を発表することができ、質問等に答えることができる。
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	研究論文	研究活動	研究年報	研究発表	合計
総合評価割合	40	20	20	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	40	20	20	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	メカトロシステム	
科目基礎情報							
科目番号		0036		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		適宜資料を配布する。					
担当教員		関森 大介					
到達目標							
(1)センサ・アクチュエータの基礎知識や動作原理が理解でき、コンピュータによる制御ができる。 (2)センサ・アクチュエータの融合方法が理解でき、基本的なシステムが実現できる。 (3)プログラミングによってシステム全体の知能化が実現できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		センサ・アクチュエータの基礎知識や動作原理が理解でき、コンピュータによる制御が的確にできる。		センサ・アクチュエータの基礎知識や動作原理が理解でき、コンピュータによる制御ができる。		センサ・アクチュエータの基礎知識や動作原理が理解でき、コンピュータによる制御ができない。	
評価項目2		センサ・アクチュエータの融合方法が理解でき、基本的なシステムが的確に実現できる。		センサ・アクチュエータの融合方法が理解でき、基本的なシステムが実現できる。		センサ・アクチュエータの融合方法が理解でき、基本的なシステムが実現できない。	
評価項目3		プログラミングによってシステム全体の知能化が的確に実現できる。		プログラミングによってシステム全体の知能化が実現できる。		プログラミングによってシステム全体の知能化が実現できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要		本授業では、メカトロニクスに必要な機械、電気、電子、情報工学の基礎知識を総合的に講義し、さらに実機を用いた演習を行う。授業の内容としては、自律移動ロボットを題材にして、そのサブシステムである、(1)センサ、(2)アクチュエータ、(3)制御システムを中心に引き上げ、実際の仕組みや具体的な制御方法について基礎から段階的に解説する。そして、最後にこれらを統合する考え方について説明する。					
授業の進め方・方法		配布資料に沿った講義を行う。また、ロボット教材を用いた演習も行う。					
注意点		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	移動ロボットの概要		移動ロボットのハードウェア、ソフトウェア、インターフェイスなどの基本構成について理解できる。さらに、実機の移動ロボットをサンプルプログラムにて動作させることができる。		
		2週	マイコンの制御		ロボットシステム全体の制御を行なうマイコンの機能と基本構成について理解できる。また、マイコンのプログラム言語を用いた具体的な制御方法について理解できる。		
		3週	センサの原理と制御方法		ロボットのセンサとして広く用いられている、光センサ、力覚センサ、視覚センサ、ロータリエンコーダ等の原理と制御方法について理解できる。		
		4週	赤外線近接センサの制御		赤外線近接センサの制御演習を通して、制御回路やインターフェイス回路について理解でき、実際の赤外線近接センサを用いて、物体の検出方法が修得できる。		
		5週	ロータリエンコーダの制御		ロータリエンコーダの制御演習を通して、制御回路等について理解でき、実際のロータリエンコーダを用いて、モータの回転角度、角速度等の測定方法が修得できる。		
		6週	アクチュエータの原理と制御方法		ロボットのアクチュエータの主流であるステッピングモータ、DCモータ等を取り上げ、その原理と制御方法について理解できる。		
		7週	DCモータの制御(1)		DCモータの制御演習を通して、制御回路やインターフェイス回路について理解でき、実際のDCモータを用いて、モータの正逆転、PWM方式などの駆動方法が修得できる。		
		8週	DCモータの制御(2)		DCモータの制御演習を通して、PI制御理論について理解でき、実際のDCモータを用いて、モータの速度制御方法が修得できる。		
	2ndQ	9週	DCモータの制御(3)		同上		
		10週	移動ロボットの位置制御(1)		移動ロボットの機構および運動学について理解できる。また、フィードフォワードとフィードバックを用いた位置制御方法について理解できる。		
		11週	移動ロボットの位置制御(2)		移動ロボットの位置制御演習を通して、フィードフォワードとフィードバックによる位置精度を測定し、その結果について考察することができる。		
		12週	移動ロボットの位置推定		移動ロボットの実用的な位置推定方法であるデッドレコニングについて理解でき、実際の移動ロボットを用いた位置推定方法が修得できる。		

		13週	障害物回避(1)	移動ロボットに搭載された赤外線近接センサを用いて、障害物を検出・回避しながら、移動ロボットを目的地へ誘導する方法が修得できる。
		14週	障害物回避(2)	同上
		15週	障害物回避(3)	同上
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	演習課題	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	計算力学	
科目基礎情報							
科目番号	0037		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	ノート講義を中心とし、適宜参考資料を配布する。						
担当教員	國峰 寛司						
到達目標							
(1)差分法の基礎が理解できる。 (2)二次元定常問題の数値解を求めることができる。 (3)一次元非定常問題の数値解を求めることができる。 (4)移動境界問題の数値解を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	差分法の基礎が十分に理解できる。		差分法の基礎が理解できる。		差分法の基礎が理解できない。		
評価項目2	二次元定常問題の数値解を十分に求めることができる。		二次元定常問題の数値解を求めることができる。		二次元定常問題の数値解を求めることができない。		
評価項目3	一次元非定常問題の数値解を十分に求めることができる。		一次元非定常問題の数値解を求めることができる。		一次元非定常問題の数値解を求めることができない。		
評価項目4	移動境界問題の数値解を十分に求めることができる。		移動境界問題の数値解を求めることができる。		移動境界問題の数値解を求めることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	計算力学は、物理現象を表す支配方程式を、コンピュータを援用して求めることを目的としている。本講義では、まず、熱伝導問題の基礎式を導き、代表的な数値解法である差分法を対象として、その基礎的な理論と具体的な計算方法について解説するとともに、凝固に代表される移動境界問題への適用についても解説する。						
授業の進め方・方法	明石高専機械工学科の伝熱工学(第5学年選択)と明石高専専攻科の伝熱工学特論を基礎においており、それらの知識を習得していることを前提として講義を進めて行くとともに、到達目標に対応した課題演習を情報センターにて取り組む。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 目標を達成するために、各週の授業内容の予習と復習を行うこと。 4つの課題と2回の小テストにて評価を行う。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱伝導方程式		円筒座標系の熱伝導方程式を導くことができる。		
		2週	差分法の基礎		1階、および2階の導関数の差分式を、図式的・数学的に導くことができる。		
		3週	二次元定常問題・小テスト		二次元定常問題の差分式とその解法が理解できる。第2週の内容に関する小テストができる。		
		4週	演習(1)		二次元定常問題に対するプログラムを作成することができる。		
		5週	演習(2)		第4週で作成したプログラムを用いて、数値解を求めることができる。		
		6週	一次元非定常問題(1)		前進差分法による解法とアルゴリズムが理解できる。		
		7週	一次元非定常問題(2)		後退差分法による解法とアルゴリズムが理解できる。		
		8週	演習(3)		一次元非定常問題に対するプログラムが作成できる。		
	2ndQ	9週	演習(4)		第8週で作成したプログラムを用いて、数値解を求めることができる。		
		10週	移動境界問題		相変化を伴う熱伝導問題を対象として、基礎方程式、および初期・境界条件を理解し、近似解を求めることができる。		
		11週	移動境界面の取り扱い(1)・小テスト		時間とともに移動する境界面の取り扱いの代表例として、固定温度点法が理解できる。第10週の内容に関する小テストができる。		
		12週	移動境界面の取り扱い(2)		固定温度点法のアルゴリズムが理解できる。		
		13週	演習(5)		固定温度点法によるプログラムが作成できる。		
		14週	演習(6)		固定温度点法によるプログラムが作成できる。		
		15週	演習(7)		第13、14週で作成したプログラムを用いて、数値解を求めることができる。		
		16週	期末試験実施せず		0		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	課題レポート	小テスト					合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	エネルギー工学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0038			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜プリントを配布する。参考書：田坂英紀・北山直方共著「内燃機関第2 編」森北出版社,ターボ機械協会編「ターボ機械-入門編-」 など						
担当教員	田中 誠一						
到達目標							
達成目標は以下の通りである。 (1) 生活基盤を支えるエネルギー変換技術に対して今後の問題点などを認識しその対応策について議論できる。 (2) 熱機関、流体機械の構造・エネルギー変換の原理などを理解し説明できる。 (3) 各熱流体機械の基礎的な事項を理解し性能試験を計画、実施し評価することができる。 これらの目標を達成するには以下の自己学習が必要となる。 (a) 各週出題する演習問題を解き、関連する項目について自分で調査を行い理解度の向上を行う。 (b) 内燃機関の性能評価試験の実験レポートの作成に対して、様々な文献を引用して、適切な実験結果および考察を記述できるようにする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生活基盤を支えるエネルギー変換技術に対して今後の問題点などを正確に認識しその対応策について具体的に議論できる。			生活基盤を支えるエネルギー変換技術に対して今後の問題点などを認識しその対応策について議論できる。		生活基盤を支えるエネルギー変換技術に対して今後の問題点などを認識できず、その対応策について議論できない。	
評価項目2	熱機関、流体機械の構造・エネルギー変換の原理などを正確に理解し、論理的に説明できる。			熱機関、流体機械の構造・エネルギー変換の原理などを理解し説明できる。		熱機関、流体機械の構造・エネルギー変換の原理などを理解し説明できない。	
評価項目3	各熱流体機械の基礎的な事項を正確に理解し性能試験を適切に計画、実施し評価することができる。			各熱流体機械の基礎的な事項を理解し性能試験を計画、実施し評価することができる。		各熱流体機械の基礎的な事項を理解し性能試験を計画、実施し評価できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	熱・流体のエネルギー変換に関する技術についてそのシステムを理解し、設計に必要な性能計算、実験的評価の手法を実践的に学習する。具体的には、実用されている熱機関および流体機器について、構造・原理を理解し、性能評価の手法を習得する。これらは実際に実験を通して性能評価を計画し実践する。						
授業の進め方・方法	授業はスライドと板書を用いた講義を中心とし、単元ごとにワークと演習課題を実施、また実験を2回行います。目標を達成するためには、授業中の質疑やワークはもちろん、授業毎に与える演習課題に取り組み確実に理解できるように努めてください。理解が困難な場合は基礎に立ち返り、分からない場合は担当教員に質問や学生同士の学び合いをすること。						
注意点	熱力学、流体力学、伝熱工学の学習内容の実践応用科目となるため、その科目の教科書は用意し、復習しておくこと。ただし未履修でも講義を受けられないということはない。その場合は極力相談に来ること。実験レポートを提出することを単位修得の必要条件とし、計画した実験の結果に対する考察内容によって評価を行う。その他の詳細な評価基準は最初の講義の時に説明する。本科目は、授業で保証する学習時間と予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	エネルギーの変換		エネルギーの変換の種類、その中で熱機関の分類について理解し説明できる。		
		2週	熱機関のサイクルと熱効率 (1)		空気理論サイクルの仮定を理解し、代表的な熱機関のサイクルの熱効率を計算できる。		
		3週	熱機関のサイクルと熱効率 (2)		代表的な熱機関のサイクルの熱効率を計算し、各サイクルの効率を比較し考察できる空気理論サイクルで求められる熱効率との差を説明できる。		
		4週	熱機関の性能の解析と計測 (1)		熱機関の性能評価に必要な図示出力と線図係数、正味出力と機械効率について理解し適用できる。		
		5週	熱機関の性能の解析と計測 (2)		熱機関の性能評価をに必要な、出力の測定方法および熱勘定図について理解し適用できる。		
		6週	熱機関の性能評価 (実験その1)		第5週までに学んだ項目を実体験上で理解するために、受講者で提示された目的に沿った内燃機関総合性能評価実験を計画できる。		
		7週	熱機関の性能評価 (実験その1)		前週で計画した内燃機関総合性能評価実験を実施し報告書にまとめることができる。(レポート課題)		
		8週	流体機械におけるエネルギー変換		ポンプ、水車、風車などの流体機械について紹介しその原理と構造を理解し説明できる。		
	2ndQ	9週	ターボ機械の性能と効率 (1)		ターボ機械の形式とターボ機械の一般理論を理解し適用できる。		
		10週	ターボ機械の性能と効率 (2)		流体機械の作動、流体機械の特異現象について理解し説明できる。		
		11週	流体機械の性能の解析と計測		熱機関の性能評価をに必要な、比速度、性能曲線、相似法則について理解し適用できる。		
		12週	流体機械の性能評価 (実験その2)		第11週までに学んだ項目を実体験上で理解するために、受講者で提示された目的に沿ったポンプ性能評価実験を計画できる。		

		13週	流体機械の性能評価（実験その２）	前週で計画した内燃機関総合性能評価実験を実施し報告書にまとめることができる。（レポート課題）
		14週	燃料電池の原理と燃料電池発電システム（１）	燃料電池の原理，種類とそのシステムについて理解し説明できる。
		15週	燃料電池の原理と燃料電池発電システム（２）	燃料電池の熱・物質収支について理解し、実際の燃料電池の理論効率を計算できる。（レポート課題）
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	演習課題の実施状況および提出	実験レポートの評価	期末試験の点数	合計
総合評価割合	20	40	40	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	20	40	40	100
分野横断的能力	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	材料強度学
科目基礎情報						
科目番号	0039		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	境田・上野・磯西・西野・堀川:「材料強度学」、コロナ社					
担当教員	境田 彰芳					
到達目標						
1)材料強度評価に対する破壊力学的手法の適切な適用法を修得する(学習・教育目標(D,F))。 (2)材料強度の統計的性質について理解するとともに、信頼性工学的な取扱いについて修得する(学習・教育目標(D))。 (3)材料強度に及ぼす各種因子の影響について理解するとともに、他者に説明できる能力を習得する(学習・教育目標(H))。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	材料強度評価に対する破壊力学的手法の適切な適用法を具体的に説明できる。		材料強度評価に対する破壊力学的手法の適切な適用法を説明できる。		材料強度評価に対する破壊力学的手法の適切な適用法を説明できない。	
評価項目2	材料強度の統計的性質について理解するとともに、信頼性工学的な取扱いについて具体的に説明できる。		材料強度の統計的性質について理解するとともに、信頼性工学的な取扱いについて説明できる。		材料強度の統計的性質について理解するとともに、信頼性工学的な取扱いについて説明できる。	
評価項目3	材料強度に及ぼす各種因子の影響について具体的に説明できる。		材料強度に及ぼす各種因子の影響について説明できる。		材料強度に及ぼす各種因子の影響について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	材料強度学は固体材料に外力が加わったときに生じる変形や破壊などの材料の力学的挙動を扱う分野であり、金属組織などの材料学の分野から材料力学や連続体力学の分野を含み、さらには信頼性工学などの分野にも関連している。講義では各種の強度特性に及ぼす微視構造や種々の因子の影響について理解するとともに、各種の機械・構造物に対する材料選択や強度設計法について習得することを目的とする。					
授業の進め方・方法	講義形式で授業を行う。					
注意点	明石高専機械工学科に開設されている材料学や材料力学、およびその関連科目を履修していることが望ましいが、できるだけ基礎的事項から講義する。本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	材料強度学概論 材料強度学の基本的な考え方や扱う内容、材料強度学を学ぶ上で必要となる項目について学ぶ。		材料強度学の基本的な考え方や扱う内容を説明できる。	
		2週	静的荷重下での変形と強度、破壊(1) 金属材料の静的強度、すべりと塑性変形について学ぶ。		金属材料の静的強度、すべりと塑性変形について説明できる。	
		3週	静的荷重下での変形と強度、破壊(2) 金属材料の強化方法とその機構について学ぶ。		金属材料の強化方法とその機構について説明できる。	
		4週	静的荷重下での変形と強度、破壊(3) 金属材料における破壊の種類やその破壊機構について学ぶ。		金属材料における破壊の種類やその破壊機構について説明できる。	
		5週	破壊力学概説(1) 弾性力学の基礎、き裂先端の応力場と応力拡大係数について学ぶ。		弾性力学の基礎、き裂先端の応力場と応力拡大係数について説明できる。	
		6週	破壊力学概説(2) き裂先端の塑性域、エネルギー解放率について学ぶ。		き裂先端の塑性域、エネルギー解放率について説明できる。	
		7週	破壊力学概説(3) 平面ひずみ破壊靱性について学ぶ。		平面ひずみ破壊靱性について説明できる。	
		8週	疲労(1) 疲労に関する基礎事項を学ぶ。		疲労に関する基礎事項を説明できる。	
	4thQ	9週	疲労(2) 各種疲労試験方法、疲労特性について学ぶ。		各種疲労試験方法、疲労特性について説明できる。	
		10週	疲労(3) 疲労き裂進展特性について学ぶ。		疲労き裂進展特性について説明できる。	
		11週	高温強度・環境強度 クリープ変形、クリープ破壊ならびに腐食について学ぶ。		クリープ変形、クリープ破壊ならびに腐食について説明できる。	
		12週	材料強度の統計的性質(1) 材料強度の統計的性質を考える上で必要となる確率分布などの基礎事項について学ぶ。		材料強度の統計的性質を考える上で必要となる確率分布などの基礎事項について説明できる。	
		13週	材料強度の統計的性質(2) 各種確率紙とその使い方について学ぶ。		各種確率紙とその使い方について説明できる。	
		14週	材料強度の統計的性質(3) 金属材料などの静的強度の統計的性質について学ぶ。		金属材料などの静的強度の統計的性質について説明できる。	
		15週	材料強度の統計的性質(4) 金属材料などの疲労強度の統計的性質について学ぶ。		金属材料などの疲労強度の統計的性質について説明できる。	
		16週	期末試験			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	20	0	0	0	0	60
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	光デバイス	
科目基礎情報							
科目番号		0040		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		機械・電子システム工学専攻		対象学年		専2	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		末松安晴:「新版 光デバイス」、コロナ社					
担当教員		周山 大慶					
到達目標							
1) 光デバイスの基礎として、量子力学と半導体に関する基礎事項や光波と電子の相互作用について説明できる。 2) 各種の発光デバイス、受光デバイスと固体表示デバイスについて、その動作原理とその特性を理解し、重要な性質を系統的に説明できる。 3)与えられた実験課題に対して、専門分野の知識と技術を用いて実験システムを構築できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		光、量子力学および半導体の基礎的性質を理解・応用することができる。		光、量子力学および半導体の基礎的性質を理解することができる。		光、量子力学および半導体の基礎的性質を理解することができない。	
評価項目2		光波と電子の相互作用を理解、問題解決できる。		光波と電子の相互作用を理解できる。		光波と電子の相互作用を理解できない。	
評価項目3		光導波路、LED、レーザーなどの光デバイスの基礎原理および応用を理解できる。		光導波路、LED、レーザー、光ファイバーなどの光デバイスの基礎原理を理解できる。		光導波路、LED、レーザー、光ファイバーなどの光デバイスの基礎原理を理解できない。	
評価項目4		受光・表示デバイス、光ファイバー、光通信、光計測と医療への応用、光電力応用などを理解し、詳しく説明できる。		受光・表示デバイス、光ファイバー、光通信、光計測と医療への応用、光電力応用などを理解できる。		受光・表示デバイス、光ファイバー、光通信、光計測と医療への応用、光電力応用などを理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要		光エレクトロニクスは、光学的技術、量子電子工学と電子工学の融合であり、電子工学の機能を多様化、高性能化させるのに役立っており、また広範な内容を有する。光デバイスは、この光エレクトロニクスの中核となるデバイスであり、その技術の進歩は著しい。本講義では、前半は光デバイスの基礎と理論に重点を置き、後半は光情報伝送と光記録及び像情報技術用などで利用される各種の光デバイスについて最新の情報を取り入れて説明する。					
授業の進め方・方法		合格の対象としない欠席条件(割合)：1/3以上の欠課 成績評価は、上記の本科目の達成度を定期試験(80%)、レポート(20%)を総合して評価し、60% 以上を達成したものを合格とする。定期試験では、授業内容の理解達成度を評価する。演習は1回とし、2)の達成目標が達成できたかどうかを評価する。					
注意点		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。履修に当たっては、電子物性に関連する科目を習得しておくことが望ましい。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	光エレクトロニクスと光デバイス 光エレクトロニクスは、電気通信工学的、画像工学的、光エネルギーの3面的な特徴を持つ技術である。このことを基に、光エレクトロニクス分野の中核をなす光デバイスの形態について述べる。		光エレクトロニクスと光デバイス 光エレクトロニクスの形態を理解できる。		
		2週	光の基礎的性質 これまで物理などで学んできた光の基本的性質(屈折、反射、干渉、回折、偏光など)を復習する。		光の基礎的性質を理解できる。		
		3週	量子力学の基礎事項 量子力学発達の背景、物質の粒子・波動の二面性、シュレディンガーの波動方程式、波動関数など光波と電子の相互作用を理解するために必要な量子力学的な理論的背景を述べる。		量子力学の基礎事項を理解できる。		
		4週	半導体の光学的性質 物質は光を吸収したり放出したりする。これは、主に物質中の電子との相互作用によるものである。半導体における光の吸収と放出について現象論的に考える。		半導体における光の吸収と放出を理解できる。		
		5週	半導体の電気的性質 光デバイスの基礎となる半導体の電気的性質について説明する。		半導体の電気的性質を理解できる。		
		6週	光波と電子の相互作用の量子論 光と電子の相互作用を量子力学的に表す方法について考える。密度行列を用いて、2準位系近似で物質の分極率(エネルギーの蓄積を示す実部と吸収や誘導放出を表す虚部)を導出する。		光波と電子の相互作用の量子論を理解できる。		
		7週	光波と電子の相互作用の量子論 (電子遷移と誘導放出) 前週の光波の増幅過程に関する解析を基に、誘導放出に基づく光子密度と電子密度の時間的な変化の割合を表すレート方程式を導出する。これを基に、多準位系の分極について考える。		電子遷移と誘導放出を理解できる。		
		8週	演習		演習		

2ndQ	9週	光誘電体導波路 光誘電導波路の解析に主に光線近似を用い、光導波路の基本的な性質（全反射、導波モード、等価屈折率、封じ込め係数、光伝搬の電力整合、集光と出射など）、光伝搬の電力整合と曲がり損失 光伝搬の電力整合条件、モード整合条件、プリュスター角と曲がり損失について述べる。	光誘電体導波路 光誘電導波路の解析に主に光線近似を用い、光導波路の基本的な性質（全反射、導波モード、等価屈折率、封じ込め係数、光伝搬の電力整合、集光と出射など）、光伝搬の電力整合と曲がり損失 光伝搬の電力整合条件、モード整合条件、プリュスター角と曲がり損失について理解できる。
	10週	周期構造、集光と出射 周期構造とフォトニック結晶について説明する。集光と出射を理解する。	周期構造、集光と出射、周期構造とフォトニック結晶、集光と出射を理解できる。
	11週	発光ダイオード 発光デバイスの一つとして重要な発光ダイオード(LED)の構造、製法、材料について述べる。また、そのデバイスの発光特性や特徴等について述べ、その現状の問題点について考える。	発光ダイオードの原理を理解できる。
	12週	半導体レーザ 光源としての半導体レーザの性質を説明し、発振しきい値、光出力、発振波長、増幅利得などが求められる。半導体レーザ(LD)の構造、種類、発光特性や特徴等について述べる。	半導体レーザの原理を理解できる。
	13週	受光・表示デバイス 受光デバイス（光検出器、フォトダイオード、太陽電池等）の構造、特性や特徴について述べる。表示デバイスについて液晶を中心に述べる。	光検出器、フォトダイオード、太陽電池等の構造、特性や特徴を理解できる。
	14週	光線路と光コンポーネント 光ファイバと光デバイスの結合、光回路素子、光偏光器などについて述べる。	光ファイバと光デバイスの結合、光回路素子、光偏光器などを理解できる。
	15週	光デバイスの応用 光通信、光計測と医療への応用、光電力応用などを中心に述べる。	光デバイスの応用を把握できる。
	16週	期末試験	期末試験

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	アルゴリズム理論
科目基礎情報					
科目番号	0041		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	五十嵐善英、西谷泰昭:「アルゴリズムの基礎」、コロナ社				
担当教員	濱田 幸弘				
到達目標					
[1] アルゴリズムの基礎知識と基本的なデータ構造を説明できる(D)。 [2] 現実の問題をグラフ上の問題として定式化することができる(F)。 以下にあげるアルゴリズムとそれらの時間計算量を把握する(H)。 [3] 最小全域木を構成するアルゴリズム [4] グラフを探索するアルゴリズム [5] 最短経路問題を解くアルゴリズム [6] 最大フロー問題を解くアルゴリズム [7] 文字列照合アルゴリズム					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	計算量、オーダ、リスト、スタック、キュー、ヒープ、グラフ、木を的確に説明できる。		計算量、オーダ、リスト、スタック、キュー、ヒープ、グラフ、木を説明できる。		計算量、オーダ、リスト、スタック、キュー、ヒープ、グラフ、木を説明できない。
評価項目2	各種委員会の開催日を決定する問題を的確に定式化することができる。		各種委員会の開催日を決定する問題を定式化することができる。		各種委員会の開催日を決定する問題を定式化することができない。
評価項目3	Kruskal、Primのアルゴリズムとそれらの時間計算量を的確に説明できる。		Kruskal、Primのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。		Kruskal、Primのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できない。
評価項目4	深さ優先探索アルゴリズム、幅優先探索アルゴリズムとそれらの時間計算量を的確に説明できる。		深さ優先探索アルゴリズム、幅優先探索アルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。		深さ優先探索アルゴリズム、幅優先探索アルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できない。
評価項目5	Dijkstra、Bellman-Ford、Floydのアルゴリズムとそれらの時間計算量を的確に説明できる。		Dijkstra、Bellman-Ford、Floydのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。		Dijkstra、Bellman-Ford、Floydのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できない。
評価項目6	ord-Fulkerson、Edmonds-Karp、Push-relabelアルゴリズムとそれらの時間計算量を的確に説明できる。		Ford-Fulkerson、Edmonds-Karp、Push-relabelアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。		ord-Fulkerson、Edmonds-Karp、Push-relabelアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できない。
評価項目7	Knuth-Morris-Pratt、Boyer-Mooreのアルゴリズムとそれらの時間計算量を的確に説明できる。		Knuth-Morris-Pratt、Boyer-Mooreのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。		Knuth-Morris-Pratt、Boyer-Mooreのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)					
教育方法等					
概要	グラフアルゴリズムと文字列照合アルゴリズムについて学ぶ。グラフは頂点集合と辺集合の2項組で定義され、現実の問題における「もの」とそれらの間の「関係」または「接続」を表現するのによく用いられる。現実の問題をグラフ上の問題として定式化して、グラフ上で解くことにより現実の問題の解を得ることができる。文字列は計算機で扱われるデータの中で最も重要なもののひとつである。文書ファイルやソースファイルなどの文字列データの中から、指定された文字列を効率よく見つけるアルゴリズムについて学ぶ。				
授業の進め方・方法	講義形式				
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。受講に当たっては、C言語によるプログラミングを習得しておくことが望ましい。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	アルゴリズムの基礎知識	アルゴリズム、計算量、オーダについて説明できる。	
		2週	基本的なデータ構造	リスト、スタック、キュー、ヒープについて説明できる。	
		3週	現実の問題をグラフ上の問題として定式化する方法	グラフと木について説明できる。各種委員会の開催日を決定する問題をグラフ上の問題として定式化することができる。	
		4週	最小全域木を構成するアルゴリズム 1/2	Kruskalのアルゴリズム、集合操作のアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。	
		5週	最小全域木を構成するアルゴリズム 2/2	Primのアルゴリズムとその時間計算量を説明できる。	
		6週	グラフを探索するアルゴリズム	深さ優先探索アルゴリズム、幅優先探索アルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。	
		7週	最短経路問題を解くアルゴリズム 1/2	単一頂点からの最短経路を求めるDijkstraのアルゴリズムとその時間計算量を説明できる。	
		8週	中間試験 第1週から第6週までの内容を試験範囲とする。		
	4thQ	9週	最短経路問題を解くアルゴリズム 2/2	単一頂点からの最短経路を求めるBellman-Fordのアルゴリズムとすべての頂点間の最短経路を求めるFloydのアルゴリズムについて説明できる。また、それらの時間計算量を説明できる。	
		10週	最大フロー問題を解くアルゴリズム 1/2	Ford-Fulkersonのアルゴリズム、Edmonds-Karpのアルゴリズムとそれらの時間計算量を説明できる。	

		11週	最大フロー問題を解くアルゴリズム 2/2	Push-relabelアルゴリズムとその時間計算量を説明できる。
		12週	文字列照合アルゴリズム 1/3	Knuth-Morris-Prattのアルゴリズムとその時間計算量を説明できる。
		13週	文字列照合アルゴリズム 2/3	Boyer-Mooreのアルゴリズム(高速化のアイデアその1)とその時間計算量を説明できる。
		14週	文字列照合アルゴリズム 3/3	Boyer-Mooreのアルゴリズム(高速化のアイデアその2)とその時間計算量を説明できる。
		15週	アルゴリズム理論からアルゴリズム工学へ	アルゴリズム理論と現実とのギャップを埋める「アルゴリズム工学」について説明できる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	電子回路特論
科目基礎情報						
科目番号	0042		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	指定しない					
担当教員	井上 一成					
到達目標						
本科目では、VLSIデバイスと回路設計、シミュレーションについて、講義及び演習形式で授業を行う。CMOS論理回路を正しく理解し、演算器や制御回路への応用、各種メモリLSIの特徴を学び、電子回路技術のロードマップを理解する。さらに低消費電力化や信頼性技術など、近年の電子回路専門分野での課題と方策を理解することを目指す。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	回路の設計と動作検証の技術を十分に理解できる。		回路の設計と動作検証の技術を理解できる。		回路の設計と動作検証の技術を理解できない。	
評価項目2	低消費電力化、高速化のための技術を十分に理解できる。		低消費電力化、高速化のための技術を理解できる。		低消費電力化、高速化のための技術を理解できない。	
評価項目3	SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を十分に理解できる。		SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解できる。		SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	VLSIデバイスは、高速化、低消費電力化、高集積化の3つの軸で目覚ましい発展を遂げた。それを実現するための高性能設計技術について、回路とアーキテクチャ技術を講術する。本講義は、メモリ及びアプリケーションプロセッサ設計の実務経験を有する者が、近年の電子回路高性能設計を紹介し講義形式で授業を行う。					
授業の進め方・方法	1)～3)について、講義形式と演習形式で授業を行う。試験は実施せず提出課題で評価を行う。 1) 回路の設計と動作検証の技術を理解する。 2) 低消費電力化、高速化のための技術を理解する。 3) SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解する。					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義の概要とVLSI高性能化動向 電子回路特論の講義概要について解説する。		講義の概要とVLSI高性能化動向 電子回路特論の講義概要について理解する。	
		2週	nMOS/pMOSトランジスタとCMOSインバータ nMOS/pMOSトランジスタとCMOSインバータの動作について解説する。		nMOS/pMOSトランジスタとCMOSインバータ nMOS/pMOSトランジスタとCMOSインバータの動作について理解する。	
		3週	CMOS論理回路 各種CMOS論理回路について解説する。		CMOS論理回路 CMOS論理回路について理解する。	
		4週	CMOSを用いた組合せ回路 CMOS論理回路で構成する組合せ回路について解説する。		CMOSを用いた組合せ回路 CMOS論理回路で構成する組合せ回路について理解する。。	
		5週	CMOSを用いた順序回路 CMOS論理回路で構成する順序回路について解説する。		CMOSを用いた順序回路 CMOS論理回路で構成する順序回路について理解する。	
		6週	LSIの製造工程 シリコン基板、ゲート酸化膜形成、イオン注入などについて解説する。		LSIの製造工程 シリコン基板、ゲート酸化膜形成、イオン注入などについて理解する。	
		7週	VLSIの設計 LSI設計における機能設計、ハードウェア記述言語と検証について解説する。		VLSIの設計 LSI設計における機能設計、ハードウェア記述言語と検証について理解する。	
		8週	揮発性メモリ回路 SRAMとDRAM回路構成と動作について解説する。		揮発性メモリ回路 SRAMとDRAM回路構成と動作について理解する。	
	2ndQ	9週	不揮発メモリ回路 不揮発メモリの回路構成と動作について解説する。		不揮発メモリ回路 不揮発メモリの回路構成と動作について理解する。	
		10週	Spiceを用いた回路設計演習 1 Spiceによる回路入力について解説する。		Spiceを用いた回路設計演習 1 Spiceによる回路入力について理解する。	
		11週	Spiceを用いた回路設計演習 2 Spiceによる回路入力と動作検証について解説する。		Spiceを用いた回路設計演習 2 Spiceによる回路入力と動作検証について理解する。	
		12週	Spiceを用いた回路設計 提出課題 1 Spiceによる回路入力と動作検証について課題を解く。		Spiceを用いた回路設計 提出課題 1 Spiceによる回路入力と動作検証について課題を解く。	
		13週	Spiceを用いた回路設計 提出課題 2 Spiceによる回路入力と動作検証について課題を解き提出する。		Spiceを用いた回路設計 提出課題 2 Spiceによる回路入力と動作検証について課題を解く。	
		14週	テストと信頼性設計 カバレッジとテスト容易化設計について解説する。		テストと信頼性設計 カバレッジとテスト容易化設計について理解する。。	
		15週	総まとめと今後の動向 More than Moore、IoTセンサーノードなど今後のVLSI技術の開発動向を解説する。		総まとめと今後の動向 More than Moore、IoTセンサーノードなど今後のVLSI技術の開発動向を理解する。	
		16週	期末試験実施せず			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	提出課題						合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	情報数理工学
科目基礎情報						
科目番号	0043		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	なし。適宜講義資料を配布する。					
担当教員	大西 鮎美					
到達目標						
[1] 統計解析の基礎知識を習得し、説明できる。 [2] 最近傍法を理解して構成できる。 [3] 単純ベイズを理解して構成できる。 [4] 決定木を理解して構成できる。 [5] 回帰法を理解して構成できる。 [6] その他SVM等のアルゴリズムを理解して構成できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	統計解析の基礎知識を習得し、十分に説明できる。		統計解析の基礎知識を習得し、説明できる。		統計解析の基礎知識を習得し、説明できない。	
評価項目2	最近傍法を理解して十分に構成できる。		最近傍法を理解して構成できる。		最近傍法を理解して構成できない。	
評価項目3	単純ベイズを理解して十分に構成できる。		単純ベイズを理解して構成できる。		単純ベイズを理解して構成できない。	
評価項目4	決定木を理解して十分に構成できる。		決定木を理解して構成できる。		決定木を理解して構成できない。	
評価項目5	回帰法を理解して十分に構成できる。		回帰法を理解して構成できる。		回帰法を理解して構成できない。	
評価項目6	その他SVM等のアルゴリズムを理解して十分に構成できる。		その他SVM等のアルゴリズムを理解して構成できる。		その他SVM等のアルゴリズムを理解して構成できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)						
教育方法等						
概要	情報数理工学は、世の諸現象、特に情報工学に関する現象を数理モデルとして捉えて、解く学問である。データの中から法則性やパターンを見つけるアルゴリズムを構成することを目標に機械学習とデータマイニングと呼ばれる統計解析の応用について学習する。統計解析の基本的な事項を学習した後に、実用的なアルゴリズムを取り上げ、それらの概要およびR言語を用いた応用方法について習得する。					
授業の進め方・方法	授業では、配布資料を利用し、プレゼンテーション形式の解説と、実際にコンピュータを操作する演習を実施する。演習では、評価対象である最終レポートでとり上げる課題を題材とするため、理解度向上のために授業中に行う演習課題を解くことが重要である。 英語導入計画：Technical terms					
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 目標を達成するためには、講義以外に自己学習が必要である。 (1)講義内容を予習・復習する。 (2)講義で指定される課題（6題）に取り組む。 評価方法：課題レポート6題（100%） 評価基準：達成目標に対して習得すべき内容を以下に示す。 [1] 統計解析の基本的な処理をR言語で実装できること。 [2] 最近傍法を応用したプログラムをR言語で実装できること。 [3] 単純ベイズを応用したプログラムをR言語で実装できること。 [4] 決定木を応用したプログラムをR言語で実装できること。 [5] 回帰法を応用したプログラムをR言語で実装できること。 [6] その他SVM等のアルゴリズムを応用したプログラムをR言語で実装できること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	機械学習の概要		機械学習の変遷および今後の学習内容を紹介したことを説明できる。	
		2週	統計解析の復習1		平均、分散、偏差値等、統計解析で扱う基本的な統計量を理解したことを説明できる。	
		3週	統計解析の復習2		平均、分散、偏差値等の統計解析の基本的な統計量をR言語で取り扱うことができる。	
		4週	最近傍法アルゴリズム1		最近傍法アルゴリズムを解説したことを説明できる。	
		5週	最近傍法アルゴリズム2		最近傍法アルゴリズムをR言語で動作確認できる。	
		6週	単純ベイズアルゴリズム1		単純ベイズアルゴリズムを解説したことを説明できる。	
		7週	単純ベイズアルゴリズム2		単純ベイズアルゴリズムをR言語で動作確認できる。	
		8週	決定木アルゴリズム1		決定木アルゴリズムを解説したことを説明できる。	
	2ndQ	9週	決定木アルゴリズム2		決定木アルゴリズムをR言語で動作確認できる。	
		10週	回帰法1		回帰法を解説したことを説明できる。	
		11週	回帰法2		回帰アルゴリズムをR言語で動作確認できる。	

		12週	パターン認識アルゴリズムSVM	パターン認識アルゴリズムSVMを解説したことを説明できる。
		13週	相関ルール	相関ルールについて解説したことを説明できる。
		14週	k-meansによるクラスタリング	k-meansによるクラスタリングについて解説したことを説明できる。
		15週	モデルの性能の評価法	モデルの性能の評価法について解説したことを説明できる。
		16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	ディジタル回路設計		
科目基礎情報								
科目番号	0044		科目区分		専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専2			
開設期	前期		週時間数		2			
教科書/教材	特に指定しない。							
担当教員	野村 隼人							
到達目標								
プロセッサを中心としたディジタル回路について、以下を目標として学ぶ。 1) アーキテクチャレベル、回路レベルでプロセッサの構成を学び、並列処理による高速化技術を理解する。 2) 低消費電力化のための制御技術を理解する。 3) SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	アーキテクチャレベル、回路レベルの並列処理による高速化技術を十分に理解できる。		アーキテクチャレベル、回路レベルの並列処理による高速化技術を理解できる。		アーキテクチャレベル、回路レベルの並列処理による高速化技術を理解できない。			
評価項目2	低消費電力化のための制御技術を十分に理解できる。		低消費電力化のための制御技術を理解できる。		低消費電力化のための制御技術を理解できない。			
評価項目3	SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を十分に理解できる。		SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解できる。		SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解できない。			
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G) 学習・教育目標 (H)								
教育方法等								
概要	VLSIデバイスは、高速化、低消費電力化、高集積化の3つの軸で目覚ましい発展を遂げた。本科目ではこれらを実現するためのディジタル回路設計技術について、アーキテクチャ技術、回路技術の視点から講義する。							
授業の進め方・方法	1)～3)について、講義形式で授業を行う。試験は実施せず課題演習で評価を行う。 1) アーキテクチャレベル、回路レベルの並列処理による高速化技術を理解する。 2) 低消費電力化のための制御技術を理解する。 3) SRAM, DRAM, FLASHなど高集積メモリ回路技術を理解する。							
注意点	本科目は学修単位であるため、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	講義の概要とVLSI高性能化動向		電子回路特論の講義概要について理解する。			
		2週	パイプラインアーキテクチャ－ 1		モデルCPUを定義し、時間並列アーキテクチャによる高速化を理解する。			
		3週	パイプラインアーキテクチャ－ 2		パイプラインハザードとその回避技術について理解する。			
		4週	スーパースカラーアーキテクチャ		空間並列アーキテクチャによる高速化を理解する。			
		5週	VLIWアーキテクチャ		別な例の空間並列アーキテクチャによる高速化を理解する。			
		6週	ベクトル演算アーキテクチャ		画像処理などのベクトルデータ処理に最適化されたアーキテクチャを理解する。			
		7週	マルチコアアーキテクチャ		近年の主流であるメニーコアおよびヘテロジニアスマルチコアを理解する。			
		8週	並列加算回路		種々の並列加算回路技術を紹介し、それらの得失について理解する。			
	2ndQ	9週	算術論理演算回路		ALUの設計を実施するとともに、CMOS構成ALUについて理解する。			
		10週	並列乗算回路－ 1		種々の並列乗算を高速化するアルゴリズム、回路技術を紹介し、それらの得失について理解する。			
		11週	並列乗算回路－ 2		種々の並列乗算を高速化するアルゴリズム、回路技術を紹介し、それらの得失について理解する。			
		12週	揮発性メモリ回路		SRAM回路構成と動作について理解する。			
		13週	不揮発メモリ回路		不揮発メモリの回路構成と動作について理解する。			
		14週	低消費電力技術		マルチ閾値、パワーゲーティング、動的制御技術を理解する。			
		15週	今後の動向		More than Moore、IoTセンサーノードなど今後のVLSI技術の開発動向を理解する。			
		16週	期末試験実施せず					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100	
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0	

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	80	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	最適化デザイン	
科目基礎情報							
科目番号	0045		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	北村 充『数値計画法による最適化』[森北出版]						
担当教員	史 鳳輝						
到達目標							
(1)最適化・最適設計に関する知識・方法を理解し、習得できる。(H) (2)線形計画最適化,非線形計画最適化手法の基本数式を理解し、計算できる。(D) (3)多目的最適化の考え方と数式式を理解し、理解できる。(D) (4)遺伝的アルゴリズムの最適設計の原理を説明し、実践できる。(F),(H) (5)最適設計の例として、はすば歯車減速装置の最適設計を行い、実際の最適化応用できる。(D,F)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	最適化・最適設計に関する知識・方法を理解し、十分習得できる		最適化・最適設計に関する知識・方法を理解し、習得できる		最適化・最適設計に関する知識・方法を理解し、習得できない		
評価項目2	線形計画最適化,非線形計画最適化手法の基本数式式を理解し、十分計算できる		線形計画最適化,非線形計画最適化手法の基本数式式を理解し、計算できる		線形計画最適化,非線形計画最適化手法の基本数式式を理解し、計算できない		
評価項目3	多目的最適化の考え方と数式式の理解し、十分理解できる		多目的最適化の考え方と数式式の理解し、理解できる		多目的最適化の考え方と数式式の理解し、理解できない		
評価項目4	遺伝的アルゴリズムの考え方と数式式の理解し、十分理解できる		遺伝的アルゴリズムの考え方と数式式の理解し、十分理解できる		遺伝的アルゴリズムの考え方と数式式の理解し、十分理解できる		
評価項目5	はすば歯車減速装置の最適設計のプログラム作成・計算ができる		はすば歯車減速装置の最適設計のプログラム作成・計算ができる		はすば歯車減速装置の最適設計のプログラム作成・計算ができる		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	機械システムに対する高性能化の要求に伴い、最適化（広い分野が対象）及び最適設計（設計分野が対象）は各分野において盛んに利用されている。コンピュータのさらなる発達に伴い、最適化及び最適設計の重要度は今後ますます増加する見込みである。本科目では、最適化・最適設計の概念,最適化・最適設計のプロセス、最適化の手法について学ぶ。また、各種機械システムについて最適設計の具体例を学ぶ。実施されるスモールテストにより知識を確実なものにする。						
授業の進め方・方法	講義形式。適宜、課題を出題する。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	受講ガイダンス		シラバスに従い、本講義の内容について説明		
		2週	最適化概念・用語		最適設計、最適化問題・最適設計問題の例を通じて最適化概念・用語、手法などの説明。		
		3週	Optimization Toolbox (Matlab) による最適化方法 最適化計算を行うため、Matlab/simulinkおよび Optimization Toolboxの基本操作を学ぶ。		MATLAB/Simulink, Optimization Toolboxの使い方		
		4週	線形計画法最適化(1)		線形計画法最適化問題の概要及び定式化方法。		
		5週	線形計画法最適化(2)		シンプレックス法とその適用例。		
		6週	線形計画法最適化 (3)		線形計画法の適用例。 MatlabのOptimization Toolboxによる線形計画法最適化。		
		7週	多目的最適化・レポート1 バス線路新設における多目的最適化(1)		多目的最適化の方法の重み付け法を学ぶ。 適応例を取上げ、演習で多目的最適化方法を学ぶ。		
		8週	レポート1 バス線路新設における多目的最適化(2)		新規でバス線路を企画し、利用客の満足度を最大,バス会社の利益を最大にするため,多目的最適化を行う。 MatlabのOptimization Toolboxによる多目的最適化。		
	4thQ	9週	非線形計画法最適化 (1)		非線形最適化問題の概要および最適化手法。 工学における非線形計画法の応用例.制約条件なしの最適化手法の説明。		
		10週	非線形計画最適化 (2)		制約条件付きの最適化手法の説明しSUMT、直線上の最小化手法及びPowellの共役方向法などを学ぶ。 最適設計のモデル化、定式化、前処理、最適化計算プログラムおよび最適化結果の検討を学ぶ。		
		11週	非線形計画最適化 (3)		遺伝的アルゴリズム(GA) 遺伝的アルゴリズムの概要および最適解探索プログラムの内容を学ぶ。 設計例を取上げ、他の最適化手法と比較する。		
		12週	レポート2 はすば歯車減速装置の最適設計(1)		設計工学、設計製図で学んだ歯車設計の知識を活かし、はすば歯車減速装置の最適設計を行う。		
		13週	レポート2 はすば歯車減速装置の最適設計(2)		目的関数、設計変数および制約条件の定式化方法。		

		14週	レポート2 はすば歯車減速装置の最適設計(3)	Matlab プログラミング（Mファイル）の作成を推進 ・最適化された結果の検討, 本科での計算結果と比較し 最適設計の重要性を認識する。
		15週	まとめ・評価	本講義で学んだ内容を要約し, 復習する。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	演習・レポート	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	30	30	60
専門的能力	10	20	30
分野横断的能力	0	10	10

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	マイクロマシン	
科目基礎情報							
科目番号	0046			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電子システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。						
担当教員	松塚 直樹						
到達目標							
(1) 異方性材料の特徴を理解し、任意の結晶方位の物性値を計算できる。(H) (2) 代表的な半導体微細加工技術の原理を理解し、説明できる。(D) (3) マイクロマシンの構造から作製工程を説明できる。(F) (4) センサの検出原理、アクチュエータの駆動原理を理解し、説明できる。(D) (5) センサやアクチュエータの設計技術を習得する。(F),(H)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	異方性材料の特徴を十分に理解し、任意の結晶方位の物性値を正確に計算できる。			異方性材料の特徴を理解し、任意の結晶方位の物性値を計算できる。		異方性材料の特徴の理解が不十分で、任意の結晶方位の物性値を計算できない。	
評価項目2	代表的な半導体微細加工技術の原理を十分に理解し、正確に説明できる。			代表的な半導体微細加工技術の原理を理解し、説明できる。		代表的な半導体微細加工技術の原理の理解が不十分で、説明できない。	
評価項目3	マイクロマシンの構造から作製工程を具体的に説明できる。			マイクロマシンの構造から作製工程を説明できる。		マイクロマシンの構造から作製工程を具体的に説明できない。	
評価項目4	センサの検出原理、アクチュエータの駆動原理を十分に理解し、正確に説明できる。			センサの検出原理、アクチュエータの駆動原理を理解し、説明できる。		センサの検出原理、アクチュエータの駆動原理の理解が不十分で、説明できない。	
評価項目5	センサやアクチュエータの設計技術を正確に応用できる。			センサやアクチュエータの設計技術に応用できる。		センサやアクチュエータの設計技術に応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	マイクロマシン (MEMS) は、半導体微細加工技術によって微細構造体、センサ、アクチュエータ、電子回路が集積化されたデバイスであり、幅広い分野で応用されている。本科目の前半では、代表的な半導体微細加工技術およびマイクロマシン作製方法を解説する。後半ではマイクロマシン分野で用いられているセンサの原理、アクチュエータの駆動原理、代表的なセンサ、アクチュエータの設計手法について解説する。						
授業の進め方・方法	講義形式で行い、配布資料に沿って授業を進める。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習および課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。材料学、材料力学、電子回路の基礎知識を有していることが望ましいが、必要となる知識は授業で解説するため、出身学科は問わない。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	マイクロマシンの概観		マイクロマシン開発の歴史およびスケーリング則について理解する。		
		2週	単結晶シリコンの物性(1)		単結晶シリコンの結晶構造、製造方法、物性の異方性について理解する。		
		3週	単結晶シリコンの物性(2)		単結晶シリコンの任意の結晶方位における物性の計算方法について理解する。		
		4週	フォトリソグラフィ技術		フォトリソグラフィ技術の原理について理解する。		
		5週	成膜技術(1)		スパッタ法、蒸着法、化学気相堆積法について理解する。		
		6週	成膜技術(2)		熱酸化、不純物拡散について理解する。		
		7週	エッチング技術(1)		液体による単結晶シリコンの等方性エッチング、異方性エッチングについて理解する。		
		8週	エッチング技術(2)		ガスを用いたドライエッチング技術について理解する。		
	4thQ	9週	マイクロマシン作製技術		半導体微細加工技術を用いたマイクロマシン作製工程について理解する。		
		10週	センサの設計技術(1)		代表的なマイクロセンサおよびセンシング原理について理解する。		
		11週	センサの設計技術(2)		ピエゾ抵抗型圧力センサの設計方法について理解する。		
		12週	センサの設計技術(3)		ピエゾ抵抗型圧力センサの設計を行う。		
		13週	アクチュエータの設計技術(1)		代表的なマイクロアクチュエータおよびその駆動原理を理解する。		
		14週	アクチュエータの設計技術(2)		静電駆動型アクチュエータの設計方法について理解する。		
		15週	アクチュエータの設計技術(3)		静電駆動型アクチュエータの設計を行う。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	40	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0